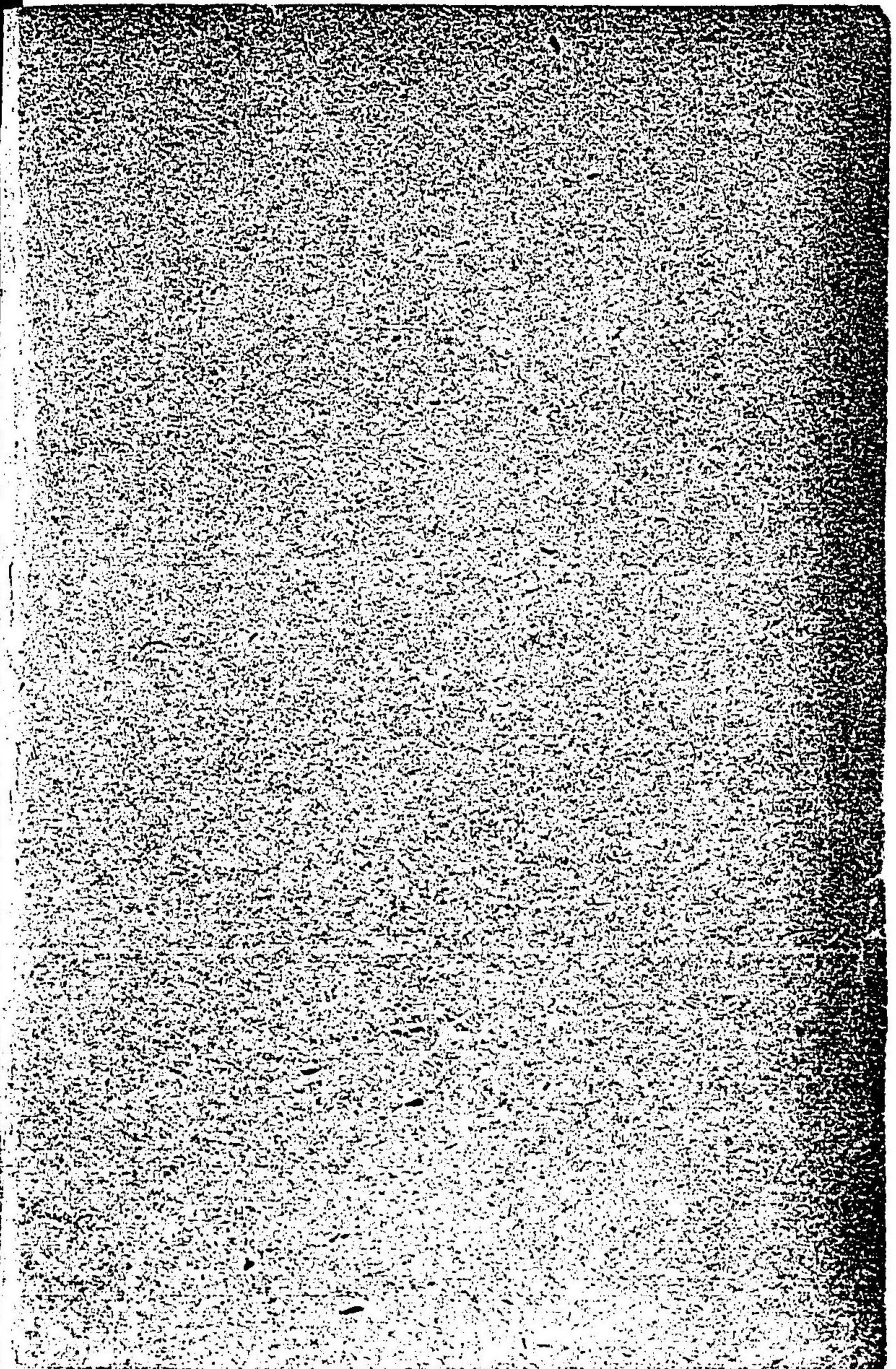


94  
104

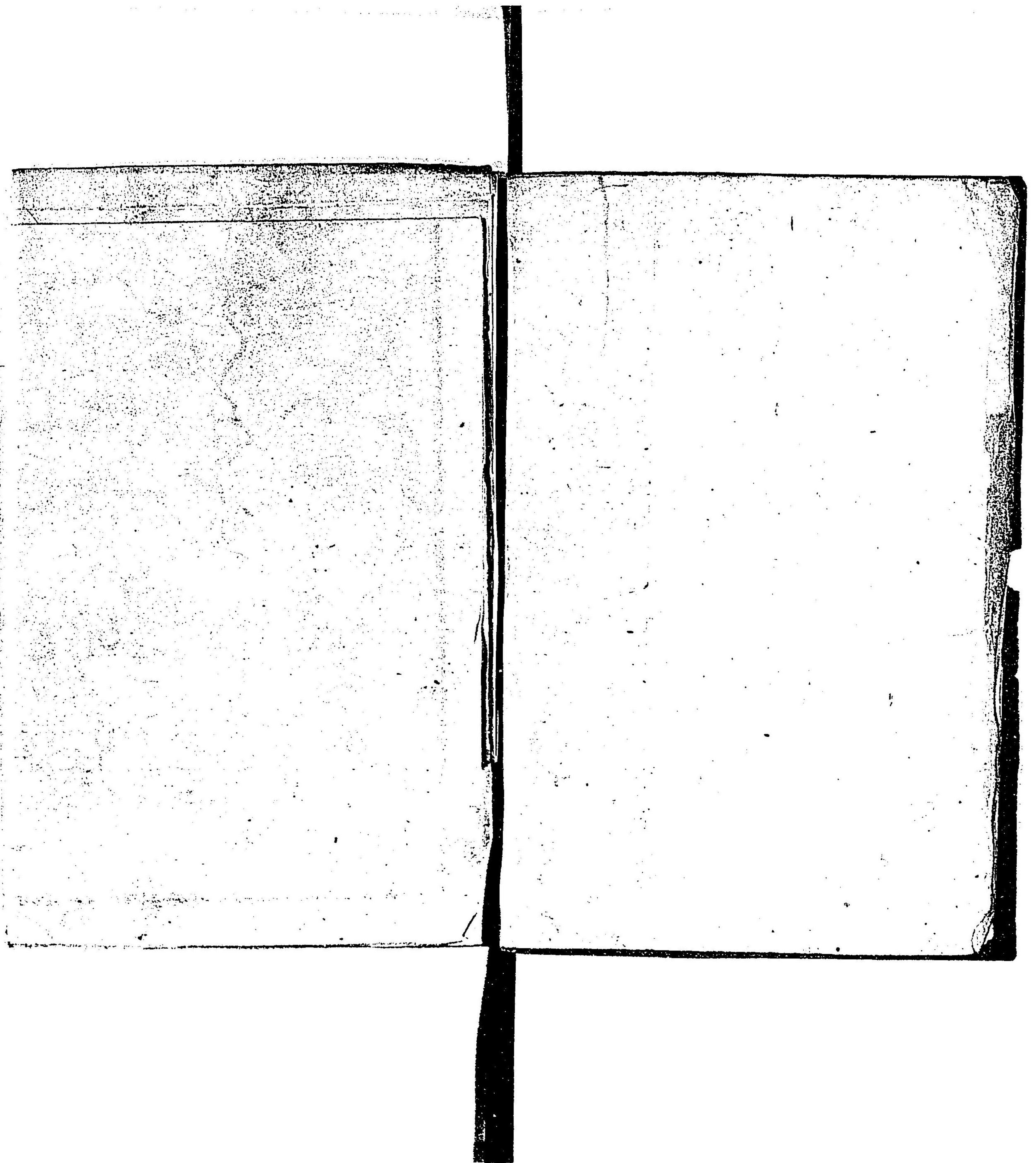


# 奈良名勝誌

附大和名勝







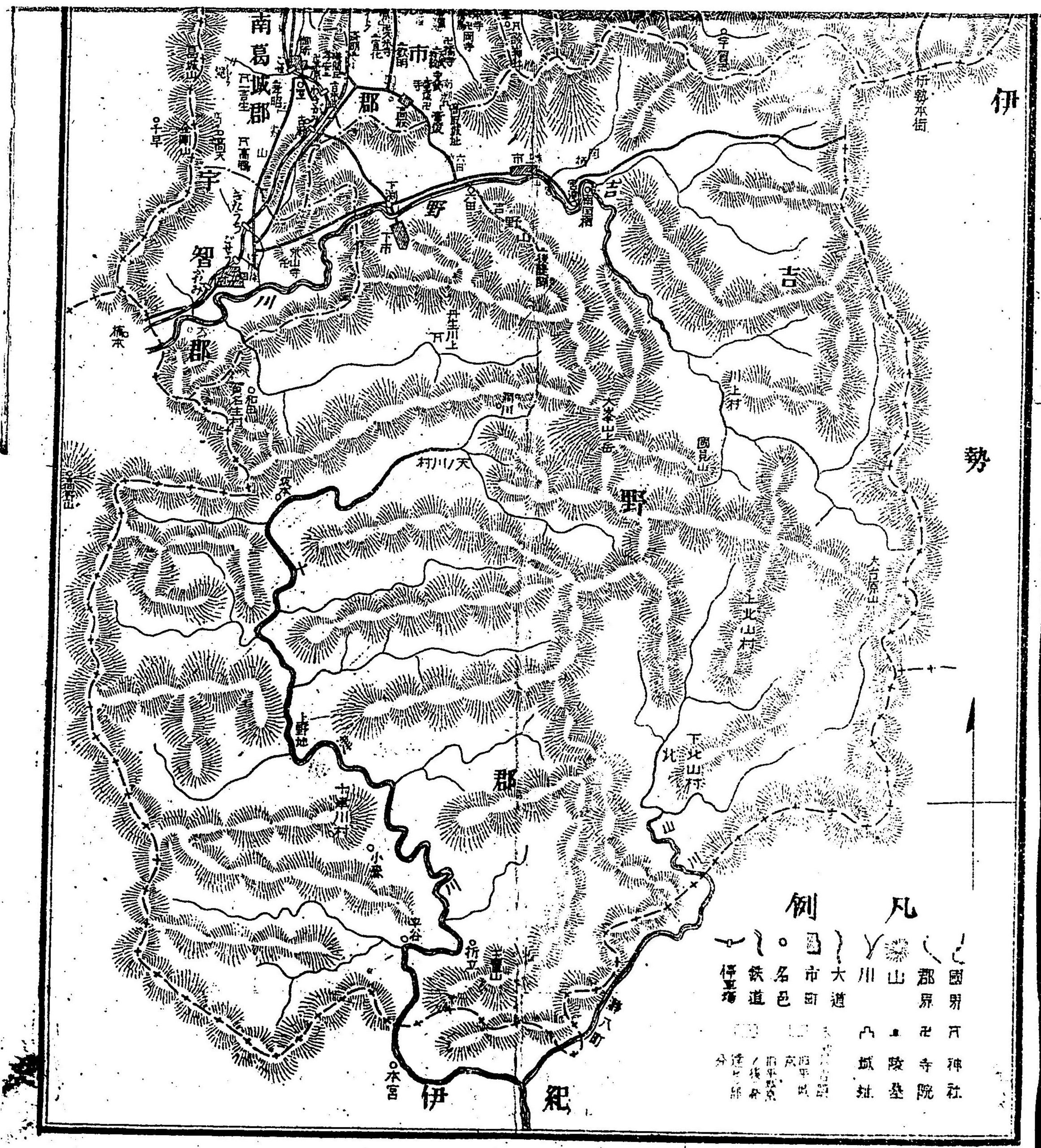


# 大和名勝地圖



城山  
宇  
賀  
宇  
伊  
河  
内  
智  
川





伊

勢

伊 紀

- 凡例
- |   |    |    |    |    |    |
|---|----|----|----|----|----|
| ○ | 市  | 市町 | 山  | 郡界 | 國界 |
| — | 名色 | 大道 | 川  | 寺  | 神社 |
| — | 鐵道 | 鐵道 | 城址 | 陵墓 |    |
| — | 橋  | 橋  |    |    |    |



# 奈良市及佐保村東部略圖



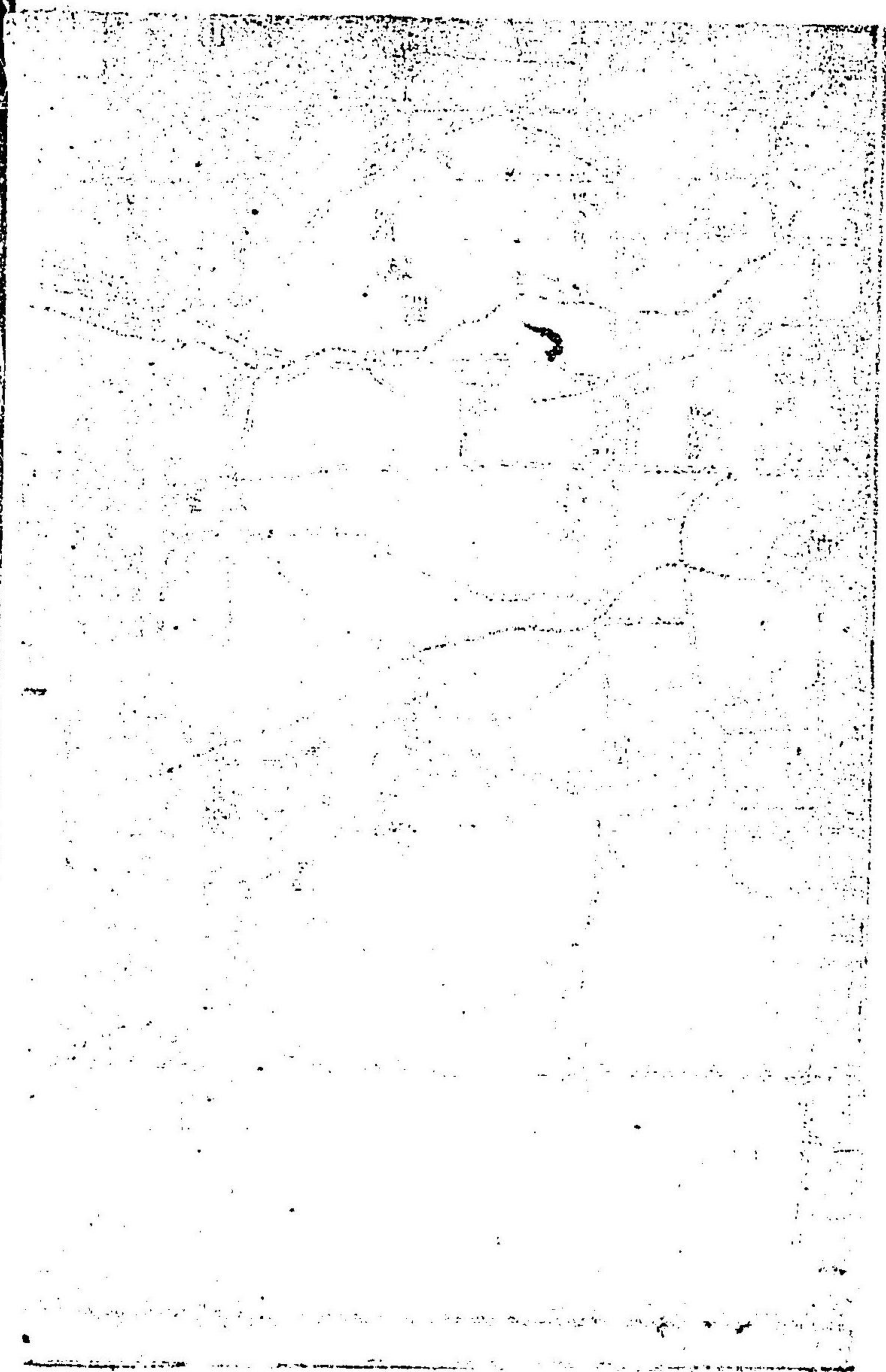
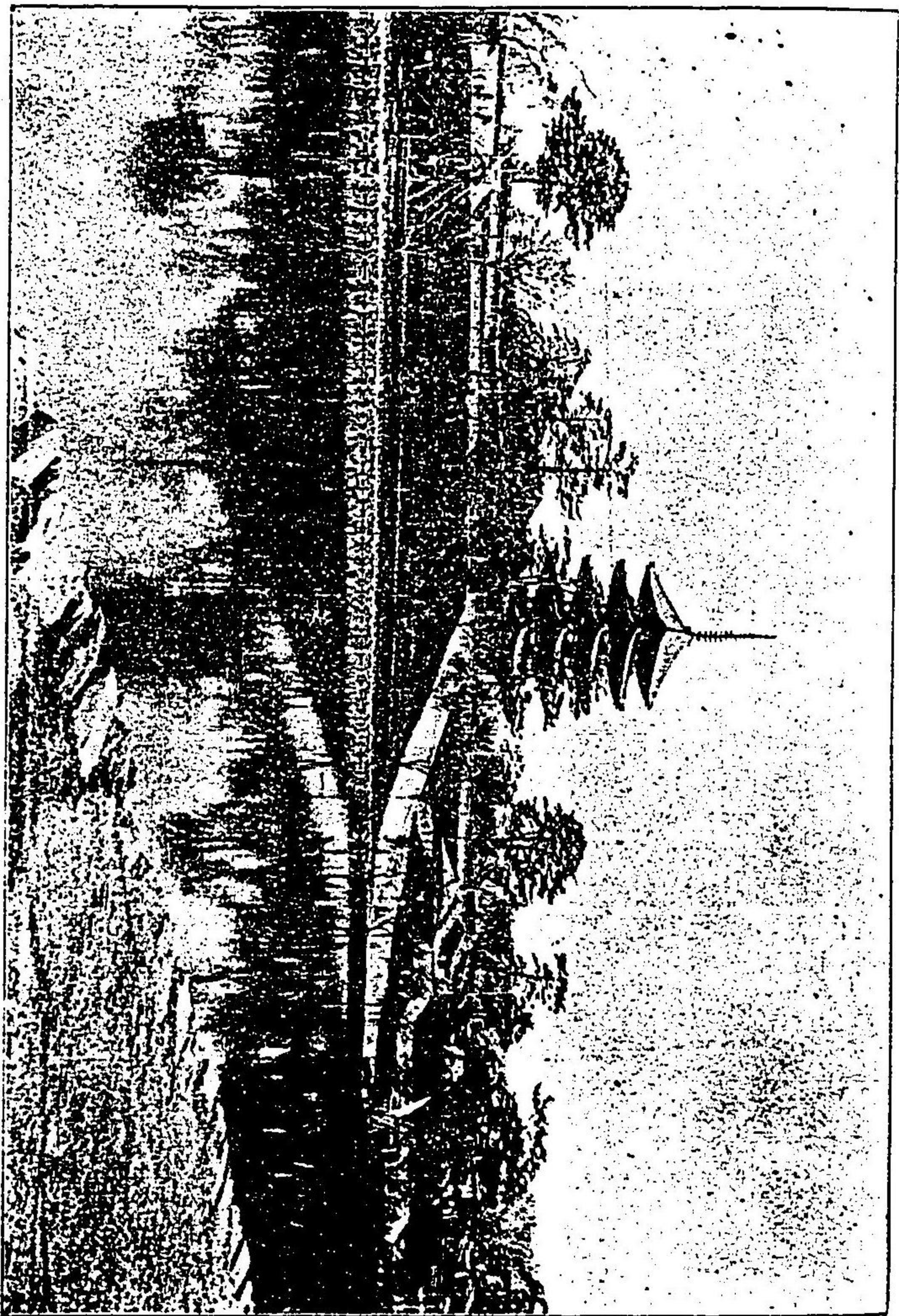


及佐保略圖  
村東部

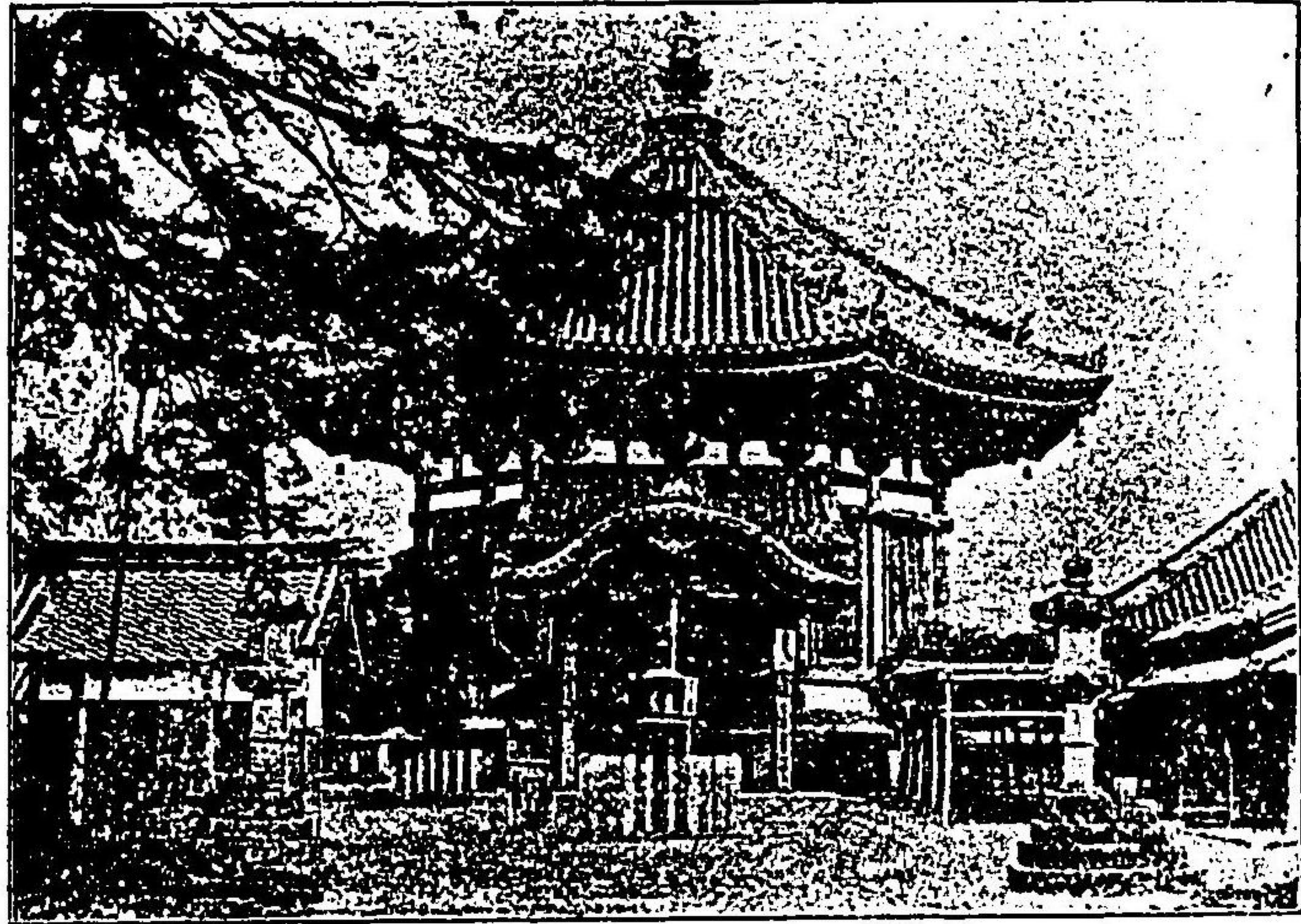




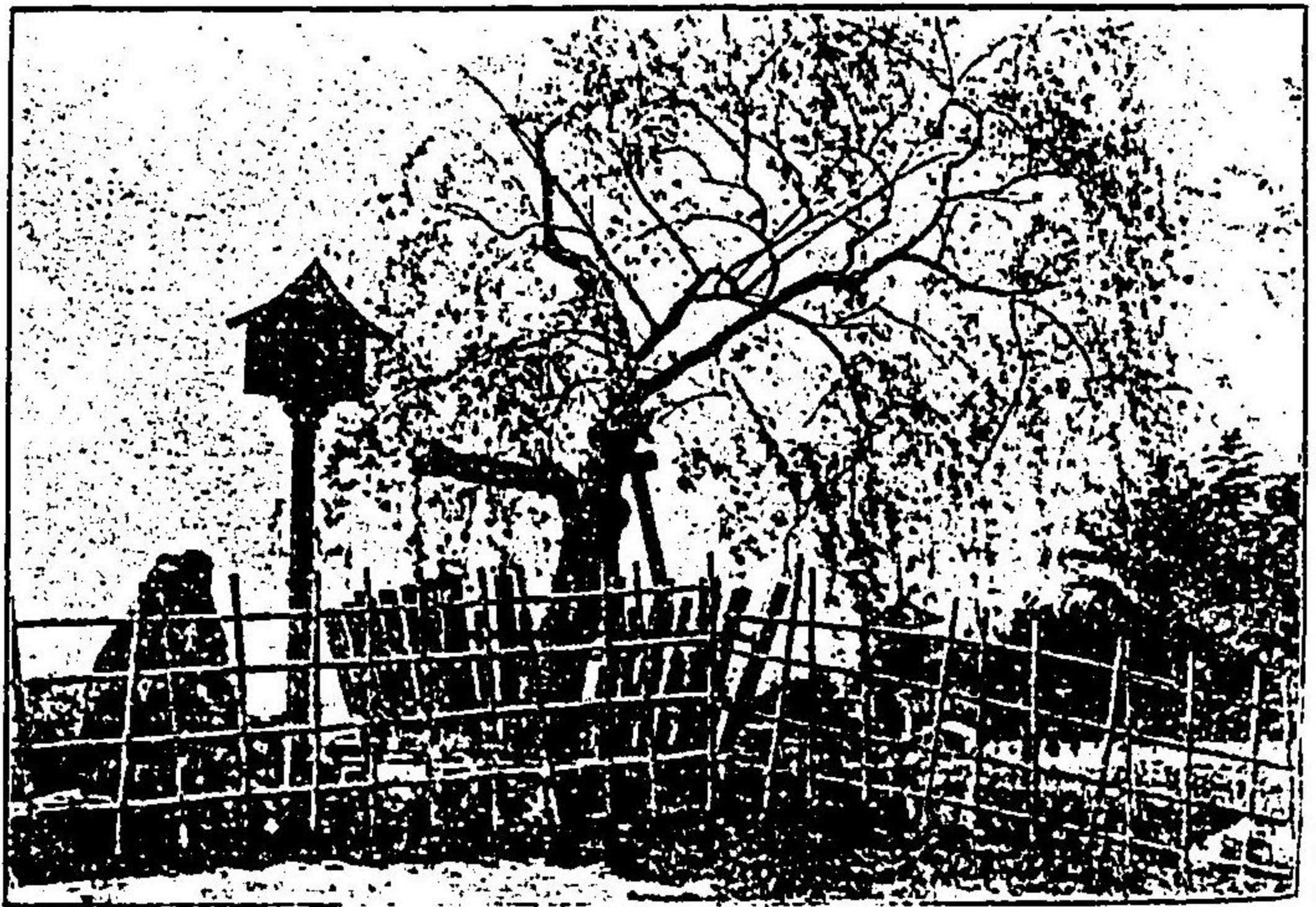
近 附 池 潭 猿





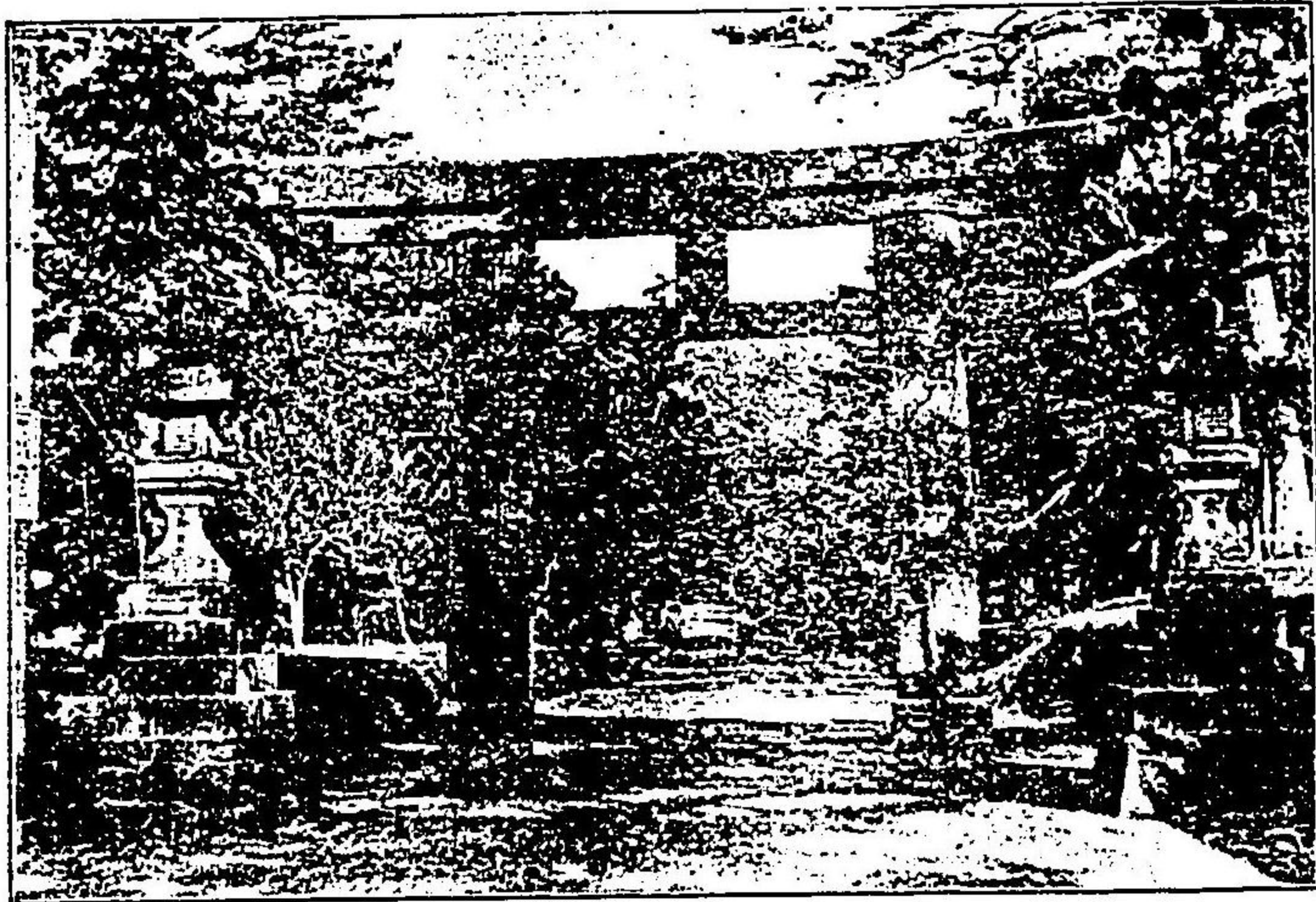


南 圓 堂

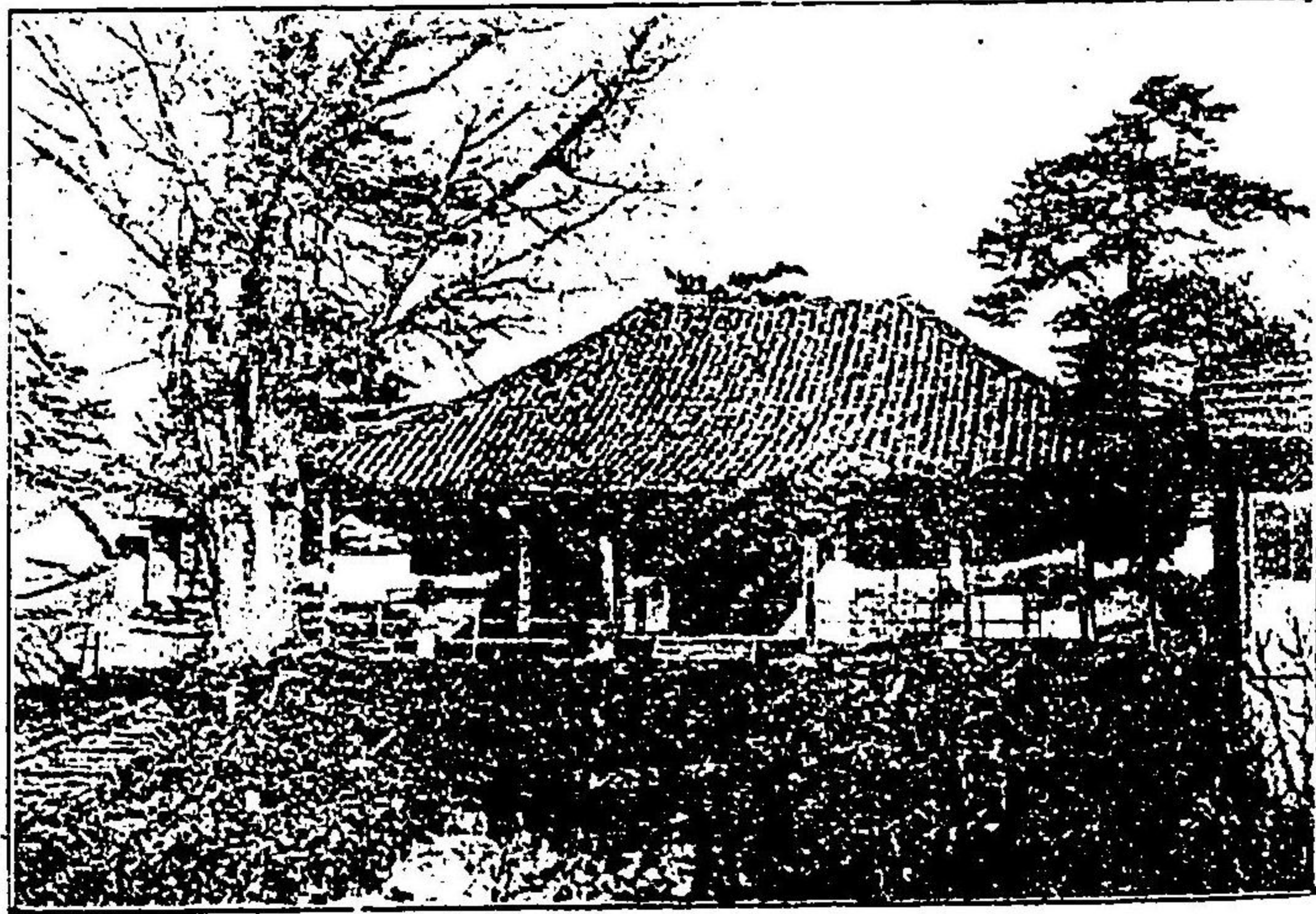


衣 掛 柳





春日の鳥居



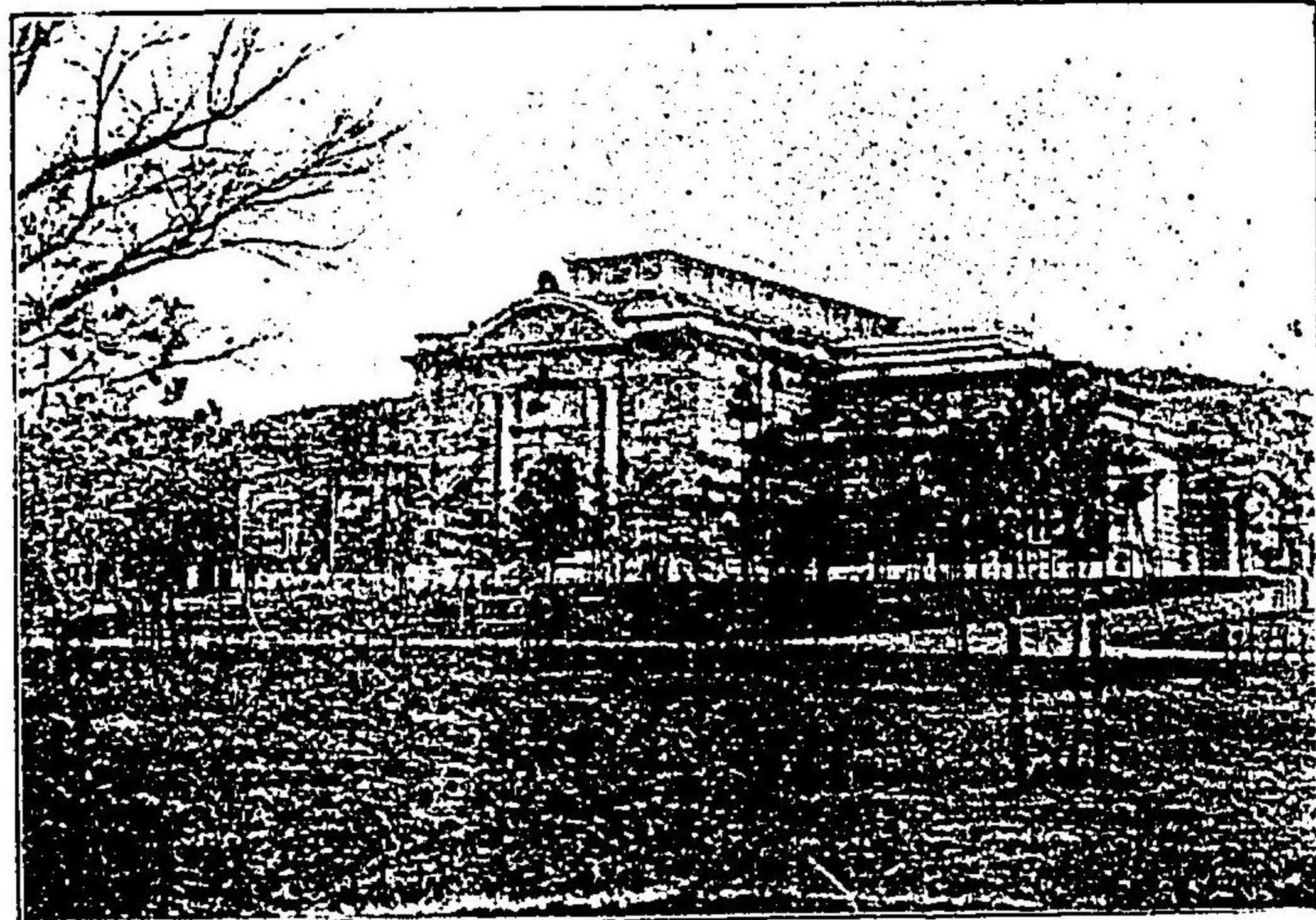
石子詰



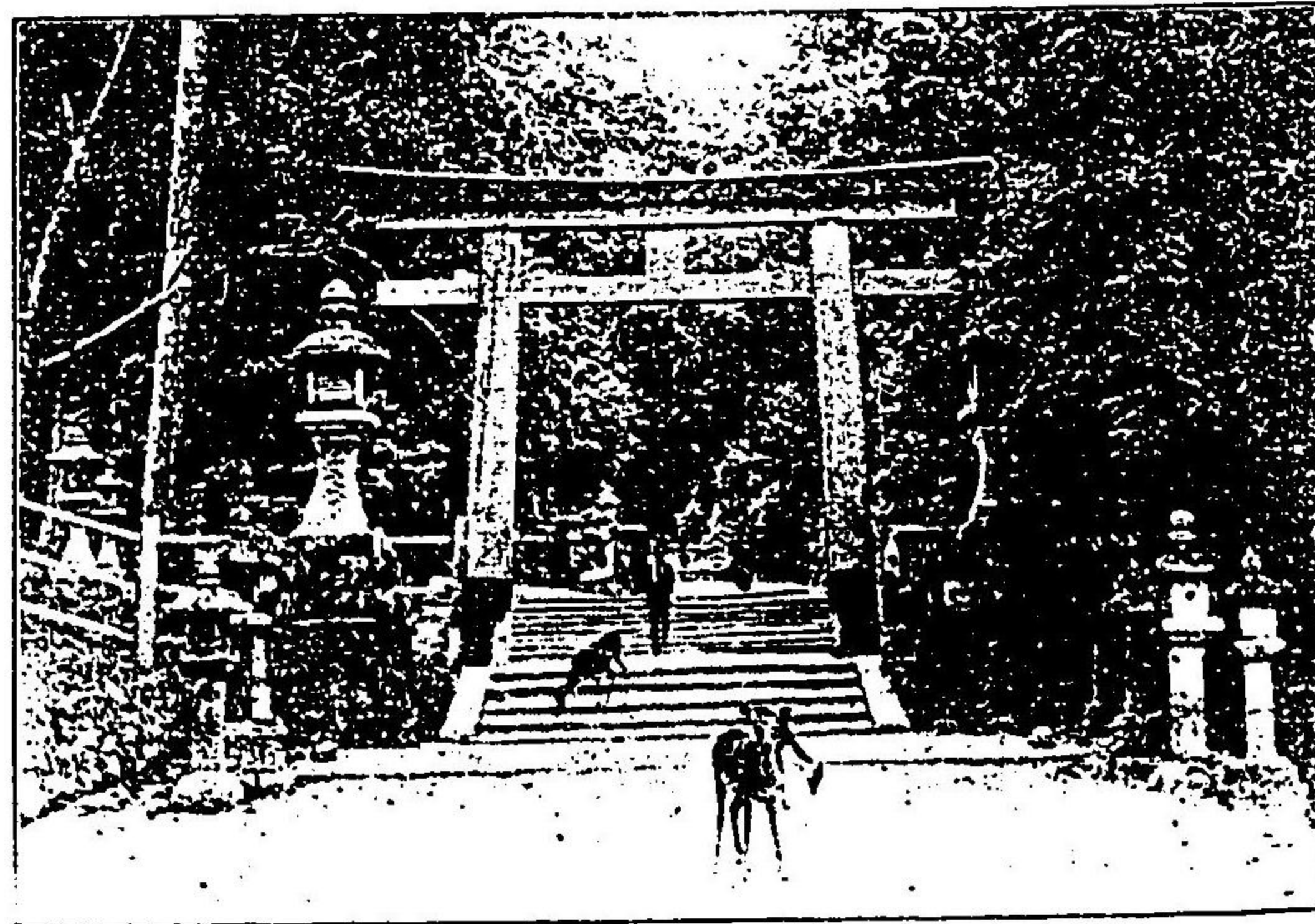
鹿 神 の 日 春





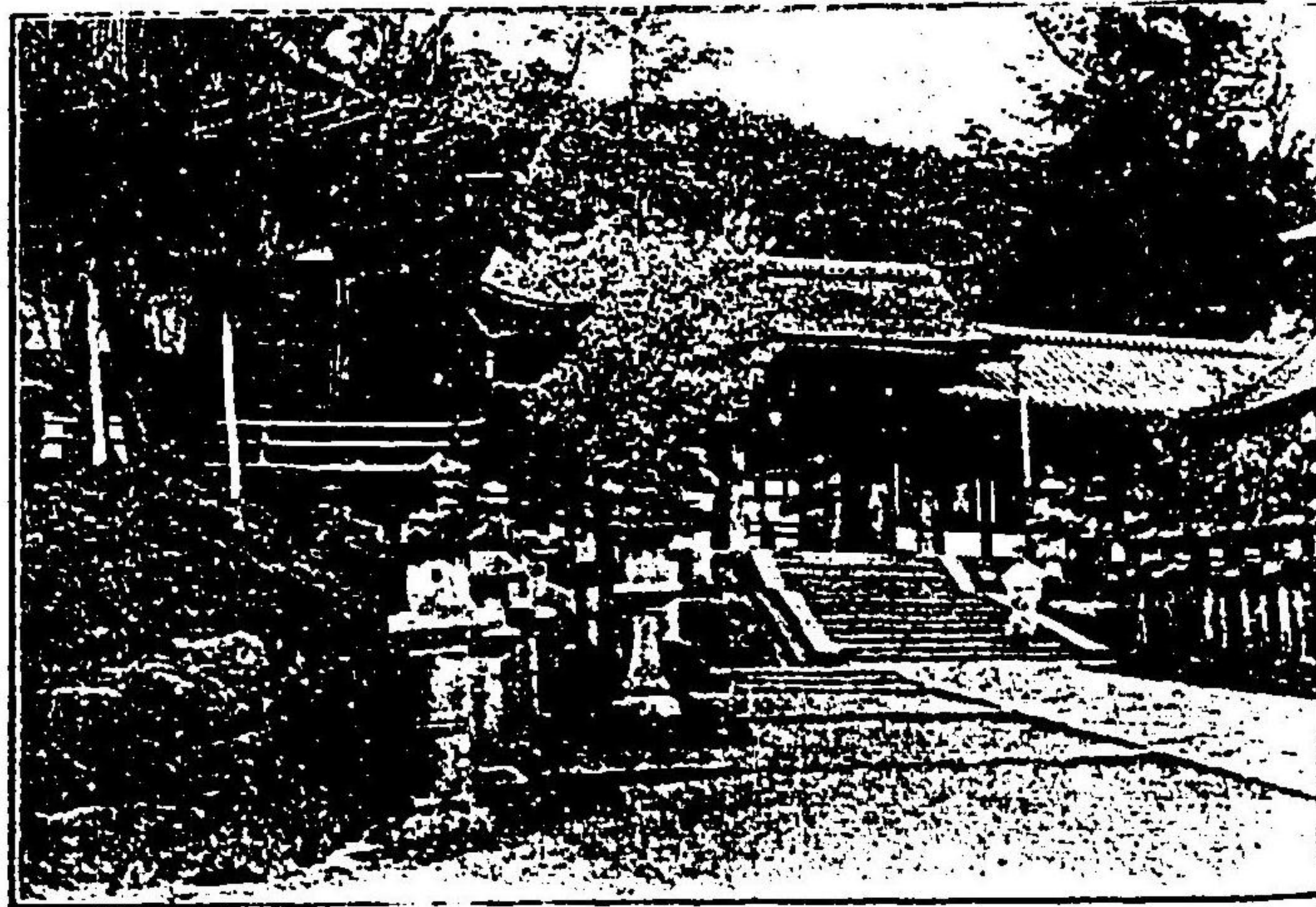


帝 國 博 物 館



春 日 二 鳥 居

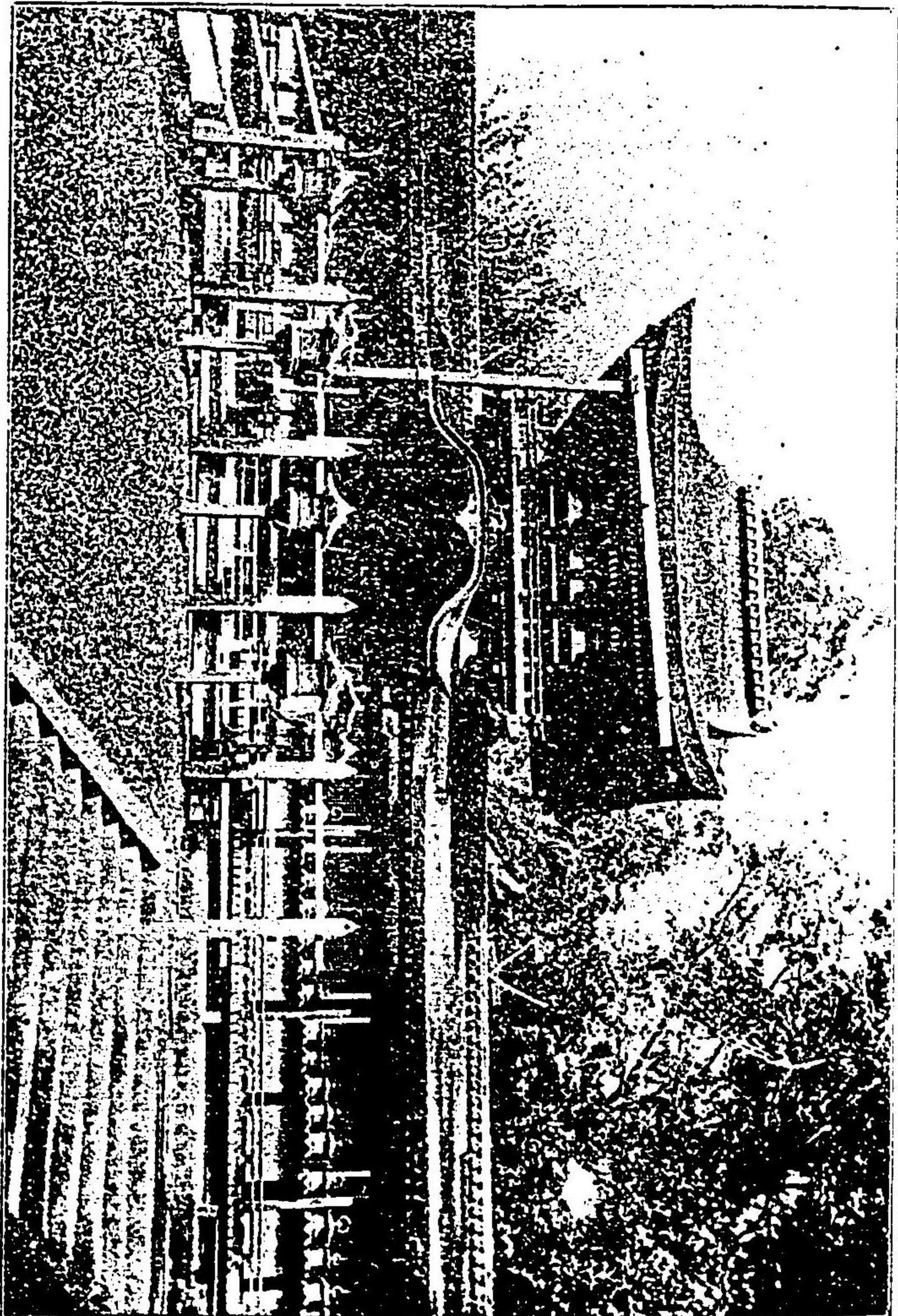




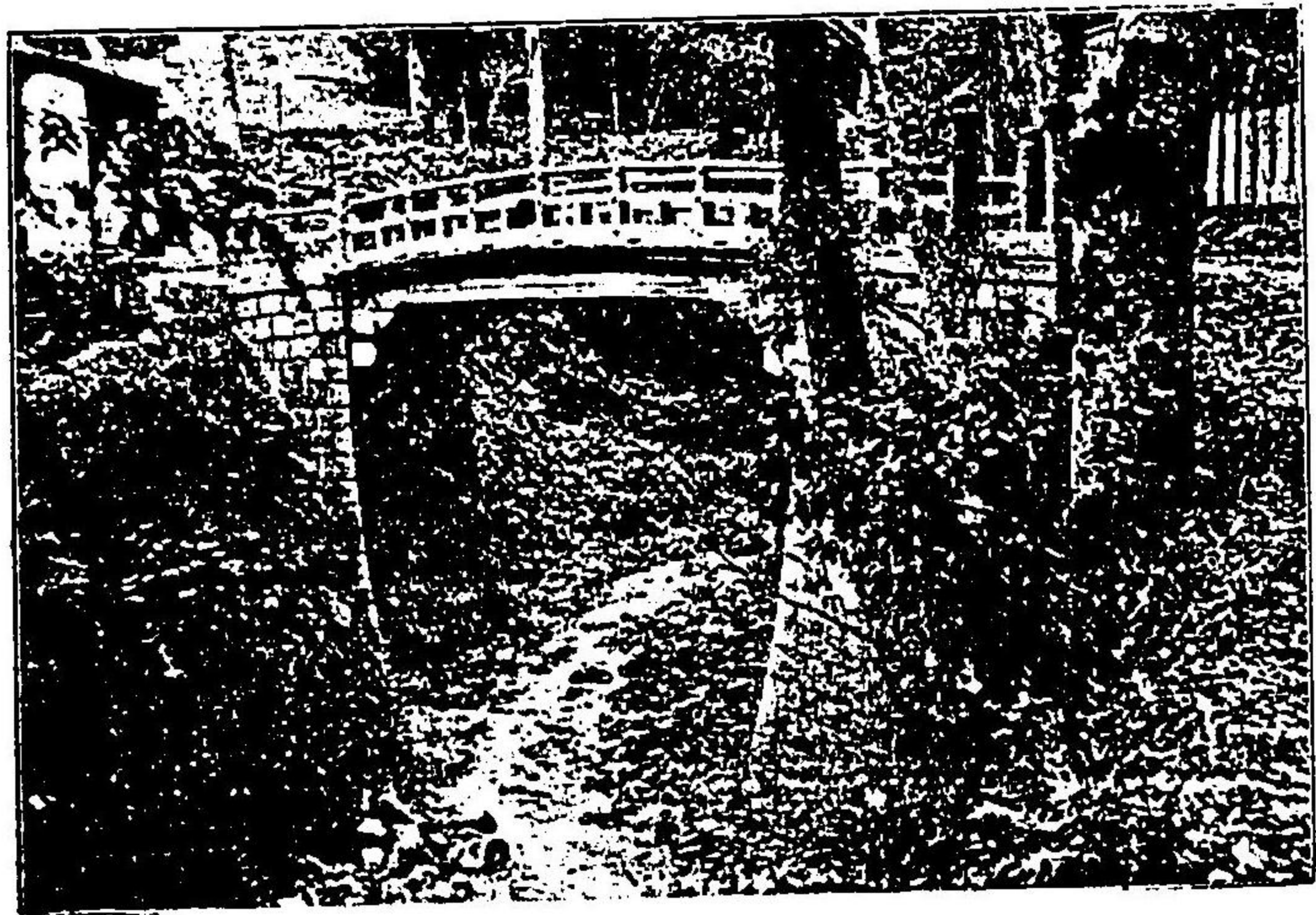
門 西 社 日 春



社 神 日 春







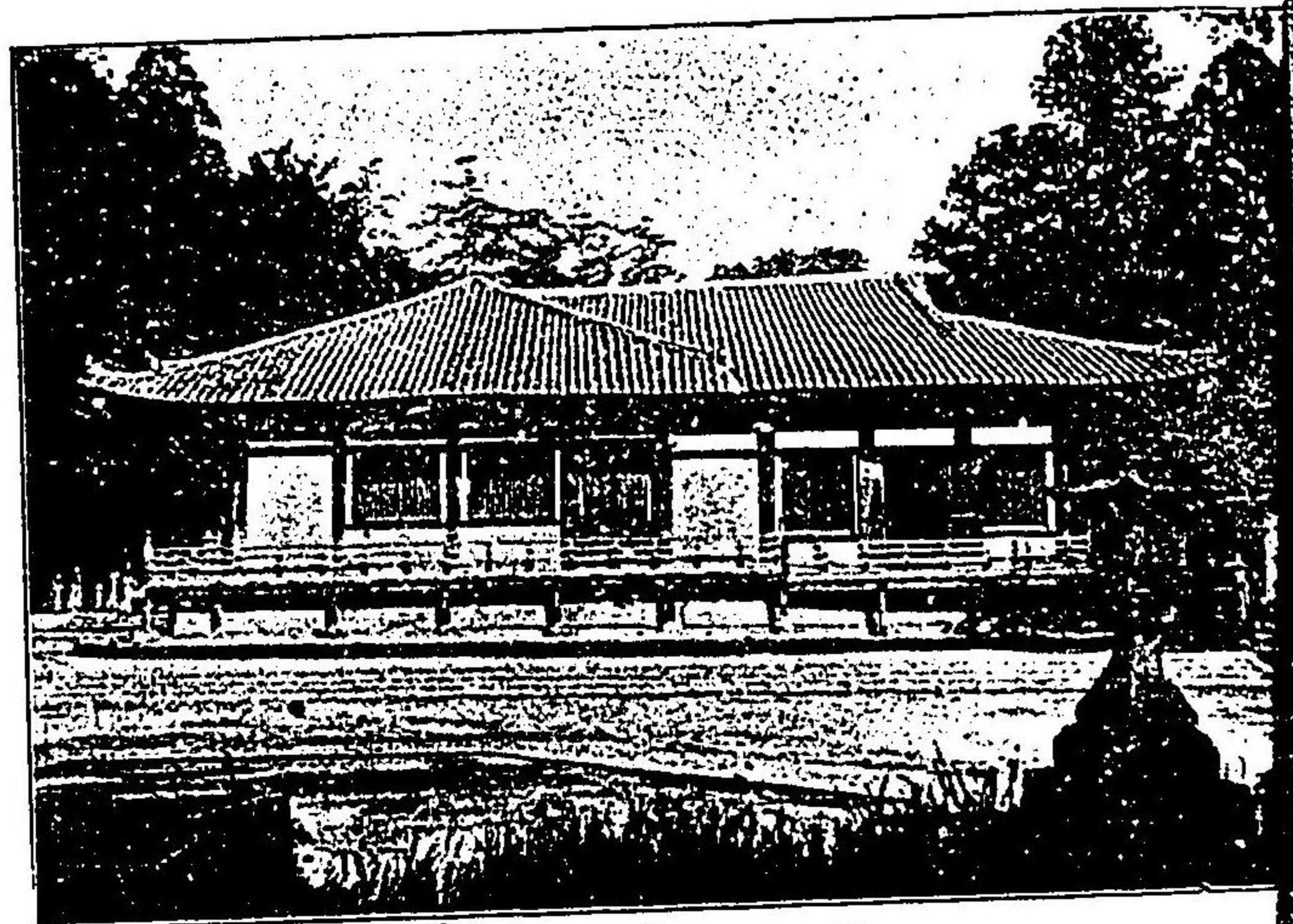
水 谷 川 附 近



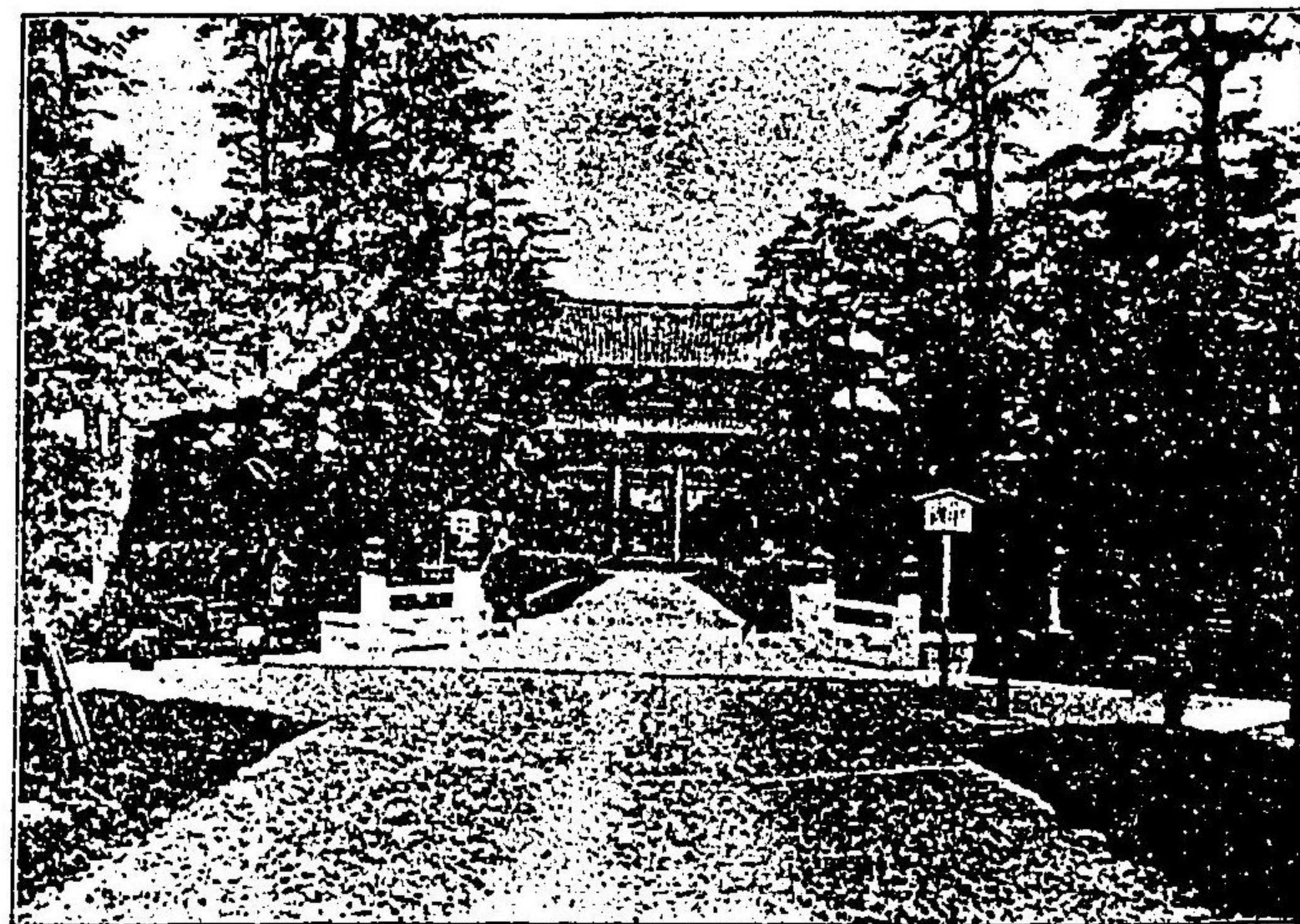


山 草 嶺



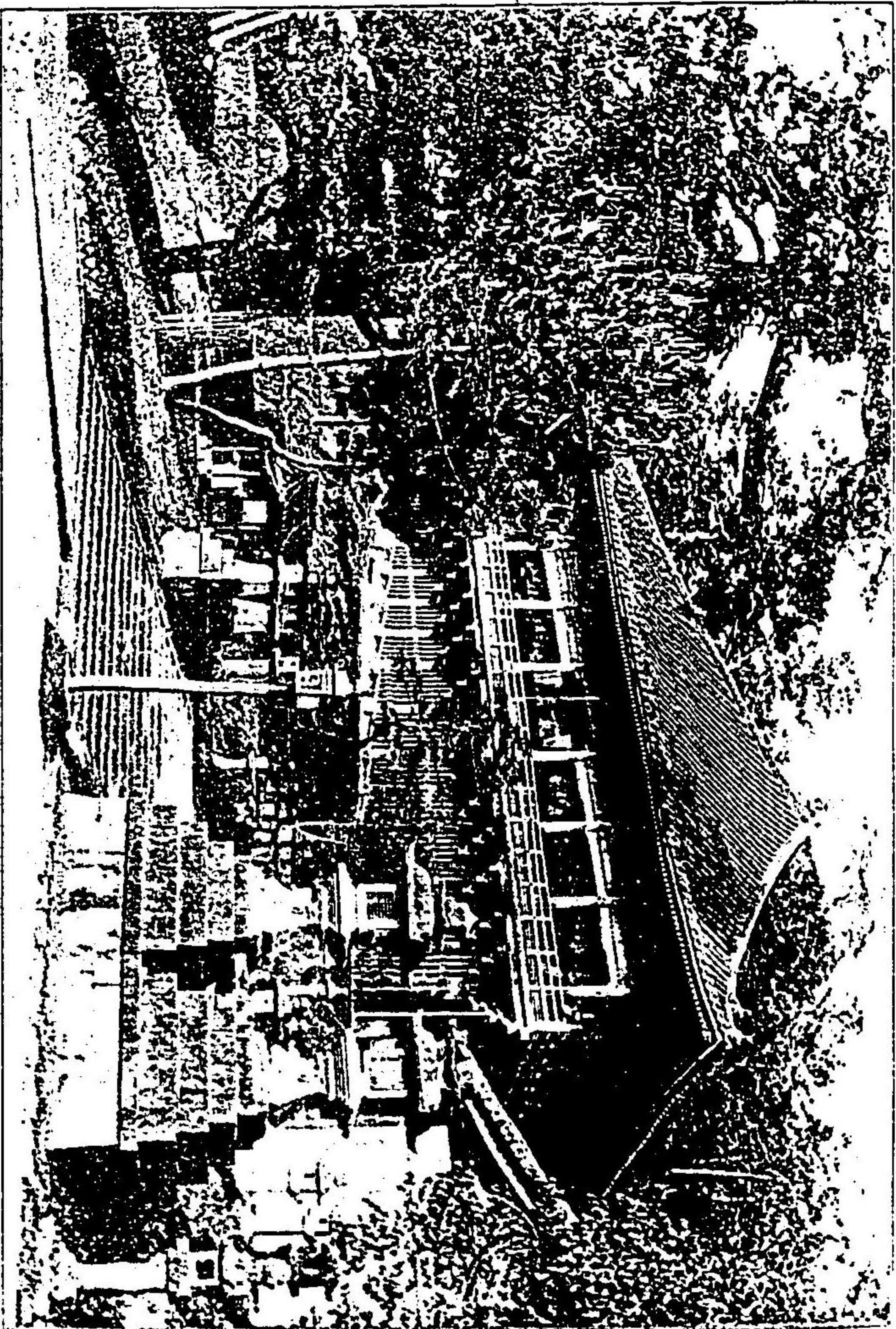


三 月 室



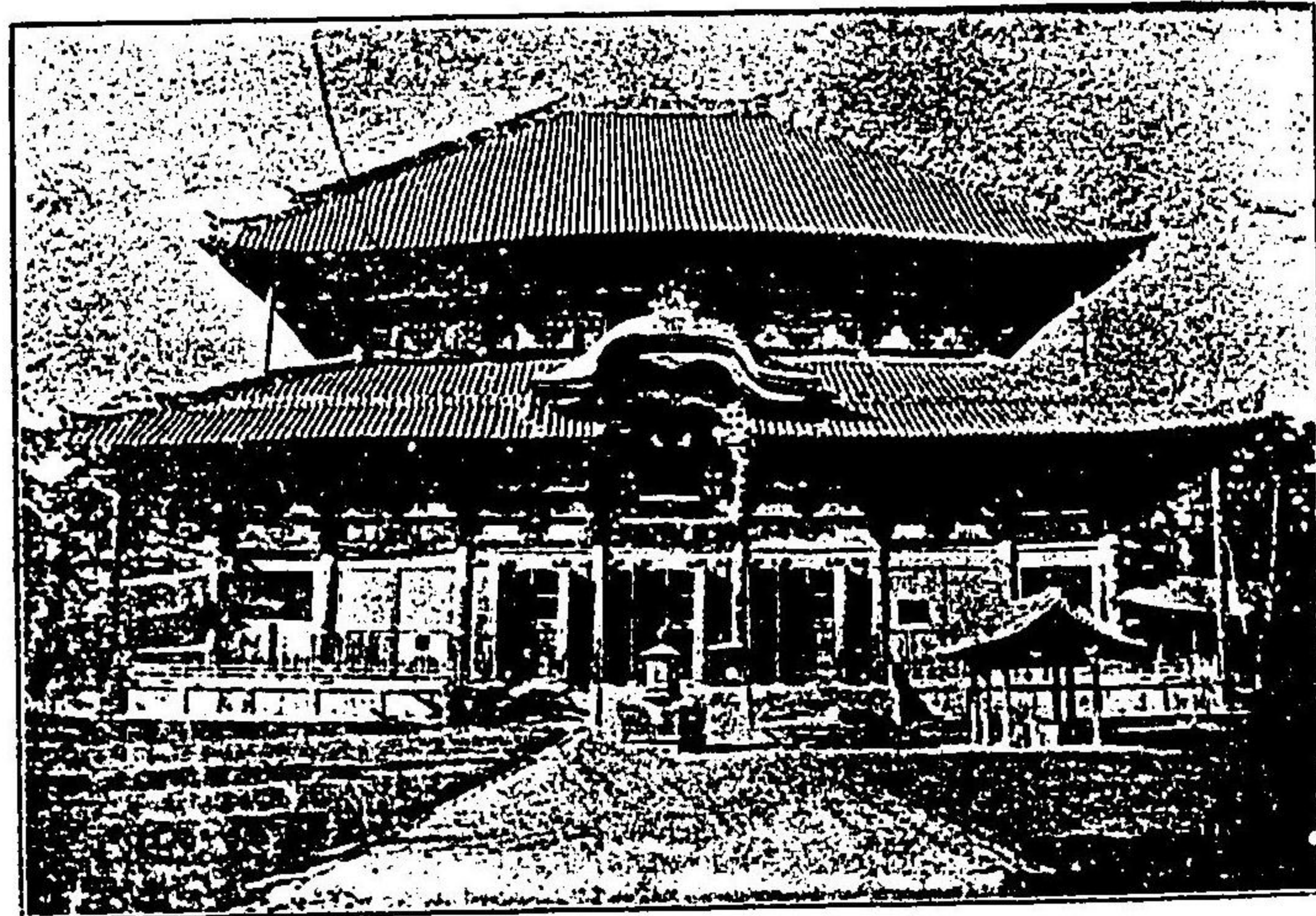
東 大 寺 南 大 門



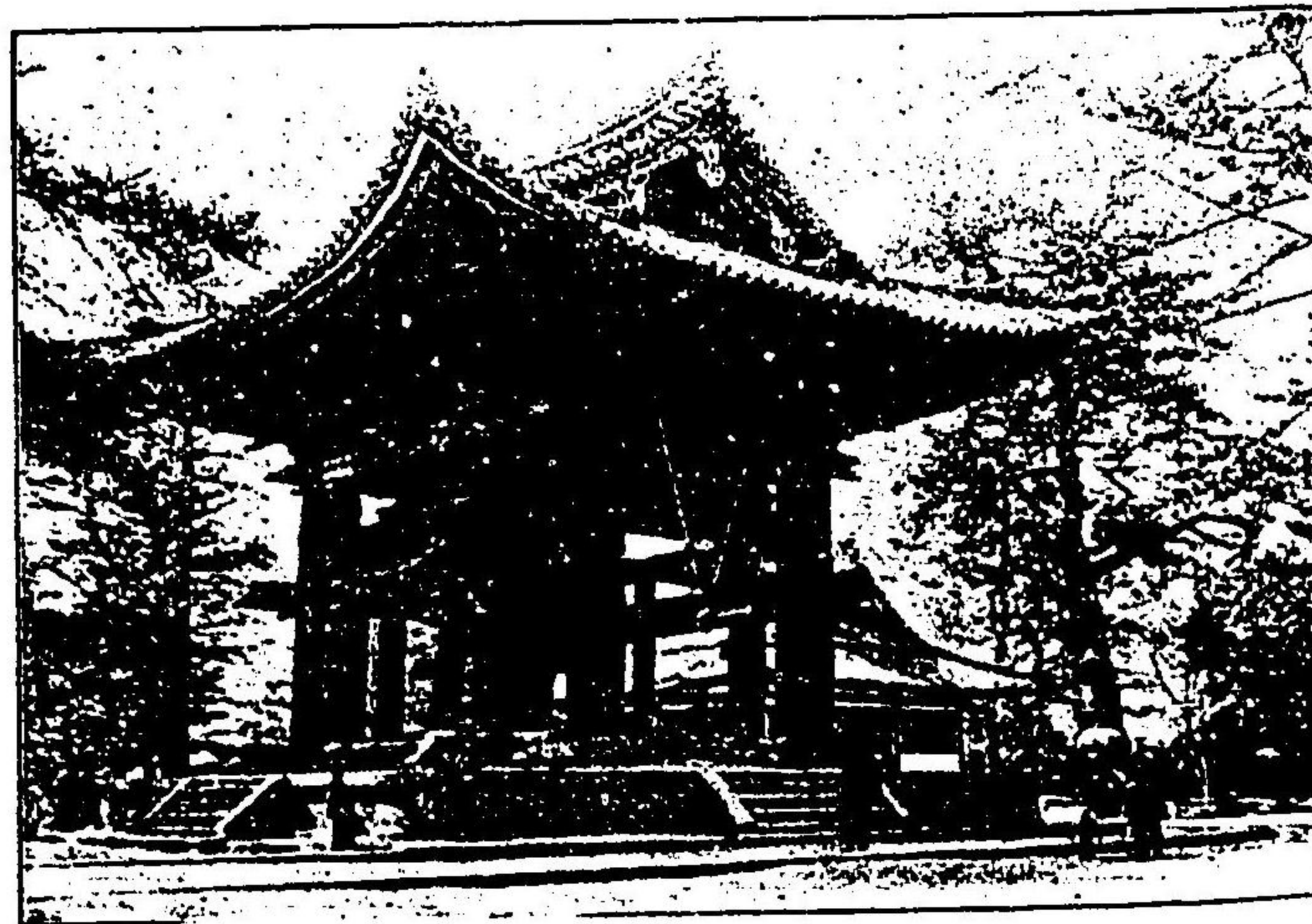


堂 月 二





大佛堂



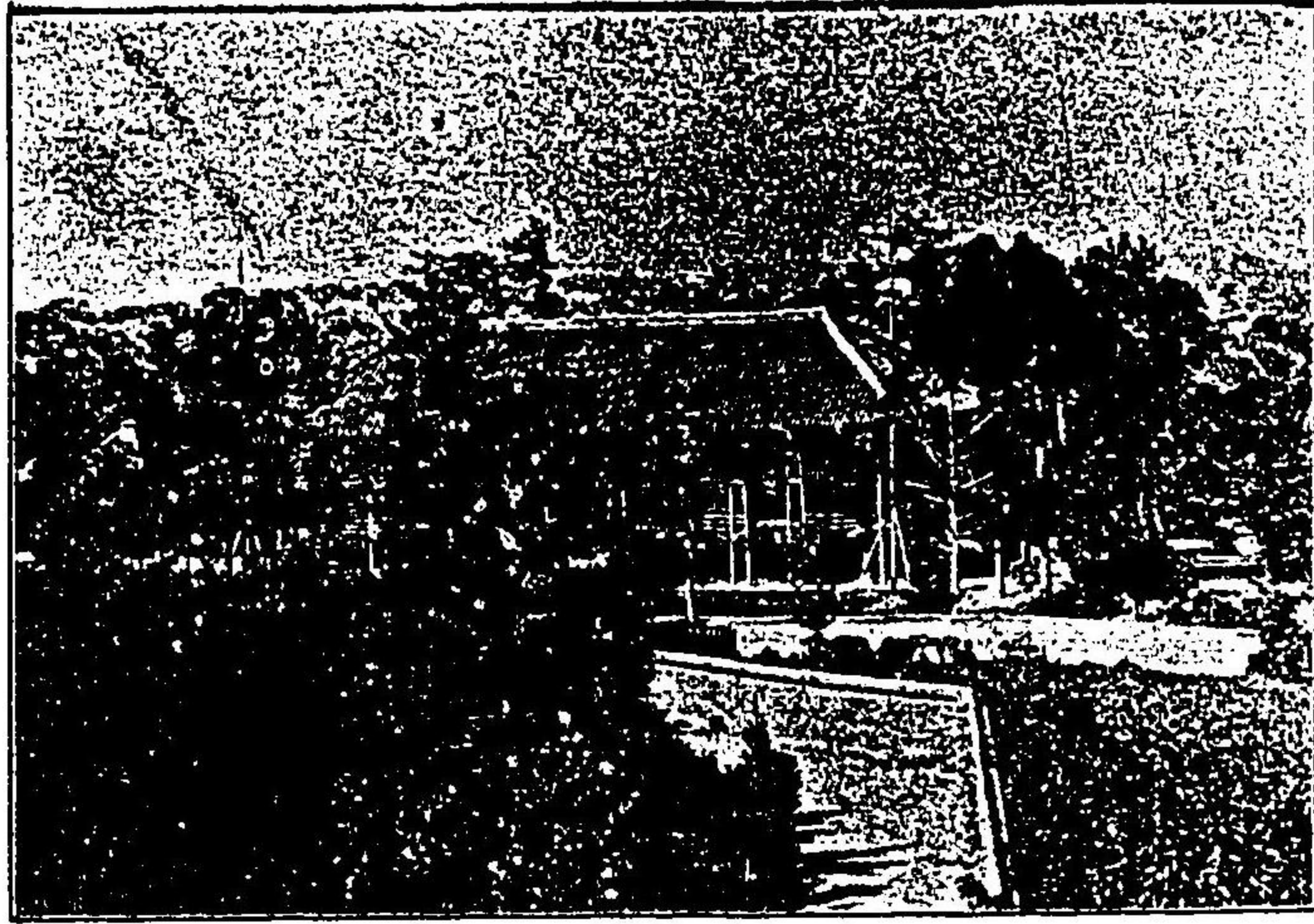
大佛鐘樓





佛 六



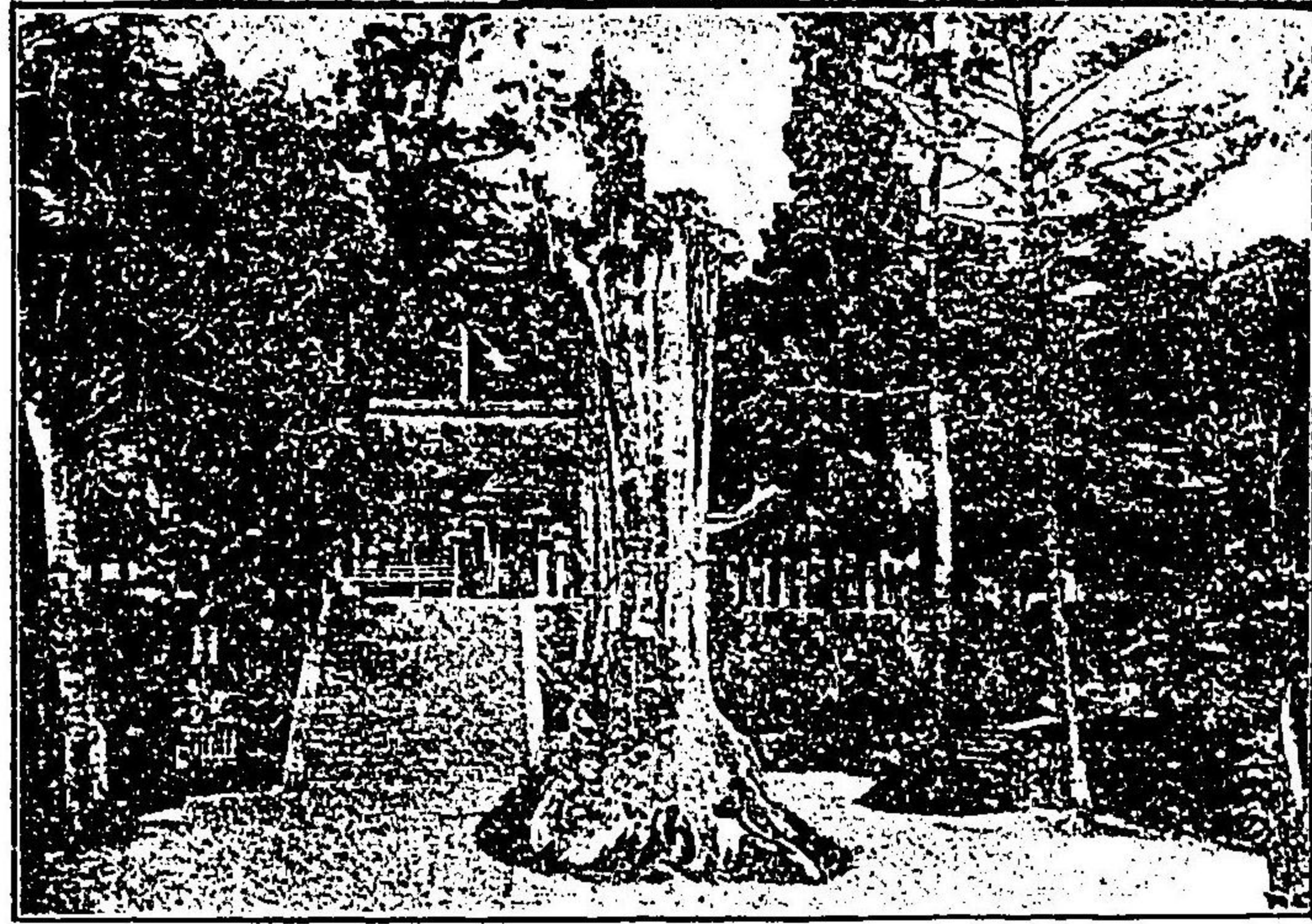


正 倉 院

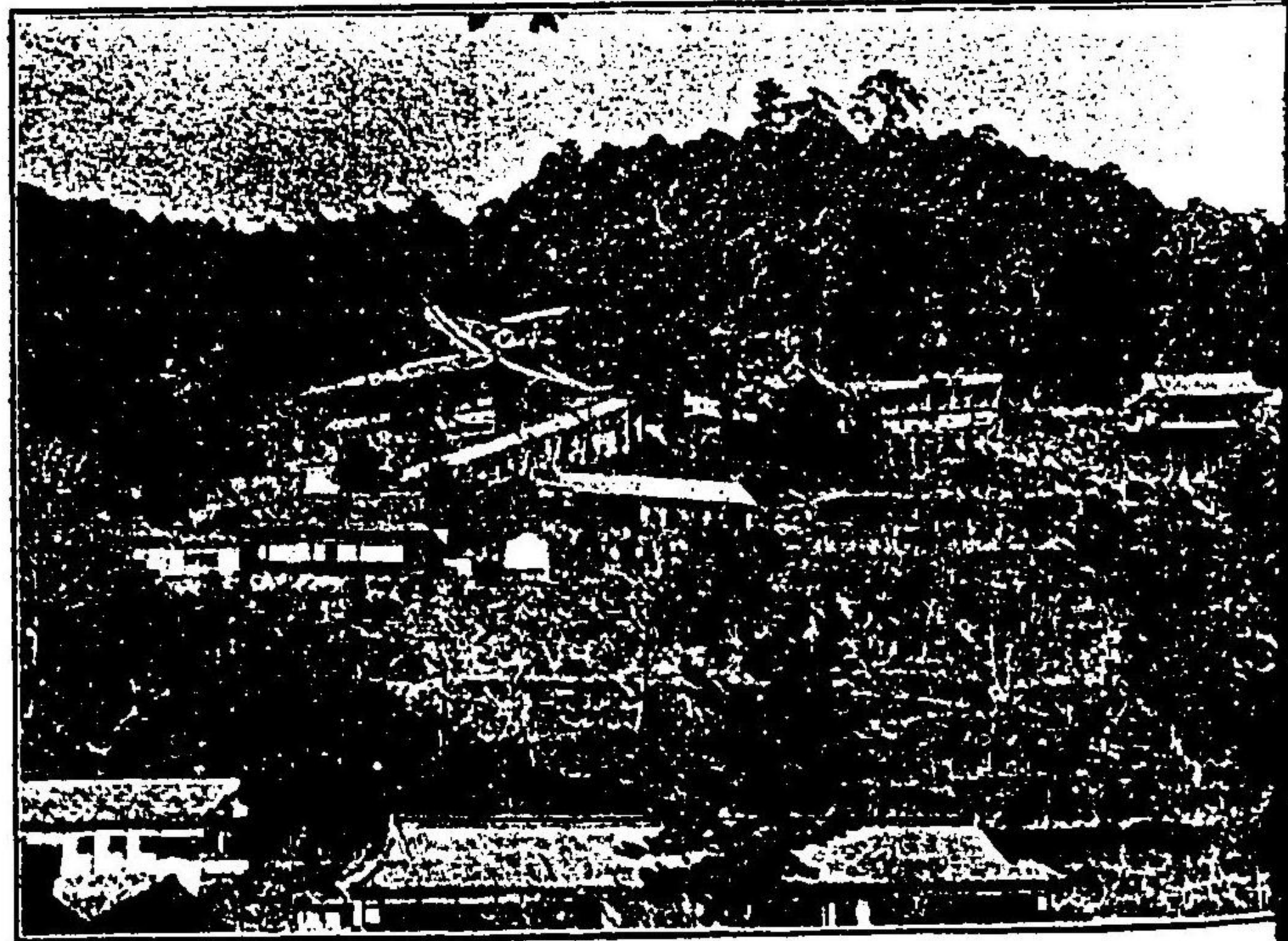


般 若 寺





三輪神社



長谷寺





吉野山



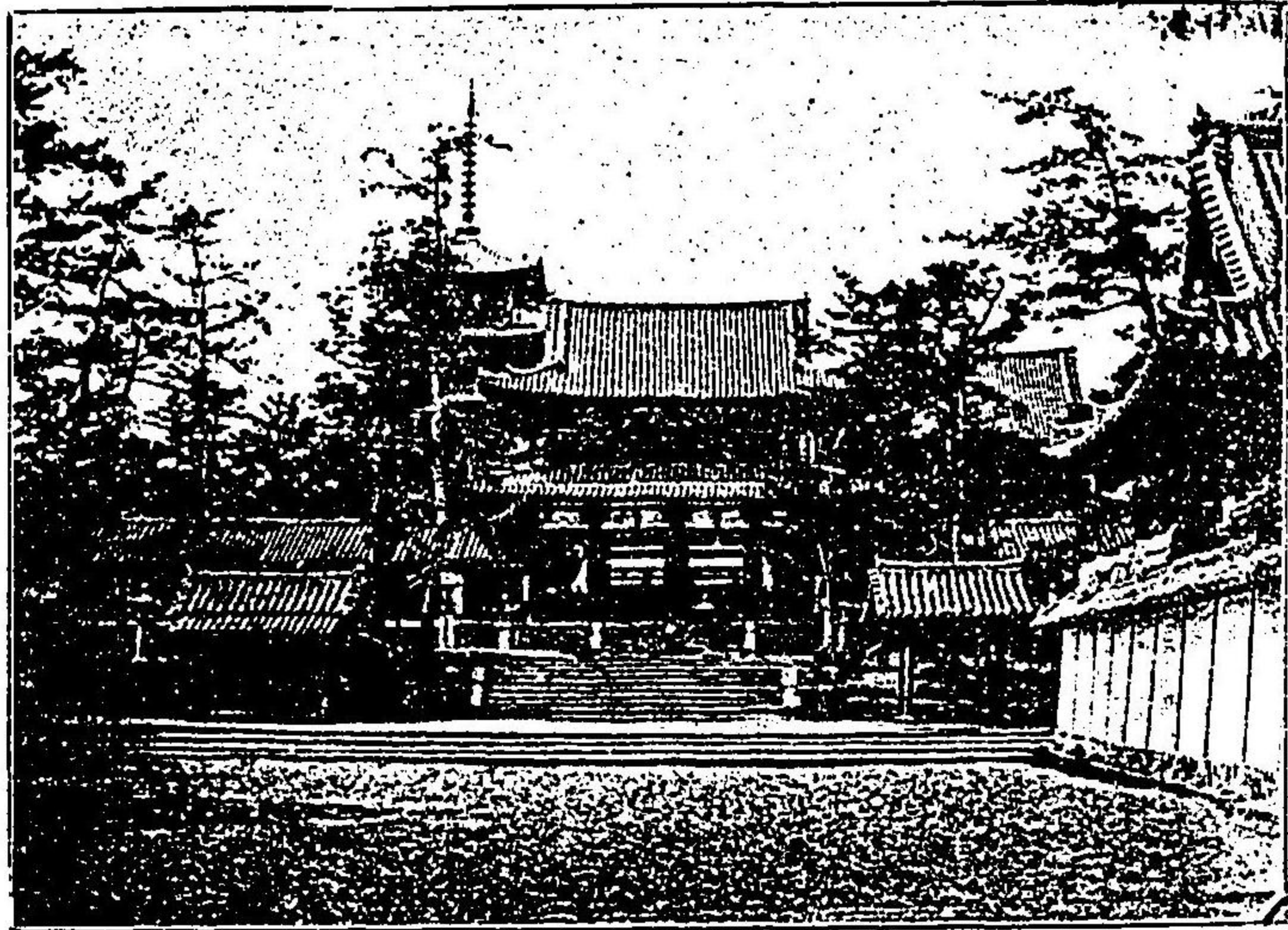
多武峯



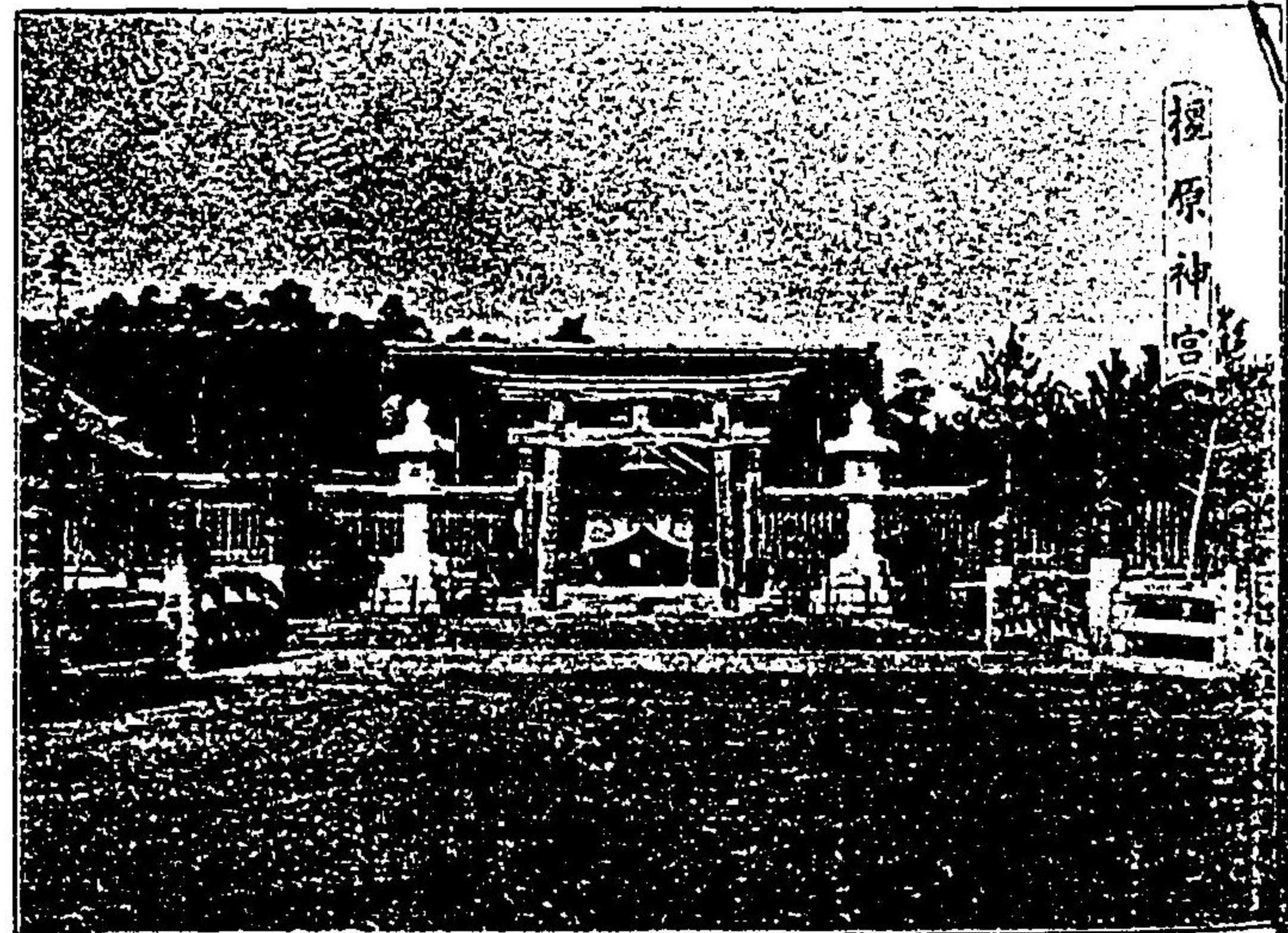


龍田の紅葉





寺 隆 法



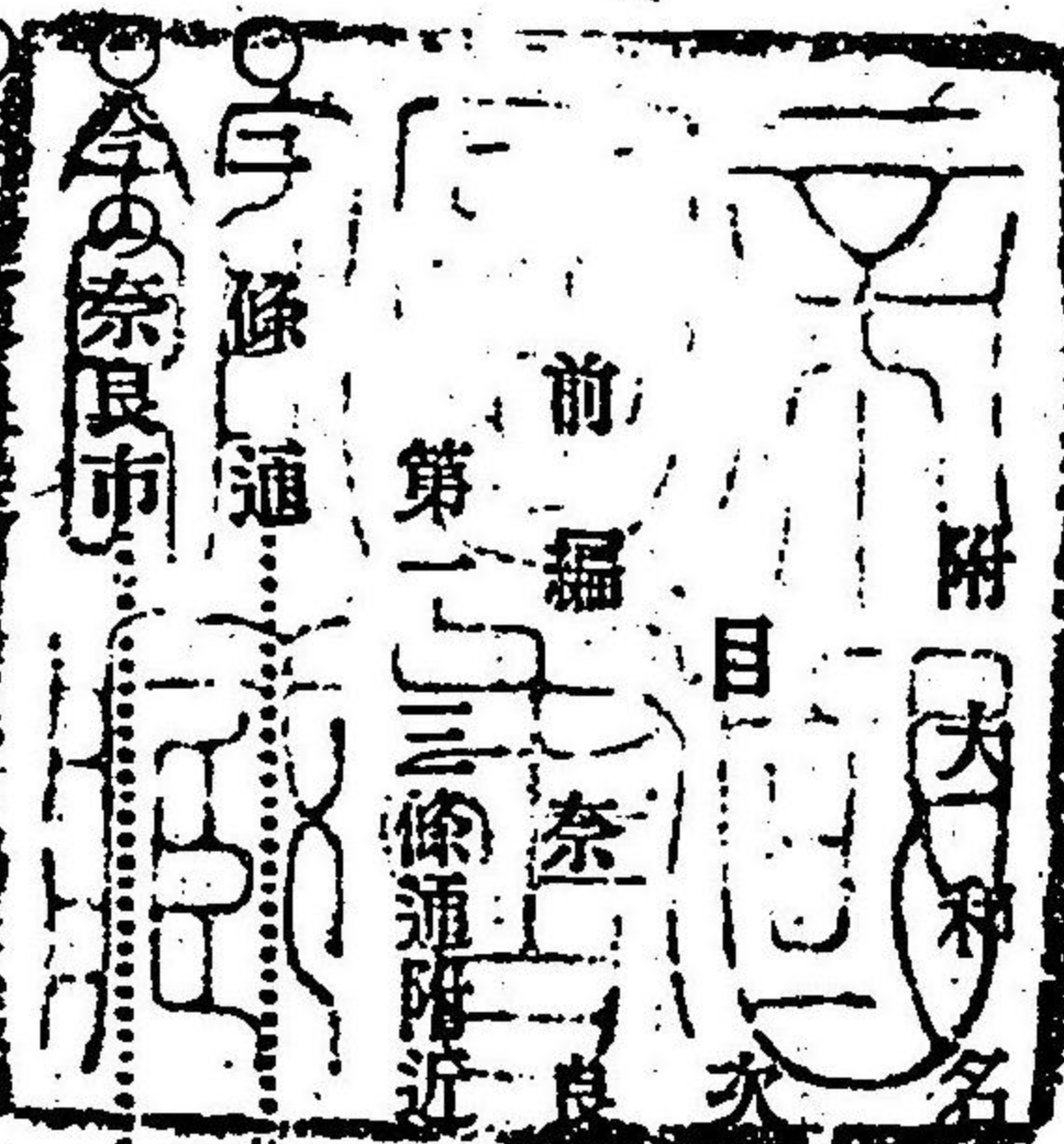
社 神 原 櫻



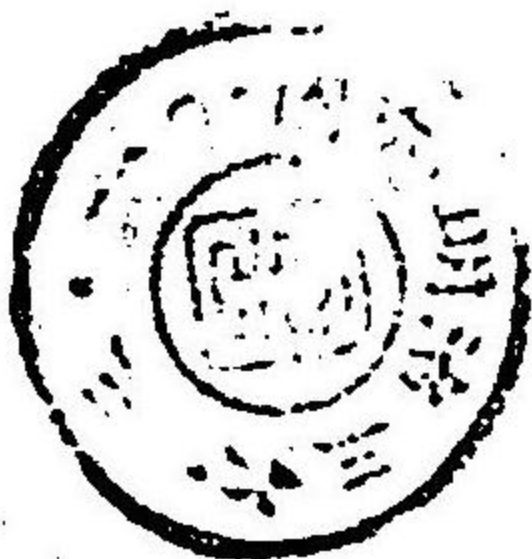
94-107

奈良名勝誌

勝



- 宇條通……………一頁
- 今の奈良市……………二
- 開化天皇陵……………二
- 率川神社……………三
- 春日といふ名稱……………三
- 第二 興福寺附近……………





○猿澤池、采女社、衣掛柳……………四

○幸川……………五

○五十二段……………六

○奈良公園……………六

○興福寺……………六  
寺務所、三重塔、南圓堂、龍華院、銅燈臺、銅塔、白麿、北圓堂、南大門址、  
 金堂、東金堂、五重塔、大湯屋、

○菩提院……………二

○八重櫻……………三

○一乘院址、大乘院址……………三

○奈良帝室博物館……………四

○奈良縣師範學校……………四

第三 春日神社附近

○添上郡役所……………一四

○奈良縣廳……………一四

○奈良地方裁判所……………一五

○奈良豫備學校……………一六

○奈良市高等小學校……………一六

○春日野……………一六  
丸蔥、片岡

○淺茅原……………一七

○春日東西兩塔の址……………一七

○飛火野古址……………一七

○馬出橋……………一七



- 春日若宮御旅所……………一八
  - 奈良縣物産陳列所……………一八
  - 雪消澤……………一八
  - 車舍……………一九
  - 二鳥居……………一九
  - 祓戸神社……………一九
  - 燈籠……………一九
  - 春日若宮……………一九
  - 春日神社……………二〇
- 廻廊、七色木
- 春日山……………二一
  - 三笠山……………二一

第四 東大寺附近

- 嫩草山……………二二
  - 手向山……………二三
  - 武藏野……………二三
  - 手向山八幡神社……………二三
  - 東大寺……………二四
- 東南院、南大門、吉城川、眞言院、東西兩塔址、鏡池、大佛殿中門、廻廊、東西樂門、大佛殿、大佛、燈籠、講堂址、鐘樓、念佛室、三昧堂、開山堂、閼伽井、瓦辨杉、三月堂、二月堂、大湯屋、帳禮門、中門址、御拜石、戒壇院、西大門址、
- 正倉院……………四〇
  - 京極大路、雲井坂、轟橋……………四二

第五 般若寺附近



- 般若寺.....四二
- 十三層石塔婆、樓門
- 藤原賴長墓.....四四
- 般若坂.....四四
- 奈良坂、古の奈良坂.....四五
- 奈良縣監獄署.....四五
- 北山十八間戸.....四五
- 佐保川.....四六
- 元明天皇陵.....四六
- 元正天皇陵.....四七
- 聖武天皇皇太子墓.....四七
- 多門城址.....四七

第六 猿澤池以南

- 仁正皇后陵.....四八
- 聖武天皇陵.....四八
- 餅飯殿町.....四八
- 元興寺.....四九
- 御靈神社.....五一
- 極樂院.....五一
- 十輪院.....五二
- 福智院.....五二
- 新藥師寺.....五二
- 本堂、鐘樓、四脚門、五重塔址
- 鏡神社.....五四



○肘塚、頭塔……………五四

後編 奈良以外

第一 奈良以東

五五

○高圓山……………五六

○白毫寺……………五六

○柳生村……………五七

○月 瀬……………五七

○圓成寺……………五八

○光仁天皇陵……………五八

○春日天皇陵……………五九

○古の闘鶏國……………五九

第二 奈良以西

○興福院……………六〇

○不退寺……………六〇

○海龍王寺……………六一

○法華寺……………六一

○ウツ鍋小鍋……………六二

○那羅山……………六三

○磐之媛皇后陵……………六三

○狹城池……………六三

○平城天皇陵……………六四

○古の平城京……………六四

○大極殿址……………六五



○日葉酢媛皇后陵	六七
○成務天皇陵	六七
○孝謙夫皇陵	六七
○神功皇后陵	六七
○秋篠寺	六八
○西大寺	六八
○菅原神社、菅原氏	七〇
○喜光寺	七〇
○安康天皇陵	七一
○垂仁天皇陵	七一
○暗峠	七一
○孔舍衙坂	七二

○生駒山	七三
○寶山寺	七四
○鳥見	七四
○靈山寺	七四
○長弓寺	七五
○高山	七五
○唐招提寺	七五
○藥師寺	七六
○大安寺	七八
第三 郡山王寺間	
○郡山町	七九
○小泉、矢田寺、法起寺、法輪寺、筒井	八〇



○法隆寺.....八一

金堂、五重塔、講堂、中門、中院、上御堂、西園堂、曼陀殿、食堂、綱封  
藏、東院

○中宮寺.....八六

○廣瀨神社.....八六

○龍田、龍田神社、龍田山、龍田川.....八六

○朝護孫子寺.....八八

○孝靈天皇陵.....八九

第四 王寺五條間

○顯宗天皇陵.....八九

○武烈天皇陵.....八九

○高田町、浮穴宮址.....八九

○當麻寺.....八九

○御所町、茅原寺、噓間丘、孝安天皇陵.....九〇

○金剛山.....九一

○孝昭天皇陵、日本武尊陵、武内宿禰墓、巨勢山、葛.....九一

○五條町、榮山寺、音無川、涅槃經碑.....九二

第五 吉野郡地方

○上市町.....九三

○吉野山.....九四

吉野神社、後醍醐天皇陵、行宮址 山内古蹟名所、

○瀧宮址.....九六

○下市町.....九六

○穴太行宮址.....九六



○山上嶽.....九七

○十津川郷.....九七

○北山郷.....九七

第六 高田櫻井間

○八木町.....九七

○大和三山.....九八

耳成山、香久山、畝傍山

○藤原宮址.....九八

○綏靖天皇陵.....九八

○神武天皇陵.....九九

○橿原神宮.....九九

○安寧天皇陵.....九九

○懿德天皇陵.....九九

○宣化天皇陵.....九九

○孝元天皇陵.....一〇〇

○久米寺.....一〇〇

○天武、持統天皇陵.....一〇〇

○欽明天皇陵.....一〇〇

○文武天皇陵.....一〇一

○齊明天皇陵.....一〇一

○高取町.....一〇一

○壺坂寺.....一〇一

○橘寺.....一〇二

○岡寺.....一〇二



○弘福寺.....一〇三

第七 奈良櫻井間

○帶解地藏院.....一〇三

○弘仁寺.....一〇三

○天理教會本部.....一〇三

○丹波市町.....一〇四

○石上神宮.....一〇四

○柳本村.....一〇四

○大和神社.....一〇四

○崇神天皇陵.....一〇五

○景行天皇陵.....一〇五

○三輪町.....一〇五

○大神神社、海榴石市、纏向、笠縫邑.....一〇五

○櫻井町、文殊院、田原本町.....一〇六

○崇陵天皇陵.....一〇七

○舒明天皇陵.....一〇七

○談山神社、鎌足墓.....一〇七

○長谷寺、泊瀬.....一〇八

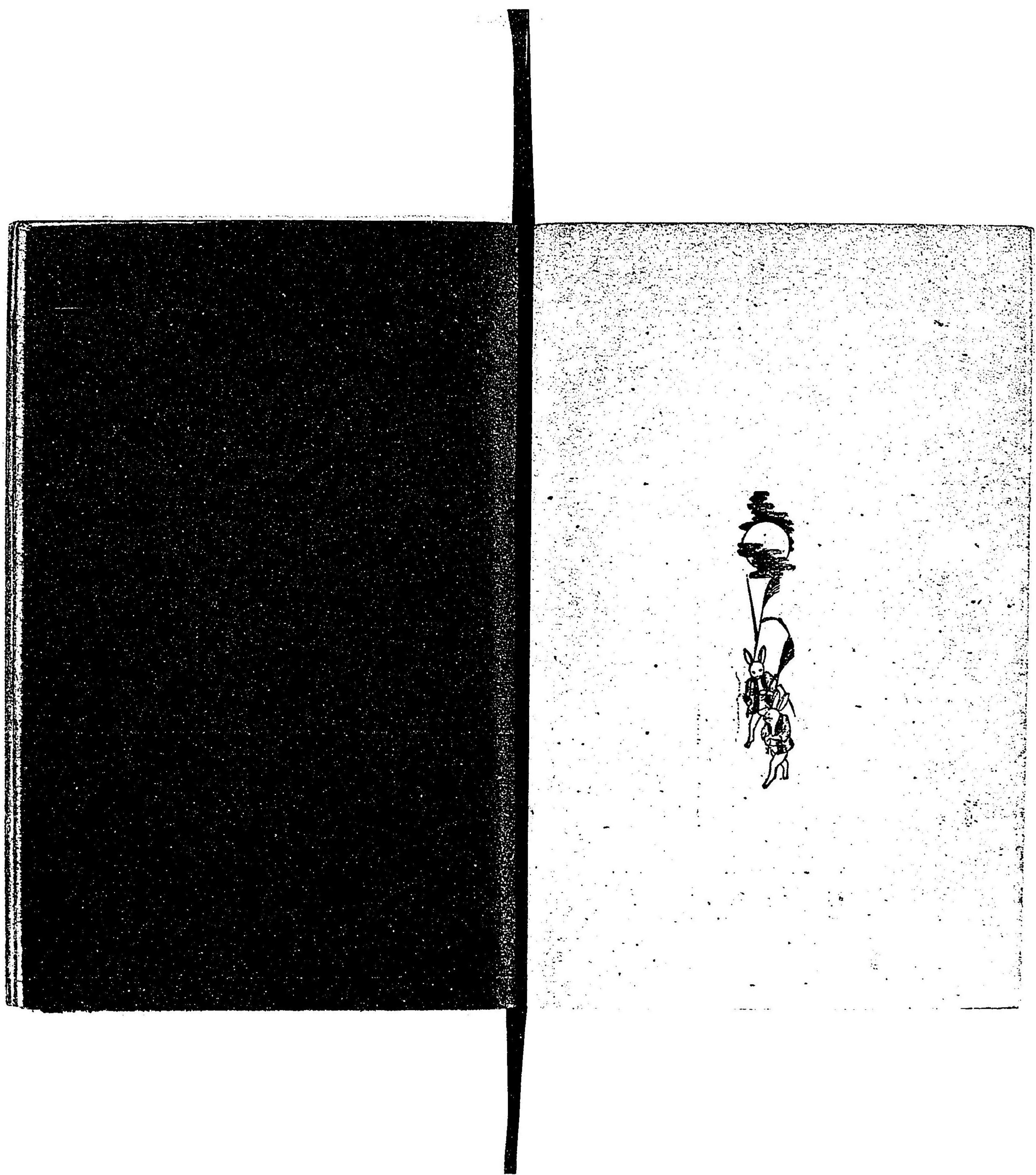
○鳥見丘.....一〇九

○室生寺.....一〇九

○猪、墨坂.....一一〇

目次終







奈良名勝誌 附大和名勝

文進堂 編纂

前編奈良

第一 三條通附近

三條通

○三條通 關西及奈良鐵道の奈良驛に下車し少しく北に進まば東西に通ずる一直線の大道に出でん、こは即ち古の平城の都の三條通り  
の遺址にして平城の舊都の市坊の内、完全に遺り居るは只此の三條  
通りと右京二坊大路即ち今の佐紀村より郡山町に至る南北に通ずる  
大路即ち郡山街道と稱せらるゝもののみなり此三條通を益々西に  
進まば平城の舊都の内裏址に至るを得べく、東に進まば即ち現今の  
奈良市なり



今の奈良市

○今の奈良市 今の奈良市は古の平城京の左京極に近き一部分に市街をなすものにして、試に之を古に對照するに左京四坊大路と左京極即ち左京七坊大路とにて東西を劃し六條大路と一條大路とにて南北を限られたる小區域に發達せしものにして平城京の經營せられし當時には全く無かりしものなるが、東大寺、興福寺、元興寺等の大寺院が浴外なる此地方に創立せらるゝに至り次第に市街をなし來りしものなれば古の平城京は今の奈良の地なりと思ふは誤りなり今の奈良は戸數五千七百、人口三萬一千を有し奈良縣廳の所在地にして物産は奈良漬、あられ酒、奈良扇、奈良團扇、奈良人形、墨、筆、蚊帳、奈良晒布等なり

開化天皇御陵

○開化天皇春日率川阪上陵 奈良市大字油阪にありて兆域周圍二百六十間餘、外濠を廻らせる所謂車塚の制にして南面なり奈良縣より

率川神社

三條通を東に進めば市街の間、街道の北側に拜するを得べし  
○率川座大神御子神社 奈良市大字子守にあり磯城郡三輪町にある官幣大社大神神社の攝社にて一に春日三枝神社と稱す神名帳に大和國添上郡率川座大神御子神社三座とある此れなり祭神は姫踏躰五十鈴姫命后(中殿) 玉櫛姫命(左殿) 狹井神(右殿) の三柱なり推古天皇の御代の創建にして今の社殿は明治二十六年の築造にかゝる開化天皇の率川宮を此の神社の附近なりと云ふは當らず

春日といふ名稱

○春日といふ名稱 今は春日神社春日野など奈良市の一部分の名となり居れど古は今の奈良市の大部分をば春日郷と稱せられたる時もありしと見へて日本書紀開化天皇紀に都を春日之地に遷す是れを率川宮と云ふとありて和名抄にも大和國添上郡春日郷あり、さて春日と云ふ名稱の起りは姓氏錄、大春日朝臣の條に彼氏の先祖大雀天



皇の御代に糟を以て垣にせしに因て糟垣臣と號たまへるを後に春日  
臣に改むとあり、これによりて考ふれば姓を本にて地名となりたる  
が如けれど古事記傳、日本書紀通釋、大日本地名辭書など皆之を疑  
ひ居れり、春日と書してカスガと讀ましむるは「はるびのかすがの  
くに」など歌にある枕詞を即ちその地名に用いたること飛鳥をアス  
カと讀ましむるが如しと斯道の學者は云へり、奈良といふ名稱は法  
華寺村北部の丘陵を那羅山と云ふより此に都を營まれし時、平城京  
と稱へられそが遺りて遂に今の奈良に迄推し及ぼせしものならん

第二 興福寺附近

○猿澤池 古サヌサハの池とも稱し天下旱魃すれども水半ばに減せ  
ず故に神龍池と云ふと東西五十間南北四十間、多く鯉、鰻を養ふ池  
畔に柳を植う月夜の眺め最も好しとす、いつの頃にやありけん宮中

猿澤池

采女社  
衣掛柳

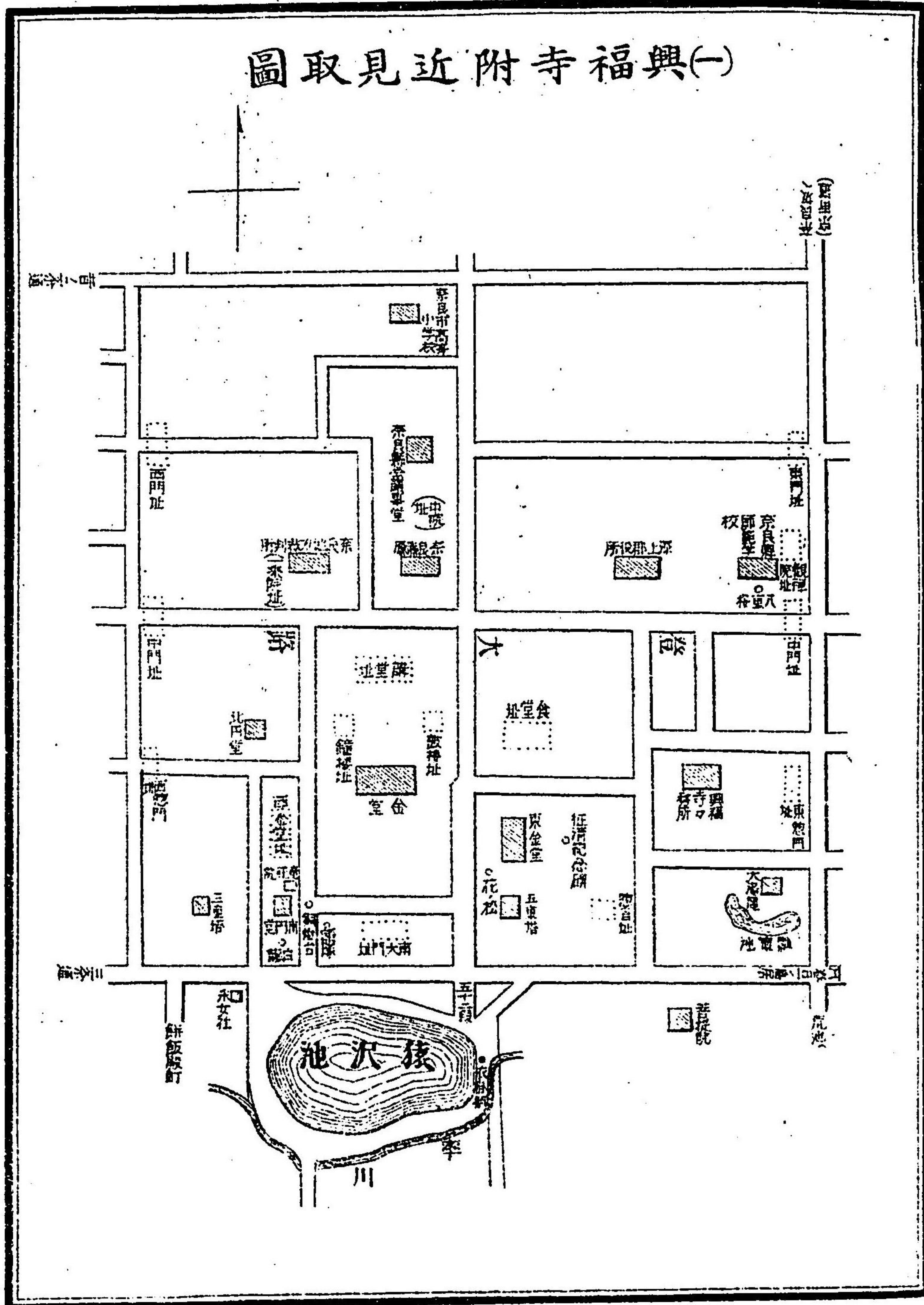
率川

に仕へまつれる采女後宮の御膳をなすにせし某事によりて此池に投身して死せる  
を悼みて時の帝の御詠「猿澤の池も腕な吾妹子が玉藻胃かば水ぞひ  
なまし」、柿本人麻呂「吾妹子かねくたれ髪を猿澤の池の玉藻と見る  
ぞかなしき」、と拾遺集にあり、此采女社と云ふは池の西畔にあり  
又そが投身の時、衣をかけたしてふ衣掛柳は其の東畔にあり夫木集に  
「猿澤のいけの柳や吾妹子がねくたれ髪のかたみなるらむ」とあり  
今の柳は此の時の木の幾代の子孫なるらん

○率川 猿澤池の東より南に廻りて市中を西に貫流し率川座大神御  
子神社の邊りを過ぎて終に佐保川に合する小流はかの有名なる率川  
にして春日山中に發源するものなり萬葉集に「はねかづらいまする  
妹をうらわかみいさ率去河のおとのさやけさ」とあり一名を子守川  
と云ふ此の下流の地名に古、率川莊と名くるがありしが如し



興福寺附近見取圖(一)



五十二段

○五十二段 猿澤池の北東隅より興福寺地内に上る石階を五十二段

奈良公園

といふ數によりて名けたるものなり

○奈良公園

猿澤池より北東、春日山、嫩草山を包みて興福寺、東

大寺、春日神社、手向山八幡神社等の所在地は凡て奈良公園區域に

して廣袤五百三十三町三段二十四歩を有し鬱蒼たる山林と數萬の資

金を有すれば一ケ年間の收入凡そ貳、參萬圓に達し其の經濟は地

方費に仰ぐを要せず諸般の設備能く整ひ特に公園看守なる公吏十餘

名を任じてその監督に當らしめ居れり蓋し日本全國に於てかゝる廣

き公園を有して彼程まで手入れの能く行き届き居るは恐くは他に其

の比なからん只奈良市一般の通患として此の公園にも水に乏しさを

憾みとするのみ

○興福寺 興福寺は一名を春日寺と稱して古は藤原氏の氏寺たり

興福寺

○興福寺

興福寺は一名を春日寺と稱して古は藤原氏の氏寺たり



法相宗にして南都七大寺の一なり此の寺、天智天皇の八年藤原鎌足の夫人鏡女王が山城國山階に創立せしものにして山階寺と稱し天武天皇都を大和國飛鳥に定められし時、又其の地に遷され地名によりて厩坂寺と改稱し元明天皇都を平城に遷さるゝに及びて藤原不比等新に地を今の處に相し七堂伽藍を造營し朝廷興り國家福すとの意を以て寺號を興福と改めたりと傳ふ元亨釋書には藤原鎌足蘇我入鹿父子を誅戮せんとせし時、事の成功を祈りて丈六の釋迦像を作りて祈願を凝らし帝王編年記には其の後鎌足病急なるの時維摩會を修して愈ゆ故に銀造の小釋迦佛を造りて之を丈六の像の首に納むと和銅三年三月藤原不比等、鎌足の遺志を繼て此の佛像を本尊とし今の地に伽藍を營み弘仁四年藤原冬嗣、寺に於て南圓堂を建て不空羂索并四天王の像を安んず莊麗殊特なり世にこの時藤原氏寢々傲なり冬



嗣營構して家族を榮へしめんことを願ひ藤原氏益々茂る云々と、故に藤原氏の盛時は實に盛なりしものにして徳川氏の始めに至りても尙衰へず坊舎九十六、寺祿九千七百石、外に春日神社春日神社も以前は社領五千三十餘石ありしと云ふ今は僅に其規模の十に一を存するに止り、寺特別保護建造物、北圓堂、三重塔、五重塔、東金堂、寺所有に、國寶、彌勒菩薩木造坐像(傳定朝作)一軀、世親無著菩薩木造着色坐像二軀、二天王像、絹本淡彩掛幅二幅、慈恩大師像、絹本着色掛軸一軸、四天王乾漆立像、傳定朝作、四軀、釋迦如來木造坐像(傳定朝作)一軀、金剛密迹二力士木造立像二軀、法相六祖木造坐像六軀、維摩居士木造着色坐像(傳運慶作)一軀、文殊菩薩木造着色坐像(傳運慶作)一軀、南圓堂銅燈臺ノ座(銘文傳橋逸勢筆)一基、銅造彌勒如來兩脇士像三軀、木造梵天帝釋天立像二軀、木造十二神將立像十二軀、木造龍燈鬼天燈鬼(康辨作)二軀、木造四天王立像、南圓堂四天王(四軀)、板彫十二神將像(傳空海作)十二枚、乾漆十

大弟子立像六軀、木造釋迦如來坐像一軀、銅造華嚴經一基、木造不空罽索觀音坐像一軀、乾漆八部衆立像(内五部淨半身)八軀、木造釋迦如來坐像(所在金堂)一軀、厨子入木造彌勒菩薩坐像一軀、木造帝釋天立像一軀、木造多聞天立像一軀、木造阿彌陀如來坐像一軀、木造佛頭(附手首二個)一個、木造釋迦如來立像一軀、木造日光月光菩薩立像二軀、木造地藏菩薩立像一軀、木造千手觀音立像一軀、木造聖觀音立像一軀、木造四天王立像、所在金堂(四軀)、銅鐘、神龜四年ノ銘アリ、一口、合計九拾壹點、

興福寺々務所

三重塔

南圓堂

龍華院

銅燈臺

●興福寺事務所 往古の東室の地にして今は法相宗大本山事務所なり構内に寶庫ありて國寶及び其の他の寶物を藏す

●三重塔 康治二年待賢門院の造立せられしものにて内陣の四方に釋迦、藥師、彌陀彌勒の畫像を安置し塔の高さ五間三尺あり

●南圓堂 本尊は不空罽索觀音坐像にして西國三十三拜所中九番の札所なり弘仁四年藤原冬嗣が子孫繁榮の爲め創建したるものにして

今の堂は寛保元年の改造にかゝる寶珠形の八角造りにして東面す參詣者常に絶へず

●龍華院 觀音を祀る明治十五年に春日山中より此に移ししものにて往古はなかりしものなり

●銅燈臺 南圓堂に寄進せしものにして堂の前にあり其の扉の銘は橋逸勢の筆と傳へられて國寶に編入せられ今はあらぬものにて扉



額塚

の代りとなし置けり

●額塚 南圓堂水屋の東に接して細長く小高さ塚あり俗に茶臼山と稱す傳へ曰ふ藤原良房興福寺金堂に掲げありし寺號を表はせし額を此の地に封じ藤原氏の興福を放逸せしめざらんとせしなりと又曰く天平寶字八年五月興福寺南大門前より洪水噴出せしを占はしめしに門に懸れる月輪山の匾額水に縁あるが爲めなりとありしが故に此の額を埋めしなりと

白藤

●白藤 藤原良基の歌に「藤浪は神のことばの花なれば八千代をかけて猶ぞさかえん」とあり此の藤を詠みたりしものなりとぞ

北圓堂

●北圓堂 特別保護 南圓堂の北にあり養老五年藤原不比等の周忌追善の爲めに創立せられしものにて彌勒菩薩座像を本尊とす今の堂は寛治六年の改修にして寶珠形八角造各四間、南面す堂扉堅く鎖して參詣

南大門址

するものなく南圓堂の盛なるに比せば寂寥の觀あれど其の道の人は建築につきて熟視すべきものなり

●南大門址 今は只礎石を存するのみ昔しは興福寺中最大の門にして二王、獅子等を安置しかの春日神事に有名なる新能は此の前にて奉行せられしものなり享保の火災に焼失し新能は神佛分離後漸くにして廢止せらるゝに至れり

金堂

●金堂 文政二年假造のまゝにして釋迦如來を本尊とす

東金堂

●東金堂 特別保護 神龜年中の創立にして本尊は藥師如來、現今の堂は應永二十二年の建立なり東西六間餘南北十一間餘なり

五重塔

●五重塔 特別保護 聖武天皇天平二年光明皇后の藤原房前に命て建立せられしものにして其の後雷火に焼け及類焼に遇ふこと再度、現今のものは應永二年の建立なり高さ十五丈二尺、方四間五尺餘彌陀面



大湯屋

釋迦面藥師面寶生面を安置す明治の初め佛寺縮少の際此の塔は大阪の銅鐵商某の爲めに六拾圓にて購入せられ某は之を取り毀つての費を惜み風無きの日を待ちて一炬に附せんとなし居りしが遂に今の代に遇ひ特別保護建造物として昨年その補修を終り全く舊觀に復せり

●大湯屋 創立當時のものは數度の災厄に遇ひ現今のものは應永年中の改築也寺僧の浴室にして中に大釜一箇を存す口径四尺五寸高四尺一寸尙別に一箇は屋の西側四方屋の中に半ば土中に埋れて存せり

●其他食堂講堂等の址、瓢箪池、花の松等の名所は圖につきて知るべし

菩提院

●菩提院 一に大御堂と號し俗に十三鐘と云ふ是は昔し曉七ツ時と六ツ時との間に此の寺の鐘を撞きて勤行の時刻を報するや塔中の鐘僧春日社に往て修行する定めなりしより此の稱ありと俗傳に曰く昔

八重櫻

し十三歳の幼童鹿を殺したる咎によりて此寺内にて石子詰に遇ひたり故に又此の地を石子詰といふと信僞は保し難し天平年間立防僧正の創立にして今の本堂は應永十七年の改造、天正八年の修理にかゝる無量壽佛を本尊とし側の厨子に觀世音菩薩を安置す兒觀音と稱するはこれなり

●八重櫻 奈良縣師範學校門内にあり地は昔興福寺東圓堂のありし處にして詞花集に伊勢大輔「いにしへの奈良のみやこの八重櫻けぶ九重ににほひぬるかな」一條院の御時奈良の八重櫻を人のたてまつり侍けるを御まへに侍ければその花たまはりて歌よめと仰せられければよめると詞書あり、此の時の櫻はうち枯れて名跡煙滅せんとせしを此の若木をその跡に移し植へて古跡をあらはせしものなり花甚だ小にして他の花に後れて咲き實を結ぶこと稀なり



一乘院址

○一乘院址 興福寺別當一乘院の舊址にして今の奈良地方裁判所の地及其の家屋は即ち是なり、興福寺の別當は、代々皇族或は藤原氏より出で、中世以後は一乘及大乘の二家最も勢力ありしが明治維新後還俗して華族に列し共に男爵を授けられて一乘院の後は水谷川氏と稱し春日神社は神官たり大乘院は松園氏と稱す 大乘院の舊址は荒池のにありて現今荒廢し御所の馬場と通稱する處は即ち是れなり

奈良帝室博物館

○奈良帝室博物館 洋風の建築にして本館建坪四百六十四坪餘明治二十五年六月起工し全二十七年十二月竣成す帝室御所有のもの及附近各寺社或は名門所有の古代美術品を陳列し見料を徴して衆庶の縦覧を許す御歴代の宸翰、古代名工の繪畫彫刻等斯道研究の資料となるべきものを以て充満す美術に遊ぶもの歴史を研究するものは勿論苟も奈良に遊ぶものは奈良時代の遺蹟を觀覽すると共に該時代の製

奈良縣師範學校

産物を開覽するには當館を訪ふを最も便なりとす  
○奈良縣師範學校 登大路にあり明治廿九年の建築にして門内に八重櫻の舊址あり生徒總員二百四十名女子部は別に北半田町に設置す

添上郡役所

○添上郡役所 師範學校の西隣にあり

○奈良縣廳 登大路にあり和洋折衷の建築にして屋上に鷄尾を載す添上、生駒、山邊、磯城、宇陀、高市、北葛城、南葛城、宇智、吉野の十郡と奈良市とを統轄す即ち大和全國の所轄廳なり管内面積二百一万里四二、戸數九萬二千六百六十五、人口五十四萬六千三百七十五人を有し、田反別三萬二千九百町、畑一萬九百町、米産五十八萬餘石、製茶二十六萬貫、民林反別十三萬二千町、全伐採二百六十三萬本此價格百九拾萬圓、工産の中最も盛なるを織物とし價額參百貳拾八萬餘圓、之に次ぐは酒類にして百貳拾萬圓、此の他拾萬圓以上



奈良地方  
裁判所

の産額を有するは綿糸八拾參萬圓、凍豆腐參拾萬圓、醬油拾六萬圓、墨拾四萬圓、煙草拾貳萬圓とすの調査による  
明治三十三年

奈良豫備  
學校

○奈良地方裁判所 及奈良區裁判所は登大路、縣廳の西隣なり舊の一乘院の舊址にして目下使用し居る所の家屋は一乘院の時の建物の一部分なり

奈良市高  
等小學校

○私立奈良豫備學校 登大路にあり私立奈良中學校の校舍として建築せられたりしが明治三十四年廢校となりてより久しく只キリスト教會として使用せられ來りたりしが明治卅五年全教會に屬する外國人の手によりて私立奈良豫備學校と云ふを設けられ英語、漢學、數學の夜間教授をなす

學校と此の校とのみなり

春日野

第三 春日神社附近

○春日野 京極大路以東は凡べて春日野と稱せしが如し樹木鬱蒼として神鹿多く徘徊す藤花の頃、樹間にかゝる古藤紫雲を翳かせ空に聳ゆる青絲と相映じて眺め最も好く、冬時薄雪林間を覆ふの時も亦一層の興趣あり

淺茅原

○淺茅原 春日神社一の鳥居を入りて南面の丘陵を淺茅原といふ南に荒池を隔て、鬼園山を望む景亦佳なりこゝを東に進めば

丸窓

○丸窓 と稱する小亭あり此邊梅樹多く花時遊人雜踏す此附近を

片岡 と云ひて聖武天皇の交、佐丸宿禰を野守とせられしは此の地ならん

春日東西  
兩塔の址

○春日神社東西兩塔の址 淺茅原の北方大道を隔て、春日の東塔及



飛火野古

西塔の址あり應永年間雷火の爲めに焼失せしより再興せられず  
○飛火野古址 元明天皇和銅五年河内國高見烽と大倭國春日烽とを置きて平城に通せしむと續日本書紀にあり春日烽は其の址、詳ならねど博物館附近の地ならんといふ

馬出橋

○馬出橋 春日若宮祭禮の時、流鏑矢の射手は馬を此處より出す故に此の名あり

春日若宮御旅川

○春日若宮御旅所 平日は只芝生となりて處處に屋舎を建られ得る如く小高き土代を見るのみなれど同社祭日には此に假殿を造營し本社より御遷宮ありて祭典は此の處にて行はるその儀式、由來につきては随分込み入りたる歴史あり祭日十二月十七日、後日の能樂は全十八日なり

奈良縣物産陳列所

○奈良縣物産陳列所 明治三十四年の建築にして山城國宇治の鳳凰

雪消澤

堂を摸して造りたるものなり縣内の物産なる織物、漆器、團扇等を陳列す賣品あり

○雪消澤 只一小池を存するのみ崇徳天皇御製「春くれば雪消の澤に袖たれてまたうら若き若菜をぞつむ」此の地の御詠にはあらざるべけれど縁草の敷きつめたる邊、神鹿逍遙し遙かあなたに高圓山等の遠山を望む好講題なり

車舎

○車舎 二の鳥居前にあり檢非違使舎と號す參拜の人の車を寄す所なり

二鳥居

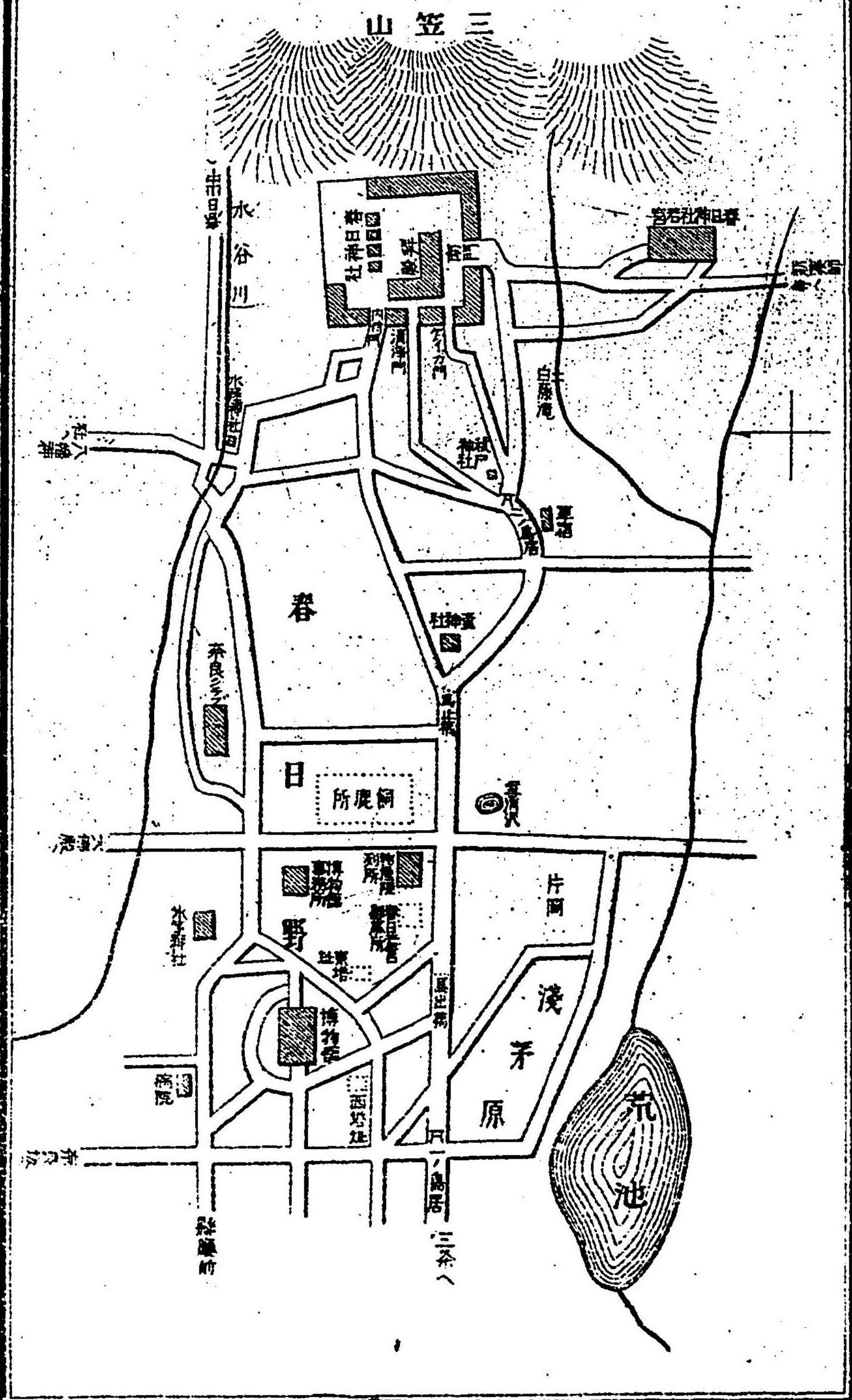
○二鳥居 鳥居の玉垣、北七本、南五本あるは天神七代、地神五代を象るなりとぞ此の内より燈籠の數次第に多くなる

祓戸神社

○祓戸神社 祭神、瀬織津姫神にて大宮祭禮の節、勅使の祓せらるゝ處なり



圖取見近附社神日春(二)



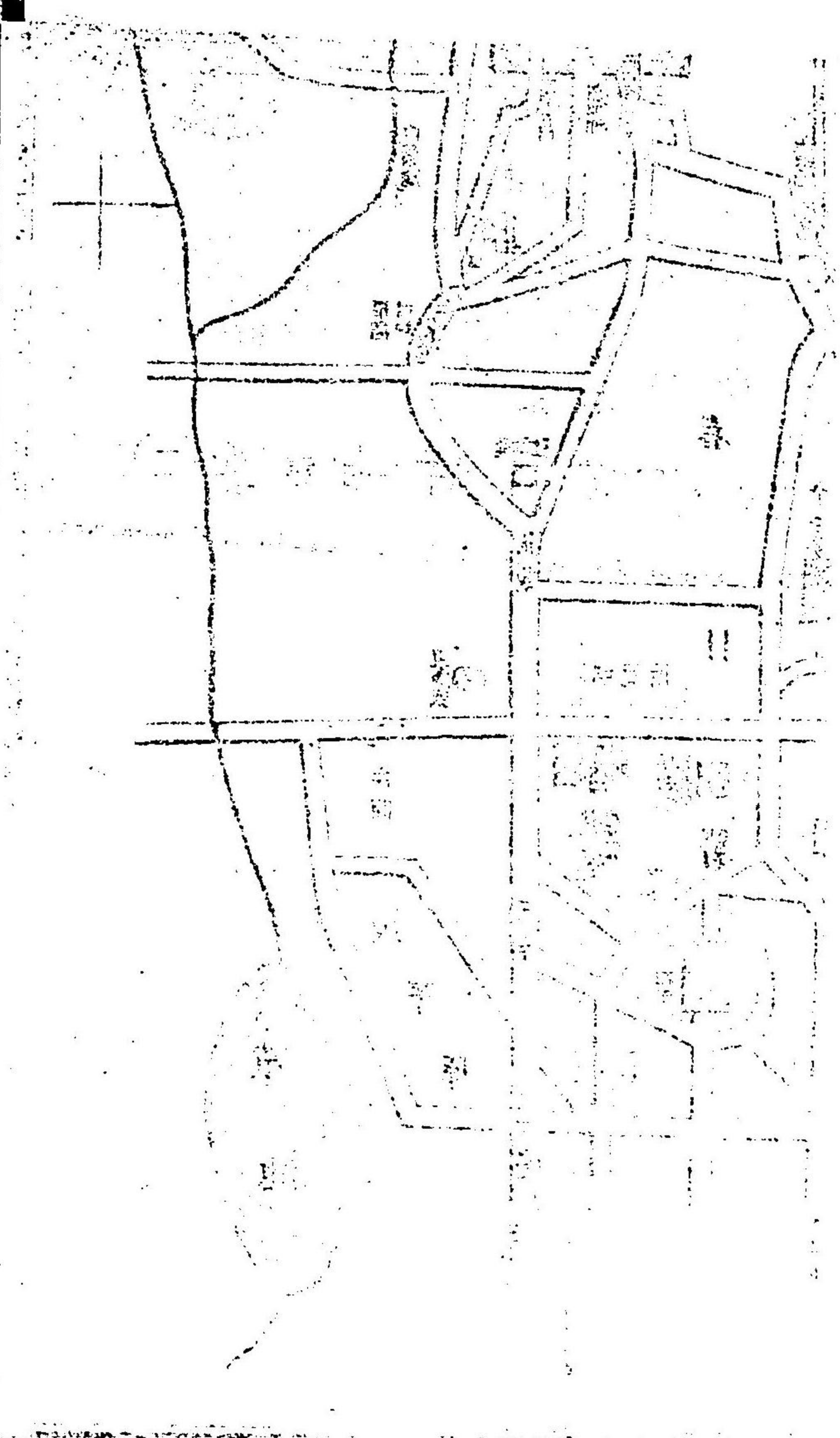
燈籠

○燈籠 路傍にある石造のものと本社廻廊にある釣燈籠とを合すれば凡そ三千基ならんか 弘化手間の調べは石燈籠千七百廿一基、金燈籠六基、木燈籠八百五十二箇、慶應年間の調べは二千八百六十八基とあり其後の調べをみかす 毎年節分の夜に全燈籠に点火し本社にて節分會を行はる頗る美觀なり

○春日若宮 官幣大社春日神社の攝社にして社殿西面す祭神、天押雲命、内院に二祠あり左方は手方雄神社、右方は通合神社とす此の宮の祭禮の時は市内一般に賑へども本社祭禮の時は勅使下向せらるゝも只一通りの儀式あるのみにして市民は左程關せざるものゝ如し社殿は特別保護建造物にして拜殿の欄間に掲げたる歌仙の繪畫は後光明天皇の宸筆と傳ふ此の神社の前の道を南に行けば新樂師寺及瀧坂名所に至るを得べし

春日神社 官幣大社春日神社 元明天皇和銅年中藤原不比等鹿島神を此の地





に移し地名を取りて春日大明神と稱せしより、代々藤原氏の氏神として崇敬厚く慶長十七年以來は二十一年目毎に社殿を改造する定めなりしが故に凡そ五十餘度の改造ありて現時の社殿は明治十七年の修造にかゝる特別保護建造物なり祭神は第一殿武甕槌神、第二殿經津主神、第三殿天兒屋根神、第四殿比賣神以下順次左に數ふ

社 内特別保護建造物 本社社殿  
 社所有に 國寶 太鼓一對、赤銅造太刀(友成作)一口、耳木菟短刀一口、箆手(傳源義經所用)一双、薙造短刀一口、木造舞樂面(皇仁。新島蘇地久。納曾利。真室八仙)五面、計拾点

- 廻廊 長さ百五間餘全部赤塗りにて格子は綠青を用ふ神社に丹碧を用ひしは此を初めとすと稱す、中に多くの金燈籠を釣す
- 七色木 柞の臺木に藤、椿、南天、陸英、櫻、楓、叢生す
- 春日山 春日神社の後方に聳へて森林鬱蒼たるは即ち春日山にし



て五峰に分る三笠山、高峰、長尾峰、羽買峰、香山と悉す。この瀧、月日磐、編、編、編、氷室址等の名勝此の山中に散在す五峰中高峰最も高く海面上千六百四十五尺

三笠山

○三笠山 春日神社は此の山の麓にあり春日五峰中最も低く海面上九百二十八尺餘に過ぎず山容、笠の如くなるを以て「御笠」又「御蓋」と名づけしものなるべしといふ阿部仲麻呂が唐に留學中故郷を想ひて詠めりし歌なる「あまの原よりさけ見ればかすかなる三笠の山に出でし月かも」は誰も知る處にして其の他、此の山に因める古歌頗る多し

第四 東大寺附近

嫩草山

○嫩草山 水谷川の溪流を隔て、春日群山と相對して北に聳ふるは嫩草山にて全山樹木稀れに矮草露滑らかにして中に二、三株の青松

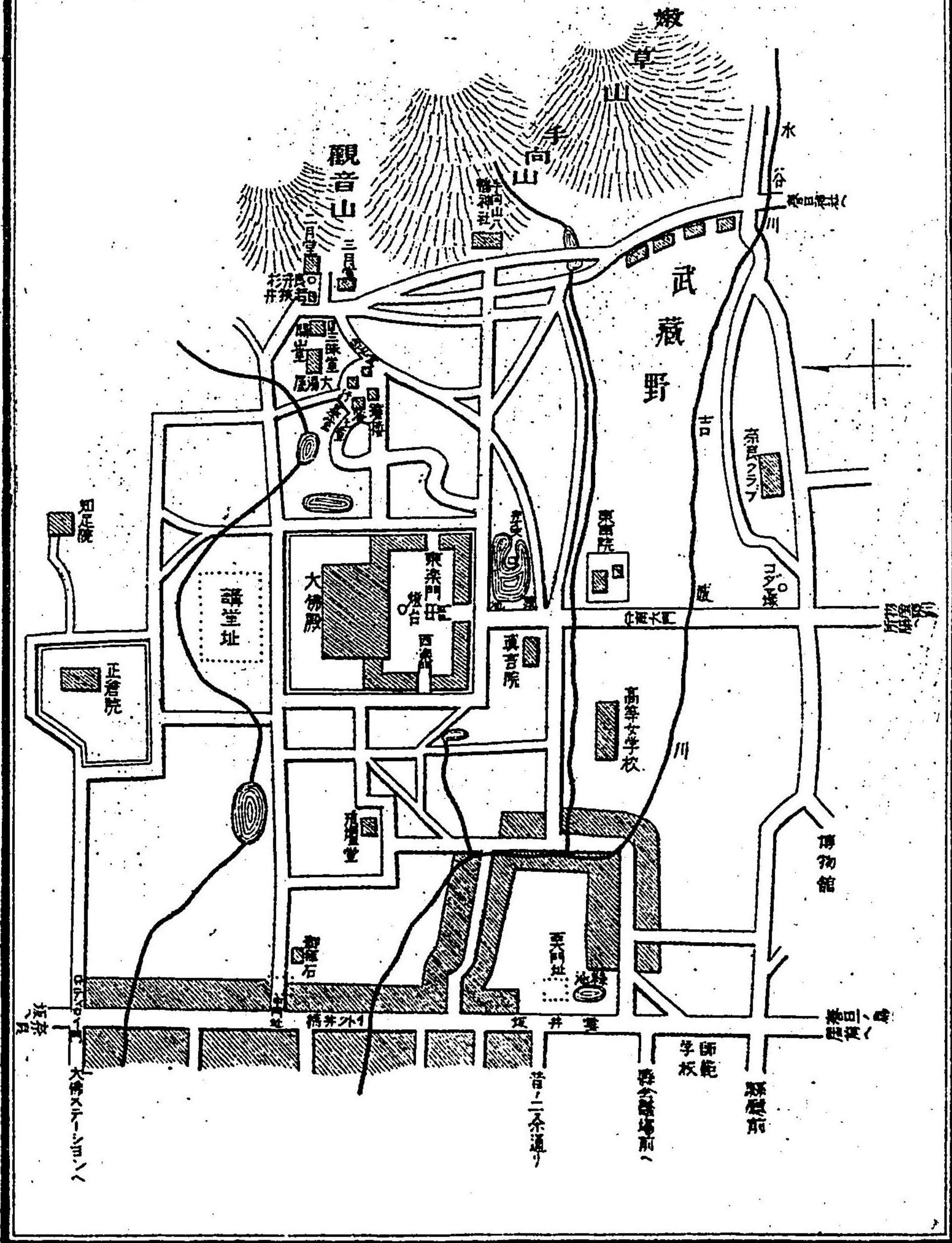
の點在する處、宛然土佐畫を見るが如し往昔東大、興福二寺の境界は此の邊りに逼りて爭論絶へざりしが故に此の山をば焼き拂ふを例とせしこの事にて現時に於ては一の儀式として毎年春時に「山焼き」と稱して之を行ふ又一の美觀なり山嶺三段となりて西より東に次第に高く最高點は海面上千二百二十六尺、樹木の眺望を妨ぐるものなれば畝傍、金剛、志貴、生駒の諸山より大和平野を包みて山城國木津河、泉河、豐原に至る迄、一眸の中にあり、頂上に鸞陵と稱するありその何の謂ひなるかは解し難し

手向山

○手向山 嫩草山の北部、手向山八幡宮の上方小區域の名稱なり嫩草山に登るには此處よりせば路急ならずして易し楓樹を植う古今集に菅家「この度はぬさもとりあへず手向山紅葉の錦神のまに〜」とあり



圖取見近附寺大東(三)



武蔵野

手向山八幡神社

東大寺

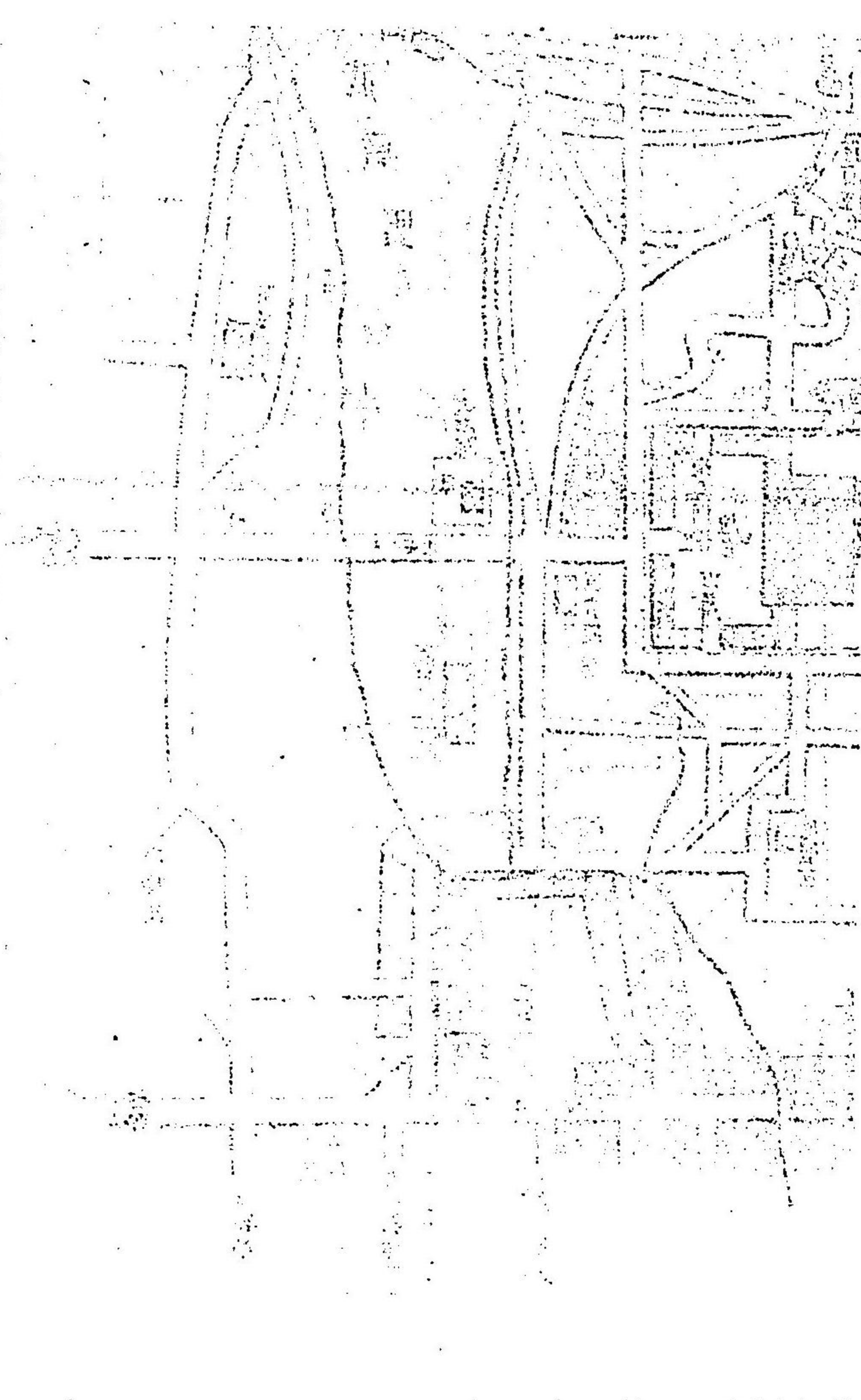
○武蔵野 嫩草山及手向山の西部一帯懸塚の邊迄を云ふ文武天皇の朝、武蔵國守小野美作吾在京の時、病死し此の地に葬る由て武蔵野武蔵塚と名くと信偽は保し難く塚の所在も亦詳ならず

○縣社手向山八幡神社 往昔東大寺の鎮守として天平勝寶元年十二月に宇佐八幡宮を遷座し奉りしものなり今の社殿は元祿四年の重興にかゝる大宮、祭神、中殿は應神天皇、左殿比賣命、右殿仲哀天皇神功皇后にして若宮には仁德天皇を祭る大宮の前に所謂春日砥にて造れる八幡形と稱せらるゝ石燈籠あり文治二年僧勇專奉納と銘せり有名なるものなり

○東大寺 創立當時の東大寺は實に廣大なるものにして挿圖第三に

社所有に 國寶 德一。散手一。新鳥蘇一。納骨利一。地久二。胡德樂三。按原履一。菩薩二。退宿德一。真宿八仙一。探參老一。計拾七点





示せる區域の全部の外、東は嫩草山を包み北は佐保川に至る凡そ一里四方計の大寺にして寺内の堂坊十を以て敷へ實に日本總國分寺たるに耻ぢざるものなりしが爾來幾多の興亡を経て遂に現今の如く誠に狭少のものとなりて堂坊も恐くは百に一を存するに過ぎざるに至れり然れ共尙天下第一の大佛、世界第一の木造家屋殿を有するのみならず奈良朝美術の樞府たるを見れば往昔の壯觀を追想するに餘りあるべく奈良朝の榮華も實に想像するに餘りあるべし。

元亨釋書によれば東大寺は天平十五年十月十五日に聖武天皇近江信樂にて創めて長け十六丈なる盧舍那佛の銅像を鑄られんとし親ら願の疏を製して普く天下に告げらる初め善門良辨なるものあり天皇に重せられ像宇を營まれんことを勸む十六年十一月甲賀寺にて像模を造り天皇親ら其の繩を引き大常に勅して樂を奏せしむ十七年八月



大和添上郡に移して改造す郡に金熟と云ふ寺あり優婆塞金熟の居る處なるを以て名く誤りならん 金熟常に一執金剛神像を持ち繩にて其の脛を繋ぎ其の端を捉りて念修し晝夜休まず 此の執金剛像今は三月堂の秘佛なり一夜佛脛光を放て宮廷を照す天皇驚き怪み人をして見せしむ使者其の狀を復奏す即ち金熟を召して何事を求めんとするかを下聞せられしに奏して曰く得度を求めんと天皇之を許し四時供給せらる時人金熟菩薩と云ふ天皇此の地を以て勝區となし大佛を遷されたり 此の間の記事聊か異は同人なることは疑ひなきが如し 天平勝寶元年十月二十四日大像成る年を経し尙三月堂の處を對照すべし 天平勝寶元年十月二十四日大像成る年を経ること三歲にして改鑄すること八度なり 或書に大像成りたる後天平勝寶三年六月螺髻を作り四年三月始めて金を鑄り復舊二 大光を構立したり又阿脇士四天王は天平勝寶元年に之を始め天平寶字二年に工を竣へ大殿の建立は天平十九年に着手し天平勝寶三年に大跡の構造を終り更に内外部の裝飾に十數年を費したりし如く四面歩廊及中門は天平勝寶九年に成功を告げたりとあり殿の高さ十五丈六尺東西二十九丈南北十七丈東西兩塔各高さ二十三丈、十二月孝謙天皇、聖武上皇、

寺に幸し佛を禮す此の日八幡大神、寺に入りて像を拜すこのり蓋し東大寺の經營せられしよりその建築の一段落を告げしは聖武天皇天平十七年より孝謙天皇の天平寶字二年迄十四年間の星霜を費せしものなり然るにこの廣大なる建築も一度は治承四年十二月平重衡奈良の僧兵を征伐せし時に焼かれ頼朝天下を一統するに及びて建久年間に再興せられたりしが永祿十年三好、松永兩氏の戰場となりて再び堂坊の大半は烏有に歸して東大寺創立當時より現今に至る迄幸に災禍を免がれ居るは只三月堂あるのみなり

寺 特別保護建造物 南大門、法華堂(三月堂)、鐘樓、金堂(大佛殿)、開山堂(真寺所有に 國寶 像者色立像二軀、不空索觀音乾漆立像(即ち三月堂本尊 傳其辨像正作)一軀、四天王乾漆着色立像(傳行基菩薩作)四軀、金剛。密迹二力士乾漆着色立像(傳同上)二軀、石造獅子傳陳和卿作)二隻、賢劫經紙本墨書卷物一卷、大毗婆沙論紙本墨書卷物一卷、塑造着色執金剛神立像(傳僧良辨作)一軀、紙本墨書東大寺要錄十冊、全續錄九冊、木造四大門勸額一面、木造良辨上人坐像(傳自作)一軀、木造後乘上人坐



東南院

像(傳自作)一軀、木造金剛力士立像(南大門二王)二軀、木造彌勒菩薩坐像(傳長辨念持佛)一軀、銅製八角燈籠一基、乾漆梵天帝釋天立像二軀、木造僧形八幡神坐像(快慶作)一軀、銅造舟形後背一箇、絹本着色俱舍婆羅圖一幅、紙本着色華嚴五十五箇所繪卷一巻、木造地藏菩薩坐像(念佛堂安置)一軀、塑造辨財天吉祥天立像二軀、金銅誕生釋迦佛立像(附灌佛盤一面一軀、木造多聞天立像(胎内木札ニ治承二年ノ銘アリ)一軀、木造伎樂面十九面、木造舞樂面(貴徳。散手。陵王)三面、木造千手觀音立像一軀、木造獅子頭一箇、黒漆螺鈿裏卓一脚、五獅子如意(傳聖賢所持)一柄、(東大寺塔中、戒壇院所藏)四天王塑造着色立像(傳止利作)四軀、 棟計 八拾貳點

南大門

○東南院 東大寺事務所の在る所にして延喜四年の創立にかゝり其の後、後白河法皇の行在所となり 源頼朝の旅館となり又後醍醐天皇笠置山に御潜幸の節、始めに此の地に御立ち寄りありて南都の僧兵を憑まんとせられしか事、調はず遂に笠置山に御遷幸となれり坊舎は數度の變災に遇ひて現今のものは近世の築造にかゝる構内に聖武天皇を祭る所の殿宇、什寶を藏する所の校倉あり

吉城川

木造二王、石造獅子をか置す何れも國寶にして二王の東方のものは運慶作、西方のものは快慶の流慶作と稱す 作と稱せられ獅子は宗人陳和卿の作と傳へらるゝものなり

眞言院

○吉城川 南大門の前を流るゝは春日山中より出づる水谷川の下流にして吉城川と稱し終に佐保川に注入するものなり萬葉集「わさもここにころもかすがのよしき川よしもあらぬかいはがみをみむ

東西兩塔

○眞言院 弘仁年中僧空海東大寺の別當となりし時此の地に道場を開き眞言秘密の法を修せりと傳ふ今の坊舎は後光明天皇正保年間の建築なり古文書を多く集めて東大寺圖書館を設く文書の整理は未だ充分ならざるも斯道に有要なる史料の存在するは人の知る所なり



塔は治承四年、西塔は延文五年に焼失したる後再興せず今は其の址  
僅に存す

鏡池

○鏡池 一に八幡池と云ふ八幡神社の放生池なりしものなり小嶋あ  
り辨財天祠を建つ此の邊月夜の眺め最も好し

大佛殿中門

○大佛殿中門保護 東西十一間三尺七寸、南北四間、高十一間にして  
後桃園天皇安永六年の重興なり門内左に毘沙門天、右に持國天の木  
像を安置す

廻廊

○廻廊 保護中門より續きて大佛殿を圍める廻廊總長百三十二間半、  
廣三間、古へは大佛殿の後方今は石垣にて圍める地にも同じく廻廊  
ありて其の北部中央に北中門ありしが永祿の災後再興すること能は  
ずして遂に今の如くになりたるものなり

東西樂門

○東西樂門保護 廻廊東西の袖の中央部に相對してあり

大佛殿

○金堂保護 一に大佛殿と稱す東大寺は此の堂を中心として造營せら  
れたるものにて創立當時のものは平重衡の奈良征伐の時に焼かれ頼  
朝の時代に再建せられたるものが三好、松永の兵燹にかゝりて再び  
焼失し現時のものは東山天皇元祿十四年の建築にして桁行百八十八  
尺四寸、梁間百六十六尺六寸にして高百五十五尺八寸なり、柱は元  
祿時代に大木を得ること能はざりしと見へて中心柱の周圍を許多の  
木材にて圍繞し銅鐵の輪にて箠制したるものにて口徑三尺餘其の數  
六十本あり此の柱を現今の時價に見積れば一本に貳萬五千餘圓を要  
すと云ふ坊目遺考に徳川五代將軍綱吉公大殿建立寶永元年八月十九  
日大佛殿再建の大虹梁二本山城國木津川濱より奈良へ曳來る此木は  
薩摩國より、伐出す所なり松長十三間四尺一寸 本口四尺三寸末口  
長さ十三間二尺八寸 本口四尺八寸八分 末口三尺七寸五分 五葉松  
とあり殿造立の材木は斯くして



集められたるものなり而して創立當時のものとの今の殿舎とを比較するに桁行に於て凡そ百尺、内陣桁行に於て百餘尺、建物面積に於て五百坪、柱敷に於て二十四本を減じれば創立當時の壯觀は如何なりしか想像するに餘あるべし要するに今の建物は昔時のものに比して高さ及び梁間に於て減する所なきも桁行に於て百尺餘の縮少あれば幾分不恰好なるを免がれず而して柱の如きも創立當時は今の如く合せ木をなさずして一本の木を其のまゝに用ひ鎌倉時代に再建の時も周防國の邊より切り出し堺に廻し陸路奈良に運搬するに一本の柱を四十餘頭の牛に曳かしめしと云ふ蓋し世界の木造建築の霸王たるに耻ぢずといふべし

大佛

○大佛寶 即ち金銅盧舍那佛座像にして大佛殿の本尊なり蓮座の上に結迦趺座し右手を曲げて胸の邊まで舉げ左手は膝上に安んず頭首

は創立のものは文徳天皇の齊衡二年に自ら落ち治承四年の兵火に焼けたいれ永祿十年の災に焼け落ちて數度の改鑄を経たれば亦舊態を存せざれど跡軀は多く舊態を存す蓮華藏世界を現はせる蓮座の花瓣は五十六枚ありて其の中に三千大世界の彫刻の存するもの數片あり創立當時のものにして斯道に志すもの賞玩措く能はざるものなり大佛の形容は左の如し

高	五丈三尺五寸	面長	一丈六尺
頸長	二尺六寸五分	胸長	一丈八尺
脛前徑	三丈九尺	膝厚	七尺
鼻長	三尺七寸	目長	三尺九寸
手小指長	四尺四寸	口長	三尺七寸
螺髻數	九百六十六個	足大指長	三尺二寸(廻り四尺二寸)
耳長	八尺五寸		
面廣	九尺五寸		
腹長	一丈五尺		
目長	三尺九寸		

此材料 熟銅七十三萬九千五百六十斤、白鐵一萬二千六百十八斤、鍊金一萬四百四十六兩、水銀五萬八千六百兩、炭一萬六千三百五十六斛  
左にある脇士は如意輪觀音座像、右は虚空藏菩薩座像にして後方に



燈籠

は多聞天立像左、廣目天立像右を安置す共に江戸時代のものなり  
●燈籠國寶 大佛殿の前にあり八角寶珠形にて高一丈三尺、屋根廻り八尺、伎樂菩薩、走獸の鑄透あり奈良朝時代の鑄造にして頼朝の改修せしめしものなり

講堂址

●講堂址 大佛殿の後に礎石を存するのみ大佛殿に次ぎて廣大なるものなりしが元祿十年大佛殿と共に焼失したる後再興に至らず

鐘樓

●鐘樓特別 大佛殿の東、丘陵の上により四間四方にして鎌倉時代の建築なり中にかれる大鐘は高一丈三尺六寸口徑九尺一寸三分、廻二丈七尺、厚八寸、今のものは四條天皇延應元年の鑄造にかゝる楠 正成が指一本を以て此の鐘をならせしことは塵塚物語にありて有名なる昔話なり

念佛堂

●念佛堂 鐘樓の東にあり本尊は木彫地藏菩薩座像にして國寶なり

三昧堂

俊乘法師作と傳へらる  
●三昧堂 俗に四月堂と云ふ普賢菩薩の座像を祀るが故に又普賢堂とも云ふ昔し法華三昧を修せし所なり

開山堂

●開山堂特別 一に良辨堂と云ふ三昧堂の北にあり後一條天皇寛仁年間の建築にして木彫良辨僧正座像を安置す僧正自作と稱せられ國寶なり

關伽井

●關伽井 二月堂の下にありて俗に若狹井と稱す毎年三月一日より二七日間、修二會即ち松明會と稱する修法を二月堂に行ふその十二日に此の關伽井に若狹國より水が流れ來ると稱せられ夜半に七荷半の水を汲み之を香水と名け農家は此の水を貰ひ行きて田畑に注げば虫害等の患なしとて二月堂に參詣するものは多く此の御水を戴き行くなり此の水を汲取式を水取の行法と稱して中々壯嚴なり平時は



堅く封鎖す

●良辨杉 良辨僧正は近江國志賀郡の人、三歳の時、其の母之を伴ひて野に往き樹下に置きて桑を摘み居りしに大鷲來りて攫み去り行く處を知らず時に南都に義淵僧正といふあり春日社に參詣せんとせしに鷲の小兒を攫めるものを見る鷲、人衆に驚き小兒を捨て去る義淵執りて養ふこれ良辨なりと元亨釋書に見ゆ即ち此の木は鷲が良辨を攫みて宿りし所のものにして昔は櫟なりしが枯れてその址に杉の生せしものなりと信偽は固より保せず

●法華堂 特別保護 一に三月堂と稱す東大寺内最古の建築にして又最も粹を蒐めしものなり東大寺創立に先ち天平五年に建立せられしものなり元亨釋書に所謂金熟寺金鷲のは蓋し此れにして良辨即ち金鷲が最初に修業せし地なり故に一名を金鷲寺と云ふ又綱索院と云ふは此

堂の本尊不空羂索觀音立像なるが故なり建物東西九間、南北十四間にして南面す南部は源朝頼大佛開眼供養の時増築せしめたるものなれば屋根は二棟を一つに合せたる如き痕跡明かに見へて他の構造も南部と北部とは大に異なるを見るを得べく天平式と鎌倉式との建築を一室に比較することを得る簡好の標本なり本尊不空羂索觀音立像は長一丈二尺、乾漆製にして良辨作と稱せられ國寶たり其の他堂内にある秘佛、執金剛神塑造着色立像一軀、日光月光佛塑造着色立像二軀、辨財天吉祥天塑造立像二軀、金剛密迹三力士乾漆着色立像二軀、四天王乾漆着色立像四軀等頃日何れも修補を終へて皆國寶中のものなり

●二月堂 三月堂の北、觀音山の半腹にあり天平勝寶四年の創建にしてその後災厄に遇ひ現今の堂宇は靈元天皇寛文九年將軍徳川家綱



の興隆せるものにして高さ五丈、東西十四間、南北十一間にして西面す十二面、觀音長七尺なる銅像を本尊とす昔時は毎年二月修二會ありしより斯く名く今は三月に之を行ふこと圓伽井の條に記せるが如し東大寺塔宇中參詣者の最も多きは此の堂にして近傍に參籠所等散在す

大湯屋

●大湯屋 二月室の下にあり昔時東大寺僧徒の浴室にして俗に「千人ぶろ」と云ふ大釜あり水二十八石を容るべしといふ天平寶字五年九月の鑄造にして字は寛永元年の修造なり

輦禮門

●輦禮門 京街道に面し平城舊都一條大路の東のつきあたりにあるものにて桓武天皇延暦二十年に修造せられしより數度の災厄に免れ今に存するものなり二に之を景清門と云ふ相傳ふ源頼朝大佛開眼供養に入寺の時惡七兵衛景清此に潛伏し頼朝を害せんとせしが

中門址

●中門址 俗に「やけえもん」と稱す輦禮門の南にて東大寺の西に面せる門の中の中央にあるものなり再三の災厄に遇ひて今は跡を存するのみ南大門にある石造獅子は此にありしものなりといふ

御拜石

●御拜石 中門址の中に入りて南側にあり天平勝寶六年聖武天皇御受戒の時、此處にて大佛殿を拜し給ひし舊跡にてその後、後圓融、後白河の兩法皇も亦此處にて參拜せられしと傳ふ

戒壇院

●戒壇院 大佛殿の西凡そ二町中門の南凡そ一町の處にあり戒壇はもと大佛殿の前にありしものなるが天平勝寶七年聖武天皇唐僧鑑真をして五臺山の土を以て此に戒壇を設けしめ天皇、皇后此に受戒せ



西大門趾

正倉院

られ其の後高貴の受戒せられしこと尠からず慶長以後は東大寺、興福寺の御門跡代々此に受戒せらるゝを例とす古代のものは治承、永祿の兵火に焼けて今の中御門天皇享保十八年の修造にかゝる塔の中央三壇となりて中央に小なる多寶塔を置く、二階造り高四丈八尺、東西九間、南北七間、南面の建築にして壇の四隅に四天王の塑像を安置す止利佛師作と稱せられ國寶に編せらる

●西大門址 京街道に面し東大寺西部に面せる最南の大門にして雲井坂にあり一に國分門とも云ふ、かの有名なる金光明四天王護國之寺なる聖武天皇の勅額はこの門に掲げられたるものにて門は寛永年間焼失の儘再建せられずして今は其の礎石を存するのみ勅額は寺内に藏せられて國寶たり

○正倉院 大佛殿の北に當りて三、四の避雷針が樹間に隱現する構

内はかの有名なる正倉院にして昔時は東大寺に屬する倉庫なりしが明治十七年宮内省圖書寮に屬せしめられ皇室の御物となり警戒嚴にして容易に拜觀し得ずその由来を考ふるに天平勝寶八年孝謙天皇の御代に我父聖武天皇の御遺物を東大寺に納附し校倉を建て、保存せしめられしより一度も災異に遇はざれば中に藏する御物は實に千古の寶物のみにして器具調度より古文書に至る迄其の數幾何なるを知らず從來その開閉は勅旨に依りたるものなるが故に勅封倉と稱せられ康治元年鳥羽法皇御覽、建久四年源賴朝、正應元年藤原道家元中二年足利義滿、寛正六年足利義教、天正二年織田信長、慶長七年徳川家康に拜觀を許されたる等開封せられしこと誠に稀なりしが故に所藏の御物も散佚せず明治五年世古宮内少丞勅使となりて寶器を點檢せられその後、帝室の御物となりしより歳々に修補せられ當



時は概ね補正を終へられしと洩れ承る、歴史上、美術上、此の御物の現存せるによりて學界に効益を與へしこと尠からず將來とも幾多の効益を後世に遺すやらん、建築は校倉造りにして門内遠く窺ふを得ざれど東方の知足院といふ寺に上ればその外觀をば何ふを得べし

京極大路

雲井坂

轟橋

○京極大路 左京極大路にして春日神社一鳥居より北方に通じ遂に奈良坂に至る大路にして京都街道なり雲井坂とは此の大路の東大寺西大門址の邊りを云ひ此に一里塚の遺址あり轟橋とは今押上町威徳井橋のことにて昔時東大寺の盛なりし頃は此の大路の東側直ちに東大寺の垣に接し今の如く人家は無かりしものなりしと云ふ

第五 般若寺附近

○般若寺 其の創始詳ならず寺傳によれば舒明天皇元年高麗僧慧

般若寺

灌勅を奉じて文殊師利の種法を修めて此の地に般若堂を創建すと云ひ上宮聖德法王帝説には孝德帝白雉五年曾我無邪志臣、天皇の病を祈らん爲めに起せし處なりとありいづれに従ふべきか容易に決し難きも奈良朝以前より存在せしものにて東大寺の建立せられし頃はそが別院となり行基菩薩を中興第一世とし藤原氏時代にも最も盛大を極めて僧徒二千餘人を有しかの山門の跋扈せし頃は此の寺の僧侶の横行せしことは中世の軍記物に多く見へて皆人の知る所なりかの護良親王の匿れられし經箱といふもの今に存すれどもその事の信偽は保し難し後ち此の寺は律宗に歸し西大寺派に屬するに至れり數度の火災に遇ひたれば建造物は概ね近代のものにして現今は文殊堂に參詣するもの、外、殆ど此の寺を訪ふもの無きに至れり

寺内特別保護建造物

十三層石塔婆



寺所有に國寶 木造寺門扁額(傳嵯峨天皇宸翰)

十三層石塔婆

●十三層石塔婆 高五丈、寺傳に云く天平七年聖武天皇親ら紺紙金泥の大般若經を書寫し給ひ其の上に此の塔婆を築造せられしなりと

樓門

●樓門 天平七年建立のまゝなりと云へど信僞は保し難し門に掲げられたる寺號額は國寶なる嵯峨天皇宸翰の扁額を模せしものなりと云ふ

藤原賴長墓

●藤原賴長墓 保元物語に藤原賴長流矢に中りて薨じ般若野五三味に葬る由見へたり般若寺の後方文殊山の麓なる一小池の東側に哀れげなる板碑あり土俗アクサビの墓と稱しこれにふるれば祟ありなど傳ふ恐らくは賴長の墓ならんか

般若坂

●般若坂 中世の軍記物に見へたる般若坂は般若寺前の阪路を云ふならん此の地今は奈良市大字般若寺町と稱すれども古へは般若寺村

奈良坂古の奈良

と云ひて獨立の區劃なりしことあり

●奈良阪 般若寺より向北に阪路を上れば奈良阪と云ひて山城國木津に越ゆる時なり車馬容易に往來し頂上まで市街連接し居れば格別の阪にはあらず、古へ奈良阪と稱せる地は此の阪の外に大和國生駒郡平城村大字歌姫より北東に仁徳天皇の皇后磐之媛命平城阪上陵の後を通り同じく山城國木津に至る阪路をも奈良阪と稱せしが如し此は恰も奈良の舊都の宮城の後に出る道なり同じ山脈中にありて東西に相距る一里内外に過ぎざれば混じ易し

奈良縣監獄署

●奈良縣監獄署 般若寺の前に目下建築しつゝあり宏大なる建物なり

北山十八間戸

●北山十八間戸 般若寺の南凡二町にして東側に瓦葺の長屋あり此は後嵯峨天皇寛元の頃西大寺の僧忍性亡母の忌辰の爲めに附近の廢



疾者を收容施設せし處にして居室十八あるが故に名とす忍性は有名なる高僧にて後鎌倉極樂寺の僧となり北條時宗の歸依を得て廢疾者を救養する場所を諸國に設けしのみならず諸所の河川に橋梁を架せしこと百八十九ヶ所なりと云ふ十八間戸の現時の建物は元祿六年奈良奉行大岡 某の修造にかゝる

佐保川

○佐保川 往古の歌詠に有名なる佐保川は源を春日山中瀧に發し奈良市の北部を西流し更に南に轉じ秋篠川と合し富雄川に入る水量多からずその幅も三、四間に充たざれど笠の名所なり萬葉集四大伴家持「ちどり鳴く佐保のかはどのさよき瀬を馬うちわたいつかかよはむ」

元明天皇

○元明天皇奈良保山 東 陵 奈良坂より西の山中凡四町にして兆城周圍二百三十三間南面なり

元正天皇

○元正天皇奈良保山 西 陵 元明天皇御陵の西、關西鐵道線路を挟みて南面せる御陵にして周圍二百六十五間八分、奈良驛より關西鐵道の流車に乗りて加茂驛に至る途中、大佛驛を過ぎ陸道を出でて後、左方に拜するを得べし

聖武天皇  
皇太子墓

○聖武天皇皇太子那富三墓 元明元正兩天皇御陵の南方、谷を隔て入連る丘陵の頂上にありかの有名なる人身犬頭(じんけんず)の隼人形(はやしな)を彫りたる隼人石は此御墓の四隅に立てり三個は缺損磨滅して能く識別し難きも一個は明かにその像を認め得べし

多門城址

○多門城址 添上郡佐保村大字法蓮にあり三好長慶の家臣、松永久秀の築きし處にして多門造りと稱へて築城法に於て有名なるものなりしが今は全く廢頽して只池塘、土居の殘影を認め得るのみ、般若寺と聖武天皇及皇后の御陵との間に在りて御陵も亦城内に屬し御陵



仁正皇后

の森と稱せしものなりとぞ松永久秀が筒井順慶の爲めに志貴山城に亡ぼさるゝや此の城は山岡氏の有となり後、順慶の手に歸し天正十二年順慶卒するに及び此の城も廢絶せり

○仁正皇后佐保山 東陵 全郡全村全所にあり兆城周圍二百二間七分南面す聖武天皇の皇后光明子と申さるゝ方にて仁正皇后と申すはその御諡號なり

聖武天皇

○聖武天皇佐保山 南陵 全所、皇后の御陵の西方、佐保山の中腹にあり兆城周圍三百三十三間五分南面す

第六 猿澤池以南

餅飯殿町

○餅飯殿町 奈良市中最も繁華なる商區にして東京の銀座通り大阪の心齋橋通りと云ふが如き目貫きの地なれど街路狹隘にして往來に不便なり平城坊目考に曰く此の地もと富貴畑と稱せしが弘法大師興

元興寺

福寺内に辨財天を勧請せし時、此の地より餅飯の供御を奉りしに因て名とすと又曰く醍醐帝延喜中聖賢尊師、大峰の開基にて靈山とす再興の時、此の町の人等餅飯を奉じて尊師に従ひ再興の事に預りて力ありしに由りて名くとそれかあらぬか、今に於ても餅飯殿山上講と稱して大峰に參詣する團體あり山上にて此の團體には他のものよりも特別の厚遇をなすと云ふ

○元興寺 聖德太子、蘇我馬子と物部守屋を討ち平げ給ひし祈誓として太子は大坂の四天王寺を創建し給ひし時馬子は飛鳥の地に高市郡法興寺を建立す推古天皇の四年に成る地名によりて豊浦寺とも亦葛城寺とも云ひ後、元興寺と改む和銅三年奈良に都を遷さるゝや藤原宮附近の寺も皆移されしが此の寺のみ獨り留り只假房を奈良の都に造りて其の移らざる間に備ふ所謂本元興寺是れなりと類聚三代格



に見へたりその本元興寺の所在地は今殆ど不明にして只大安寺村東方の畑地ならんかと坊目考には云へり蓋し此の時の本元興寺は其の規模誠に狭少なりしものなるべくその後今の奈良市大字元興寺町に廣大なる寺院を計劃し北は猿澤池附近より南は花園町に至り東は鬼園山より西は木辻町に達し四町四方の面積を占めて興福寺等と拮抗すべき勢力を有し新元興寺と稱したりしが年を経るに従ひ次第に衰へて元和の頃には五層塔と觀音堂とを殘すのみとなりし事、その當時の著書なる南北二京靈地集に見へたり、されど尙此の觀音は長谷の觀音の第二の切れにて作られたるものと稱して長谷に參詣するものは先づ此の寺に参りたるものゝ如ければ可なりの繁榮をなし居りしが安政六年二月の大火の爲めに五重塔及觀音堂とも灰燼となりて遂に全く滅亡するに至り今は只芝新屋町に假堂を設けて遺佛を

祀り僅にその面影を遺すのみ南都七大寺中此寺と大安寺とは蓋し最も荒廢せしものならん

寺所有に國寶 木造十一面觀音立像一軀  
屬する 國寶 木造藥師如來立像一軀

御靈神社

○御靈神社 元興寺の附近にあり、聖武天皇の皇女にして光仁天皇の皇后たりし井上内親王及びその御子なる他戸親王等の靈を祀る初め井上内親王事によりて罪を得その御子他戸親王と共に元興寺内に幽せられ後、宇智郡に移さる内親王皇子同日に薨す宇智郡坂合部村大字大野に御陵ありその靈祟をなすとの説あり故に幽閉せられし所に小祠を建てて祀る即ち御靈神社なり

極樂院

○極樂院 大字中院町にあり古へ元興寺内の子院なりし、數度の災厄に免れ其の本堂は高さ四丈、方九間養老年間創始の盛なりと傳ふ特別保護建造物に屬す



十輪院

寺に特別保護建造物 本堂  
寺所有に國寶 木造五重塔(傳元興寺塔羅形)一基

○十輪院 大字十輪院町にあり古へ元興寺の子院たりしものにてその本堂即ち護摩堂は極樂院と等しく創立の儘と稱し特別保護建造物なり

寺に特別保護建造物 本堂

福智院

○福智院 大字福智院町にあり立筋僧正の創立にして本堂に地藏菩薩を祀る坊屋は近世の修築なり

寺所有に國寶 夾漆地藏菩薩坐像一軀

新藥師寺

○新藥師寺 大字高畑にあり創立年代詳ならずるも續日本紀孝謙天皇紀に天平勝寶三年聖武天皇不豫の時新藥師寺に祈願せしむる事あればその以前に建立せられたるものなることは瞭かなり相傳ふ東

大寺大佛殿造營の後その足代木を以て當寺の本堂を築造すと寺は東大寺派に屬し一香に藥師寺と稱す聖武天皇眼疾を祈り給ひしとの傳説ありて現今の眼を患ふるもの多く參詣す

寺に特別保護建造物 本堂 鐘樓  
寺所有に 國寶 十二神將塑造着色立像(傳止利作)十一軀、佛涅槃圖(絹本着色掛幅)一幅、銅造藥師如來立像一軀、木造千手觀音立像一軀、木造藥師如來坐像一軀

本堂

○本堂 特別保護 東西十五間、南北十間南面す大佛殿造營の足代木を以て造りしと云ふはこれにして行基僧正作と稱ふる木造藥師如來坐像を奉安す毎月八日には開帳あり

鐘樓

○鐘樓 特別保護 本堂と同時の建築にかゝる南北二間東西一間半、鐘は高市郡飛鳥の法興寺にありしものを移せしなりと云へど信偽は保し難し



四脚門

●四脚門 特別 本堂正面の門にして南門と稱す平時は閉鎖す

五重塔址

●五重塔址 本堂の南西鐘樓と道を挟みて五重塔ありしが今は只その址を遺すのみ

鏡神社

●鏡神社 新薬師寺の南西にあり藤原廣嗣の靈を祀る

肘塚頭塔

●肘塚及頭塔 筑前太宰府觀音寺畔に僧玄昉の墓あり元亨釋書に天平十八年六月筑紫觀世音寺成る時玄昉慶導師となりて殿に入るや忽ち空中より昉を捉ふるものありて遂に其の姿を失ふ後昉の頭輿福寺唐院に落つとあり、新薬師寺の西方凡五町、字頭塔と稱する地に小塚あり上に五輪を建つ稱して玄昉の頭塔なりと云ふ又奈良市の南部に肘塚と稱する町あり玄昉の肘塚ありしによりて名くと傳ふ蓋し玄昉は筑紫に變死しその本體は太宰府附近に葬り弟子等遺骨を携へて歸り是等の地に改葬せしものか

京終停車場

●京終停車場 奈良鐵道會社の所在地にして奈良市の南端なり京都七條より起りて、伏見、宇治、木津等を経て奈良驛を通過し南丹波市三輪、櫻井に至る奈良鐵道線の一驛にて同線路中最も廣大なる停車場なり奈良より丹波市、三輪、長谷寺、多武峰、櫻井、畝傍に至るには此の驛よりするを便とす





後編 奈良以外

第一 奈良以東

高圓山

白毫寺

○高圓山 春日群山と相連り瀧坂を隔て、南方に屹立す高さ一千五百尺、山中に尾上宮址と稱する處あるは悉くは志貴皇子の御居住の地にして其の後、春日離宮となりし地ならん萬葉集二、笠朝臣金村志貴親王を傷み奉れる歌に「高圓の野邊の秋萩いたづらに咲かちるらむ見る人なしに」とあり親王の御陵は山の東方田原村にあり此の山又月の名所なり萬葉集六、大伴坂上郎女の歌「かりたかの高圓山を高みかもいでくる月のおそくてるらん」とあり

○白毫寺 高圓山の西麓にあり眞言律宗にして天智天皇の勅願にかゝると傳ふ本堂には彌陀如來を祀り、外に地藏堂あり地藏菩薩を

本尊とし堂内に閻魔王坐像をも祀るが故に又閻魔堂とも稱す寺内に多寶塔あり

寺所有に 國寶 木造閻魔王坐像一區、

柳生村

○柳生村 奈良市の東方二里餘の山中に在りて添上郡に屬す關西鐵道笠置驛よりは南方凡そ一里に過ぎず柳生藩のありし地にして、かの劍術柳生流の開祖なる柳生但馬守宗矩の領邑なり明治の始め迄は陳屋を置きて全氏の配下に屬せり

月瀬

○月瀬 柳生村の東方一里、名張川を挟みて月瀬梅林あり名張川一名差月川と稱し下流は山城の木津川となるものなり兩岸高く溪流清くして流に近く梅樹を栽培し其の子實を取りて京都に送り染料として賣却せしものなりしが文政年中領主藤堂氏の藩儲齋藤拙堂此の地を過ぎ梅溪遊記を草して勝景を激賞せしより海内に喧傳せられ頼山



圓成寺

陽も此地を過ぎて「両山相懸一溪明、路斷游人呼渡行、水與梅花一  
争隙地、倒涵萬玉影斜陽」の詩あり近年梅實の價格次第に下落し従  
て梅林も麥園、茶園に變せんとせしが今また有志のもの保勝會を組  
織して舊觀を維持せんことを計れり此の地に至るには關西鐵道、上  
野驛か嶋原驛かよりせば一里内外に過ぎず車馬の便あり

光仁天皇

○圓成寺 柳生の南西凡一里、大柳生村大字忍辱山にあり眞言律宗  
にして孝謙天皇天平勝寶八年唐僧盧瀧の開基にかゝる後土御門天皇  
文正年中災火にかゝり堂坊悉皆烏有に歸し其の後、僧榮弘再興せし  
が又前日の如くならず定朝の作と稱する彌陀本尊を始め春日の作れ  
る十一面觀音、運慶の作れる大日如來、弘法の作れる不動明王など  
稱するものあれど未だ精査せしことなければ眞偽は知らず

○光仁天皇田原東陵 圓成寺の南凡一里弱添上郡田原村大字日

春日天皇

笠にあり奈良市よりは東方二里餘なり周圍百七十二間七分南面す  
○春日宮天皇田原西陵 東陵より南西凡三十町全村大字矢田原  
にありて南面す光仁天皇の御父君にして志貴皇子と申す光仁天皇御  
即位の後、天皇の號を贈り奉る兆域周圍九十一間三分五厘なり

古ノ關鷄

○古の關鷄國 奈良市の東方、春日山脈を限りとして以東は一區域  
をなし水流は東或は北して木津川に入る其の中に山邊郡都介野村あ  
りその附近、全郡福住村、全針ヶ別所村、添上郡田原村等の一帯は  
地勢相接續し居るもの如く而して都介野村大字友田に都祈水分神  
社あり現今は衰頽して小祠を存するに過ぎざれども貞觀元年に正五  
位下を授けられたる程の古社なる等より見れば古の關鷄國は恐らく  
は此の地方ならん

都祈水分  
神社

第二 奈良以西



興福院

○興福院 大佛停車場の北、添上郡佐保村大字法蓮にあり淨土宗の尼寺にして初めは今の生駒郡都跡村大字興福院にありしが寛永年中徳川家光の命により今の所に徙し、ものなり昔は聖武天皇の御學問所なりしが後に和氣氏に賜はり弘文院と稱して全氏の學問所たりしものが遂に寺となりしものなりと云ふ

不退寺

○不退寺 興福院の西方數町全村全字にあり眞言宗に屬す不退轉法輪寺と號し平城天皇の皇子阿保親王の居られし所なるを以て在原寺とも云ふ在原氏は阿保親王より出ればなり寺の後方の山は即ち阿保山にして親王の御名は此の御住所より出でしなるべし寺は荒廢して今は僅に本堂、庫裡等を存するのみ本堂は承和十四年建立の盛と稱すれども確ならず業平作と傳ふる長五尺九寸の木造聖觀音立像を記る國寶なり

海龍王寺

寺所有に 國寶 木造聖觀音立像一軀、  
圓する 金銅舍利塔一基、  
○海龍王寺 不退寺の西方全村大字法華寺にあり隅院又脇寺とも云ふは法華寺に對する稱呼なるべし聖武天皇天平三年の創立にして勅額を賜はる玄昉僧正此の寺にて法相宗を弘め弘法大師留錫せしこともありしが後、眞言律宗となれり本堂、西金堂、五重塔、經藏等の建造物あり中にて西金堂は最も古く特別保護を受く南北四間五尺、東西三間三尺、東面す

法華寺

寺 特別保護建造物 西金堂  
寺所有に 國寶 毘沙門天像絹本着色掛軸(傳弘法大師筆)一幅、木造文殊菩薩立像一尊、傳遠慶作(一軀)、木造寺門勸額(傳聖武天皇宸筆)一面、木造十一面觀音立像一軀、木造五重塔一基、  
○法華寺 海龍王寺の西に隣す此寺を平城の舊都の宮城内とし海龍王寺と當寺との間に宮城の外垣ありとなせるは妄説なり當寺は古へ



の左京二坊にありて寺前を東西に通ずるは左京一條大路即ち一條南路なり聖武天皇東大寺を造營して日本總國分僧寺となし給ふや光明皇后、當寺を建立し總國分尼寺とせらる創始の年月詳ならざれども天平年中にありしは疑ひなし目下の建物は多く慶長頃のものなり宮内省の直轄に屬し、代々近衛家の令嬢住職せらる眞言宗なり寺の東凡一町に阿闍寺古址と稱する地あり光明皇后此の寺を建立し廢疾乞食の徒を集めて親ら淨め給ひしと傳ふ

寺所有に 國寶 十一面觀音木造立像(傳天竺建陀羅國師文答師作)一區、乾漆維摩居士坐像一區、絹本着色彌陀三尊及尊子像三區、木造佛頭一箇、木造二天頭、(傳梵天帝釋天)二箇、

ウツ鍋 小鍋

○ウツ鍋、小鍋 法華寺の北方、丘陵に近くウツ鍋、小鍋と稱する地ありいづれも南面し外濠を廻らし前方後圓の車塚制の古墳にしてウツ鍋の如きはその規模廣大にして此の近方には稀に見る處のもの

那羅山

にて車塚時代の高貴の方の御塚域たるには相違なきが如きも確ならず今は御陵墓傳説地として神聖に保護せられ居るのみ

○那羅山 今の生駒郡平城村の北方より山城の國界に接して今の奈良市大字奈良坂町附近迄東西に亘れる丘陵は往昔は凡て那羅山と汎稱せしものなるべく萬葉集卷三に長屋王、馬を寧樂山に駐めて作れる歌二首の中に「佐保過ぎて寧樂のたむけにおく幣はいもをめかれず相見しめとそ」とあり蓋し阿保山、奈保山、佐保山等は此の那羅山中の小学ならんか

磐之媛皇 后陵

○磐之媛命平城阪上陵 仁德天皇の皇后磐之媛命の御陵にて生駒郡都跡村大字佐紀にあり周圍五百三十九間南面

狹城池

○狹城池 前御陵の南方にあり今水上池と稱す周圍凡二百餘間、垂仁天皇の代、灌溉を便にせんが爲めに造られしものにして今も尙其



の餘慶に浴すること勢からず此地方一帯佐紀と稱し古の狹城の地なり

平城天皇

○平城天皇楊梅陵 磐之媛命御陵の南西凡四町全大字にあり周圍百九十八間二尺、南面

古の平城

○古への平城京 今の生駒郡郡跡村大字佐紀字石田、水ヶ尻、掛辻、棚木、神明野、中神明野、大頭、東大宮、荒池、池尻、八ノ坪、北垣内、九人手、五反田、大り宮、谷田、二條垣内、の地を宮城の區域内とし東西八町、南北十町即ち二條大路より北は北邊を包みて北京極に達し東、左京一坊大路即ち今の添上、生駒郡界より西、右京一坊大路即ち今の郡山街道に至る地區を包みて宮城の區劃内たりしが如し市坊は左右京各四坊と九條及北邊とに分たれ朱雀大路を中央として其の極南に羅生門を設く今郡山停車場の附近に來生と稱する

大極殿址

字あるは此の羅生門の所在地にして郡山町の北方に九條、七條、五條などの大字の順次存在し奈良市の西部に三條、四條などの字の存するは蓋し條坊の遺蹟にして東西約三十二町、南北約三十八町あり後に左京極に近く寺院の建立せらるゝありて其の地方に發達をなし今の奈良市即ち左京五坊より七坊、一條大路より五條大路迄の膨脹を來せしものなり勿論此の廣大なる區域内に悉皆市店人家の櫛比せしものにはあらざるべきも奈良朝に至りて本邦都制の膨脹急速に起り遂に平安朝に於ける京都市坊の素をなせるは疑ひなきなり

○大極殿址 宮城區域内の東部に土俗大黒の芝と稱する芝生地あり其の南方は次第に低く稻田となり居る中に芝生點々散在し四方は畦道を以て自ら一小區劃をなす學者の研究によれば是は平城宮城内所謂朝堂院の址にて點々散在するは堂、門の址なりと今古書を見て朝



堂院内堂、樓、門等の配置と此の遺址とを對照するに一々符合して掌を指すが如し即ちその周圍の畦道は古への朝堂院廻廊の遺址にして北部の小芝生は小安殿、其の南に大安殿即ち大極殿あり大極殿の東西に蒼龍、白虎二樓あり其の南面少許にして地面少しく低下せるは即ち龍尾壇の限界にして龍尾道はその左右に設けられしものなり龍尾壇以南は所謂南庭の十二堂ありし處、十二堂中、康樂顯章の二堂のみ其の遺址を失ひ他の十堂の遺址は相對して正しく存在す即ち昌福合章、承光、明禮の四堂は東方にありて南北に長く各西面し延休、合嘉、延祿の三堂は西方にありて南北に長く東面し暉章、修式、永寧の三堂は南方に二列して東西に長く北面すその南にありし會昌門の遺址は今之を失ひ少しく距りて應天門の址あり會昌、應天二門の間に東朝集堂、西朝集堂の存するありしならんも今は只東朝

日華  
皇后陵

成務  
天皇陵

孝謙  
天皇陵

神功  
皇后陵

集堂の址を存するのみ試に大極殿址に立ちて南望せんか奈良朝時代に月卿雲客南庭に充滿して壯嚴華麗なる儀禮を行はれしことを追想して轉々感慨に堪へざるものあり

○日葉酢媛命狹城寺間陵 生駒郡平城村大字山陵にありて平城宮址の北西に當る周圍四百八間南面垂仁天皇の皇后にして景行天皇の御母に當る御陵の周圍に埴輪を樹てられしは此の御陵に創る

○成務天皇狹城盾列池後陵 全村大字にありて前の御陵に隣し周圍四百一間九分南面

○孝謙天皇高野陵 全大字にありて前の御陵の敷町南周圍二百五十三間一分、西面

○神功皇后狹城盾列池上陵 全大字にありて前の御陵の北西凡五町兆城周圍五百八十四間四分、南面



○秋篠寺 生駒郡平城村大字秋篠にありて神功皇后御陵より西凡五町、此附近を秋篠の里と稱して西行法師の「秋しぬの外山の里やしぐるらん伊駒の峯に雲のかゝれる」の詠ありし所にして生駒山西に聳ち秋篠川邑内を貫流し大和平野の北西隅なり寺は光仁天皇の寶龜十一年善珠僧正の開基と稱し始め法相宗なりしが中頃眞言宗となり今は淨土宗に歸す崇徳天皇保延元年兵火に罹りて堂宇烏有に歸せしが同年代中に再興せられその講堂は尙再興當時の儘に現存し今本堂と稱す桁行八間半梁間六間半南面し特別保護物なり

寺内 特別保護建造物 本堂

寺所存に 國寶 技藝天木造立像(傳運慶作)一軀、梵天木造立像(傳安阿彌作)一軀、國寶 救脫菩薩木造立像(法橋作)一軀、木造若色帝釋天立像一軀、木造十一面觀音立像(傳安阿彌作)一軀、木造大元帥明王立像一軀、

○西大寺 生駒郡伏見村大字西大寺にあり天平神護元年孝謙天皇の

勅願によりて常勝僧都の開基せるものにして東大寺と相對して有名なる巨刹なりしが數度の火災にかゝりて殆ど全く舊觀を失し其の地位も當初のものよりは變りたるものゝ如し今の堂宇は江戸時代の寶曆年中の建立にかゝる一名高野寺と稱し眞言律宗に屬す寺内建物の主要なるものは本堂、釋迦如來立像を本尊とす觀音堂十一面觀音立像を本尊とす愛染堂、愛染明王坐像を本尊とす護摩堂、不動明王坐像を本尊とす等にて此寺より豊心丹と稱する藥を賣出して昔は廣く行はれしものなりしが今はその販路も縮少せり是は徳川氏の初めに畠山民部大輔義春なるもの朝鮮國王より其の處方を傳へ當寺の僧義春の亡父の忌辰に供養せし際義春より亡父の位牌米として此の法を傳授せしものなる由、幸庵對話に見へたり

寺所存に 國寶 木造若色行基菩薩坐像(傳自作)一軀、時繪箱入紙墨香金光明最勝王經(吉備由利書)七卷、紙本墨書大毗盧遮那佛阿彌加持經(吉備由利書)七卷、



金銅舍利塔(傳寂尊感得)一基、全(傳龜山天皇勅封)一基、全(傳寂尊於伊勢感得)一基、金銅瓶形舍利塔五基、絹本着色十二天像(傳空海筆)十二幅、絹本着色文殊菩薩像一幀、木造釋迦如來立像一軀、木造釋迦如來、阿闍如來、寶生如來、阿彌陀如來坐像四軀、木造文殊菩薩騎獅像一軀、

菅原神社

○菅原神社 全郡全村大字菅原にあり天穗日命、野見宿禰、菅原道真を祀る式内神社なり此の地は菅原氏祖先の住所と稱し神社の東方約一町餘、人家の後方に當りて小池あり池中の小嶋に石碑を建つ此處は道真公三代の祖にして始めて菅原姓を賜はりたる古人の邸址なりと傳ふ蓋し古人の兄なる安人は秋篠を姓となせば此の一家の當地方に家居したるは疑なかるべし

菅原氏

喜光寺

○喜光寺 全村全字にあり菅原寺と稱すその本堂をば俗に鏡堂と稱して東大寺大佛殿創立の時、先づ此の堂を建て試みたるなりと傳ふるはその構造の似たる處あるより出でし説ならん元正天皇靈龜元年

安康天皇陵

○安康天皇菅原伏見西陵 全村大字寶來にあり兆域周圍百八十二間三尺、南面

垂仁天皇陵

○垂仁天皇菅原伏見東陵 全郡郡跡村大字尼ヶ辻にあり前方後圓の廣大なる車塚制の御陵にして周圍五百五十八間四分、南面す附近に陪塚多し田道間守の墓は陪塚中、池の中にありて雜木一、二株叢生せるものは是れなりと稱すれど確ならず

暗峠

○暗峠 垂仁天皇御陵の北邊を東西に通ずる大道は即ち奈良市大字三條より來れる古への三條通りの遺址にして之を益々西に進めば二個の小流即ち富雄川、生駒川と三個の丘陵とを過ぎて遂に河内に入るものにしてその最西の坂路を暗峠といふ神武天皇長髓彦と戦ひ



孔舎衙坂

給ひし孔舎衙坂は此處なりと云ふ説あれど如何にや  
 ○孔舎衙坂 暗峠は即ち孔舎衙坂なりとの説と生駒山の北邊を越へて河内國善根寺に出るものは即ち古の孔舎衙坂なりといふ説とあり、實地を踏査するに此の方面より河内に出る道、三條あり最南は暗峠にして頂點凡千四百尺餘中央なるは生駒山中を横ぎり河内國日下村より數町南なる神並村に越ゆるものにして辻子越と稱す最高點千八百尺餘、道の傍に興法寺あり寺内に時雨櫻と稱して神武天皇、長髓彦と戦ひ給ひし時、時雨降りそよぎて此の木の下に息ひ給ひしなりとか傳ふ最北にあるは生駒山の北部を過ぎて日下村の北、數町なる河内國善根寺村に出るものにして善根寺越と稱し最高點千二百尺餘なりとす日下村は古へよりの地名にして上古の孔舎衙の地は此の附近に求めざるべからざるに暗峠は餘り南に離れて到底一地方とは認

生駒山

め得べからざるに書紀の本文膽駒山を躡へて中州に入らんとし給ふと云ふより見るも暗峠は餘り南に偏して膽駒山中とは到底云ひ難く善根寺越もまた北に偏して膽駒山以外に當れど強て云はゞ云はれざるにもあらず只此處の山脈は一帶に餘り高からざるに獨り生駒山のみに巍然として他を凌ぎ居れば附近の小山嶺を合せて生駒山と汎稱する事は無かるべしと思はる故に孔舎衙と云ふ名稱と膽駒山を躡めてふ本文より推測を下せば夫れ或は今の辻子越附近ならんか  
 ○生駒山 大和河内の間に跨り最高點二千餘尺、なだらかなる形ちを有し、著しく聳へ居ると云ふにはあらねど附近の群山皆その半ば位いのものゝみなれば人目を引く、昔百濟國より貢獻せし馬を放ち養はしめし處なるが故に名くと稱す山骨は片麻岩より成りて北部花崗岩脈に續く大阪市附近より見れば 形容最も優なり 續後撰集に



「難波を漕出してみれば神さふるいこまのたけに雲そたなひく」とあ

寶山寺

○寶山寺 生駒郡北生駒郡大字榮畑即ち生駒山の東半腹にあり靈元天皇延寶六年寶山和尚始めて開基せるものにして伽藍宏壯銅佛多し所謂大聖歡喜天を祀り大阪、奈良附近の參詣者常に絶へず

寺所有に 國寶 絹本着色彌勒菩薩像一幅、

鳥見

○鳥見 書紀によれば長髓彦の據りし地は即ち長髓と稱する地なりしが神武天皇征討せられし時、鵝の瑞ありて賊軍遂に討滅せられそれより其の地を鳥見と稱すこあり即ち今の生駒郡富雄村大字中の附近にして富雄川に沿ひ丘陵に據りて遂に生駒山に連る所の要害の地なり

靈山寺

○靈山寺 生駒郡富雄村大字中にあり天平八年行基菩薩の創建にし

て眞言宗に屬す三重塔は弘安六年再興のまゝなりと傳ふ

寺所有に 特別保護建造物 三重塔

國寶 木造十一面觀世音立像一軀、磚製彌陀三尊像一枚、

塔中地藏院所 國寶 木造地藏菩薩立像一軀、

長弓寺

○長弓寺 全郡北倭村大字上にあり聖武天皇の代に勅願によりて行基菩薩の開基せるものと稱し弘安二年後宇多天皇大修繕を加へしめ給ひし堂宇の多くは荒廢に歸し只本堂のみ修理のまゝに遺りて特別保護建造物なり古義眞言宗に屬す

高山

○高山 全郡全村に屬する小邑にして大和國最北の地なり昔時高山氏の領邑にして、茶筴を産す珠光宗匠より傳へられしと稱して今に其の聲價を墜さず

唐招提寺

○唐招提寺 垂仁天皇の御陵の南東數町、生駒郡都跡村大字五條に



あり天平勝寶八年聖武、孝謙兩帝の勅願により唐僧鑑真の創建せるものにして律宗最初の寺とす金堂は桁行十五間梁間八間南面にして鼓樓は桁行二間五尺、梁間二間、共に創立當時の儘と稱し講堂は淳仁天皇天平寶字三年宮城内の朝集堂を賜はりて建築せし儘にして宏壯嚴然たる奈良朝の内裏を眼前に觀る心地す

寺 特別保護建造物 講堂、金堂、鼓樓

寺所有に 國寶 威舎那佛乾漆坐像一軀、夾纈漆千手觀音立像一軀、木造大日如來坐像一軀、木造厨子入釋迦如來立像一軀、紙製經置和尚坐像一軀、紙

本着色征東繪卷蓮行筆五卷、木造十一面觀音立像一軀、唐招提寺勅額一面、木造地藏菩薩立像(傳空海作)一軀、木造十一面觀音立像一軀、絹本着色大威德明王像一面、木造彌勒菩薩坐像(講堂安置)一軀、木心乾漆藥師如來立像(所在金堂)一軀、木造藥師如來立像一軀、木造寶生如來立像一軀、木造獅子吼菩薩立像一軀、木造宗賢王菩薩立像一軀、木造梵天帝釋天立像一軀、木造四天王立像四軀、木造佛頭一個、木造如來形立像(頭缺ク)一軀、木造天部形立像一軀、計廿九點

藥師寺

○藥師寺 生駒郡都跡村大字西京にありて唐招提寺より南四町を隔

つ南都七大寺の一にして法相宗に屬す天武天皇白鳳八年皇后の病を祈らんが爲に此の寺を高市郡岡本の地に創立せられしが平城の奠都と共に今の地に移されたるものなり金堂、講堂、三重塔、文珠堂、護摩堂、佛足堂等建築物多くあれども大部は數度の修築にかゝり只三重塔即ち東塔のみ天平二年建立のまゝと稱し特別保護建造物に屬す此の塔の様式は三重塔なれども每重各二層となり居れば六層となりて屋根は大小交互す蓋し稀に見る所のものなり佛足堂にある所の佛足石は佛足を彫刻したるもの金堂にある藥師如來及その臺座石は有名のものなり

寺 特別保護建造物 三重塔

寺所有に 國寶 藥師如來金銅坐像(傳行基作)一軀、全脇土日光月光佛金銅立像(傳全願する) 上(二)軀、聖觀音銅立像(傳養老年中百濟國貢獻)一軀、佛足石(傳光明皇后御詠御筆)一基、佛足石一基、吉祥天像(絹本着色板裝)一幀、木造十一面觀音



立像一軀、絹本着色慈恩大師像一軀、木造彌勒菩薩坐像一軀、絹本墨書增壹阿含經(科野虫麻呂筆)一卷、銅造樂師如來兩脇土像(講堂安置)三軀、木造比丘八幡神坐像一軀、木造神功皇后坐像一軀、木造仲姬命坐像一軀、木造二天王立像二軀、木造十一面觀音立像一軀、計二十點

大安寺

○大安寺 奈良市の西南端を距る凡そ十町、添上郡大安寺村大字大安寺にあり今は實に哀れなる一小茅舎を存して遺佛を保存するに過ぎざれども曾ては南都七大寺の一に數へられ眞言宗にして盛大なる伽藍なりしなり、その初めは推古天皇二十五年聖德太子の祈願によりて今の生駒郡額田部村の地、即ち當時の熊凝の地に創建せられ熊凝精舎と稱へ後ち百濟川の邊に移されて百濟大寺と改め天武天皇十二年高市郡に移されて大官大寺と稱し元明天皇和銅三年今の地に移され大安寺と改稱せられしものなり而して東大寺、西大寺に對して又南大寺と稱せられし程、廣大なる寺坊なりしが幾多の星霜と共に

變遷して今は水田、菜圃となるに至れり

寺所有に 國寶 立像一軀、木造千手觀音立像一軀、木造不空罽索觀音立像一軀、木造楊柳觀音屬する 立像一軀、木造四天王立像四軀、木造十一面觀音立像一軀、

第三 郡山王寺間

郡山町

○郡山町 生駒郡役所の所在地にして戸數二千餘、人口一萬三千餘を有す慶長の頃、豊臣秀長此に城居し後、筒井、水野諸氏の領となりしが、享保九年柳澤吉里、甲斐より移りて此に住せしより明治維新迄は柳澤氏の城下たりしなり城址は町の西方にありて今は址内に柳澤神社、奈良縣立郡山中學校あるのみ郡山紡績株式會社は町の東端、停車場附近にあり資本金六拾萬圓、一ヶ年に綿糸五拾六萬六千餘圓を産す、當町附近は金魚の有名なる産地にしてその産額も亦尠からず

小泉

○小泉 郡山の南數町にして生駒郡片桐村大字小泉あり片桐氏一萬



矢田寺

石の居館ありし處なり村中に庚申堂あり附近に有名なるものなり  
 ◎那山の西方、里許、全郡矢田村大字矢田に金剛山寺一名矢田寺あり  
 天武天皇の白鳳年間勅願によりて智通僧正の開基せるものにして  
 金堂に地藏菩薩立像を祀る ◎小泉の西凡そ八町全郡富郷村大字  
 岡本に法起寺あり聖徳太子岡本宮の舊址にして推古天皇の創立せし  
 官寺なりしが數度の災禍に遇ひ今は只特別保護建造物として創立の  
 まゝなる三重塔を存するのみ他は凡て延寶年間の復興にかゝる ◎  
 法起寺の西、數町全郡全村大字三井に法輪寺あり古義眞言宗に屬し  
 推古天皇二十一年聖徳太子の創建し給ひしものにして御子、山背大  
 兄王に至りて完成せり南門外に大兄王の御墓あり寺の西方の山中に  
 古墳多く俗に千塚といふ當寺も亦數度の災に遇ひて今は只創立當時  
 のものとして三重の塔を存するのみ特別保護建造物に屬す寺内の什

法起寺

法輪寺

筒井

法隆寺

寶にして國寶に編入せられあるは下の如し木造薬師如坐像一軀、木造十一  
立像一軀、木造聖觀音立像一軀、木造虚空藏菩薩  
一軀、木造吉祥天立像一軀。 ◎小泉と鐵道線路を挟みて東方に生駒郡筒  
井村大字筒井あり筒井順慶の城居せし處にして曾ては大和全國をも  
威歴せんずる勢ありし城下なり順慶の墓あり  
 ◎法隆寺 法輪寺の南十二町、法隆寺停車場より四十八町にして生  
駒郡法隆寺村大字法隆寺に法隆寺あり此の附近は古への所謂斑鳩の  
里なれば此の寺をも亦斑鳩寺と稱す法相宗の大本山にして南都七大  
寺の一なり聖徳太子、用明天皇の勅を奉じて推古天皇元年より十五  
年迄の間に創建せられしものにて現今の境内は二萬八千四百九十七  
坪あり創立以來災禍にかゝりしことなしと傳ふれども書紀天智紀九  
年の條、夏四月癸卯朔壬申夜半之後に法隆寺に災つけり一屋も餘  
ることなしとあればいづれか信なるか輕忽に斷言し難きも斯道の士



の鑑識によれば金堂、五重塔、中門は確かに推古式の建築なりと云へば縦ひ天智の御代に焼失したりしとするも直ちに舊態に基きて建立せられ、その後災厄に遇はざれば日本全國中恐くは此の寺の如く舊態を多く存し居るものはあらざるべし従て保護建造物及國寶の數も亦莫大にして皇室に奉獻せしものも尠からざれども尙希代の絶品なる推古天皇の御物たりし玉虫厨子、光明皇后の御母橘三千代夫人の念持佛を奉安せし橘夫人厨子等は實に得難き國寶なりとす

寺 特別保護建造物

金堂、中門、五重塔、夢殿、上御堂(上堂)、大講堂、鐘樓(西院伽藍鐘樓)、經藏(西院伽藍經藏)、廻廊、東院南門(不明門)東院四脚門、東院禮堂、東院廻廊、東院鐘樓、東院傳法堂、東院舍利殿及給殿、南大門、西園堂(西北園堂)、聖德院(豐聰院)、食堂及細殿、

寺所有に 國寶

釋迦如來金銅坐像(鞍作止利作)一軀、全脇士金銅立像(全上)二軀、屬する 藥師如來金銅坐像(全上)一軀、全脇士金銅立像(全上)二軀、觀世音菩薩木造立像(夢殿安置)一軀、四天王木造立像(藥師德保。山口大口等作)四軀、阿彌陀三尊金銅坐像(傳橘夫人念持佛)三軀、玉虫厨子一基、木造天蓋三個、蓮花厨本若色二

曲屏風(傳巨勢金剛筆)一隻、觀世音菩薩乾漆立像(傳百濟人作)一軀、九面觀音木造立像(傳聖德太子作)一軀、行信僧都乾漆坐像一軀、觀世音菩薩木造立像(金堂安置)一軀、橘夫人念持佛厨子一基、金銅彌陀三尊像(康勝作)三軀、木造若色勒勒僧正坐像一軀、銅造觀世音菩薩立像(傳鞍作止利作)一軀、木造藥師如來。阿彌陀三尊像、木造藥師如來坐像一軀、木造吉祥天多聞天立像二軀、木造四天王立像(上堂四天王)四軀、木造梵天帝釋天立像二軀、聖造道經律師坐像一軀、絹本着色星雲茶羅圖一面、紙本着色扇面古寫經一幅、絹本着色孔雀明王像一軀、絹本着色毘沙門天像一面、絹本着色五尊像一軀、乾漆藥師如來坐像、西園堂安置)一軀、木造藥師如來。阿彌陀三尊像(新堂安置)三軀、木造聖觀音立像(夢殿觀音前立)一軀、木造聖德太子。脇士山背王。天田王。殖栗王。惠慈法師坐像五軀、木造如意輪觀音坐像(聖德院安置)一軀、木造地藏菩薩立像(全上)一軀、木造四天王立像(新堂安置)四軀、聖造文殊菩薩維摩居士及侍者坐像、五重塔東面安置)七軀、聖造男裝及女裝侍者坐像(全西面安置)二軀、聖造彌勒菩薩坐像(全南面安置)一軀、聖造涅槃釋迦佛及侍者像(全北面安置)三軀、金銅釋迦如來文殊菩薩像(一座背二戊午年云々ノ銘アリ)二軀、金銅藥師如來坐像(傳藥師胎内佛)一軀、木心乾漆阿彌陀如來阿彌陀三尊像三軀、金銅誕生釋迦佛立像一軀、金銅觀世音菩薩立像五軀、隨製金銅三尊像二面、聖造四天王立像四軀、木造阿彌陀如來坐像一軀、木心乾漆彌勒菩薩像一軀、木造文殊菩薩菩薩立像二軀、木造日光月光菩薩立像二軀、乾漆觀音勢至菩薩立像二軀、木造觀音勢至菩薩立像二軀、木造地藏菩薩立像一軀、木造舞樂面五面、木造善女龍王立像一軀、銅蓋一口

計百十九點



金堂

●金堂 人造石を基礎として建ち東西十二間四尺、南北十一間、重層にして裳階あり壁の内方に壁畫あり彩色にしてその赤色は赤珊瑚を紛末にして用いしものなりと唐僧曇徴の筆と稱す

五重塔

●五重塔 高廿五間、廣五間半四方にして數多の塑像を安置す

講堂

●講堂 藤原式にして薬師を本尊とす

中門

●中門 仁王門と稱す、桁行六間五尺、梁間四間二尺二寸、樓門造りにして樓上に孝謙天皇の供養せられしものと傳ふる百萬塔數多を藏む仁王は一種異様の形貌を有し鳥佛師作と傳ふれども、然らざるべし中門を前として廻廊を廻らし金堂、五重塔を中に包みて廻廊の両方に鼓樓、鐘樓あり最後に講堂を連ねて自ら一廓をなす是れ即ち中院なり

中院

●上御堂 講堂の後にあり舍人親王の祈願によりて創立せしものにして現時の建物は慶長年中の再建なり

上御堂

西圓堂

●西圓堂 橋夫人の本願によりて行基菩薩の建立せしものにして現今のものは建長年中の重修にかゝる

豊聰殿

●豊聰殿 又聖靈院太子堂とも云ふ聖德太子三十五歳の時の御像を安置す建物は鎌倉式なり

食堂

●食堂及細殿 毎年正月朝拜式を行ふ處とす

網封藏

●網封藏 往古勅封なりしが故に勅封藏と稱せしがいつれの時よりか勅封を解かれしより網封藏と稱し寶物を藏する所なり

東院

●東院 東大門以西の一廓は即ち西院にしてその東方の一廓を東院と稱す聖德太子宮居の地にして山背大兄王も相續ぎて此に居住し給ひしが蘇我氏の爲めに兵燹にかゝる聖武天皇天平十一年行信大僧都の重興せしものなり故に中にある建築物は凡て天年以後にかゝる夢



中宮寺

殿、繪殿、舍利殿、傳法堂等あり。  
○中宮寺 法隆寺の東北に接し眞言律宗に屬して班鳩尼寺と稱せしは是れなり聖德太子の御母、穴穗部間人皇女が推古天皇の十五年に建立せられしものにして今の堂宇は天文年中の重興なり什寶、天壽國曼荼羅圖は有名なるものなり

廣瀨神社

寺所有に 國寶 木造如意輪觀音半伽像(傳聖德太子作)一軀、天壽國曼荼羅圖刺繡掛幅(東漢末至隋等畫采女等繡)一幅。  
○官幣大社廣瀨神社 法隆寺停車場より南凡二十餘町北葛城郡河合村大字川合にあり祭神若宇迦能賣命、天武天皇白鳳四年の創建にかゝる天武天皇廣瀨行宮址は神社の南十町餘なる箸尾村大字大野の地なりとの説あり

龍田

○龍田 法隆寺の西十町餘にして龍田町あれど古の龍田は此の地にあらずして王寺停車場の西敷町、大和川を渡りて生駒郡三郷村大字

龍田神社

立野の附近なり故に土俗立野附近を古龍田と稱し今の龍田町を新龍田と呼ぶ

○官幣大社龍田神社 立野にあり天御柱命、國御柱命を祭り風神なり崇神天皇の御代、五穀の豊饒を祈りて創建せられしものと傳ふ今の龍田町には攝社を祭る

龍田山

○龍田山 立野の西方、大和川の北方に沿ひて河内に越ゆる山道あり立野越と云ふ古へ大和に都のありし時、西方に往來するもの此を通過せしものにて所謂龍田山なり萬葉集六に「白雲の竜田の山のつもじもに色つく時」にうちこえて旅行くきみは云々」とあり

龍田川

○龍田川 龍田町の西方を流るゝ生駒川の下流を龍田川と稱し兩岸に楓樹あり秋色掬すべし古へは此の下流及びそが大和川に注ぐ所より下方立野の邊までをも包みて龍田川と稱せしものゝ如し



朝護孫子寺

○朝護孫子寺 王寺停車場より西北凡三十町、信貴山脈にあり生駒郡平郡村大字信貴畑に屬す信貴山歡喜院と稱し眞言宗の寺院にして毘沙門天を祀る聖德太子、守屋を攻んとせられし時、此の山にて毘沙門天に祈願し戦捷の後、堂宇を營まれしと傳ふる所にして爾來崇敬するもの多く楠正成の如きも此の佛に祈りて得たる兒なればとて幼名多門丸と號すと稱せられ其の遺物と傳ふるもの今尙寺内に存せり護良親王も嘗て此の寺坊に御駐在あらせられしことあり後、松永久秀此の寺の上方に城を築きて信貴山城と號し居住せしが天正五年豐臣秀吉の爲に亡ばされ寺坊も時の兵火にて烏有に歸したれば今の堂宇はその後の築造にかゝる參詣するもの常に絶へず城址は雄峯雌峯の間に存す

寺所有に屬する

國寶

紙本着色志賀山縁起(傳書僧覺猷筆詞書藤原行成筆三卷、武器類(兜一頭○神一隻○埃輪一懸○傳楠正成所用)

孝靈天皇陵

○孝靈天皇片丘馬坂上陵 北葛城郡王寺村大字王寺にあり周圍百三十六間三尺五寸、南面す

第四 王寺五條間

顯宗天皇陵

○顯宗天皇傍丘磐塚丘南陵 北葛城郡下田村大字北今市にあり周圍百四十四間四分、西南面す

武烈天皇陵

○武烈天皇傍丘磐塚丘北陵 北葛城郡志都美村大字今泉にあり周圍四百廿一間三分、東面す

高田町

○高田町 北葛城郡役所の所在地にして人口六千餘、木綿織を産す大和紡績會社あり資本金四拾參萬餘圓、一年の綿糸産額貳拾六萬餘圓とす

浮穴宮址

○浮穴宮 高田の南方浮穴村大字三倉堂に安寧天皇浮穴宮址あり

當麻寺

○當麻寺 高田町の西方一里餘、北葛城郡當麻村大字當麻にありて



眞言、淨土の二宗に屬す役小角の練行せし處と稱してその後、天武天皇 白鳳二年伽藍を此に營めるより藤原豊成の女、中將姫も此に修行せられしことあり建築物、什寶等尠からず今の建築は概ね鎌倉時代のものなるが如し

寺 特別保護建造物 東塔、四塔、大堂(曼荼羅堂)金堂、講堂、寺所有に 國寶 淨土曼荼羅繪本特色掛幅(傳法橋經舞經)一幀、紙本着色法然上人行狀繪卷(傳詞伏見。後伏見兩帝宸翰等。滿吉光筆)四十八卷、俱利伽羅龍繪卷一合、

御所町

○御所町 南葛城郡役所の所在地にして人口五千餘、大和紵は多く此地方より出す奈良縣工業學校あり

茅原寺

○御所の東方掖上村大字茅原に吉祥草寺一名茅原寺あり役行者の誕生之地なりと稱せらる

噺間丘

○噺間丘 掖上村大字柏原にある丘陵にして神武天皇の國見をせら

孝安天皇御陵

れし地、今は本馬と稱する地名遺れり、  
○玉手丘 全村大字玉手にある小丘なり孝安天皇玉手上陵は丘上にあり周圍三百九十六間三尺、南面す

金剛山

○金剛山 御所町より西南凡そ二里にして全山麓に達す片麻岩より成れる高凡四千尺の山嶺にして頂上に葛城神社あり金剛山寺は荒廢して存せず雄略天皇御狩の址と稱するあり頂上より望めば千早、赤坂は眼下にして河内平野より大阪、堺地方迄一望の中に入る山中に正成の秘水と稱するあり、千早城址は山上より十餘町西方に下り河

孝昭天皇陵

内國千早村の上方にあり  
○孝昭天皇掖上博多山上陵 南葛城郡三室村にあり周圍百五十

日本武尊

八間八分、南面  
○日本武尊白鳥陵 全郡秋津村大字富田にあり



武内宿禰墓

◎武内宿禰室墓 全郡全村大字室なる鉢伏山にあるものこれなりと稱せらる

巨勢山

◎巨勢山 鉢伏山の脈南に延びて葛村大字古瀬の西方に連る邊、古の巨勢山にして萬葉集一に「巨勢山のつらつら椿つらくくに見つゝ思ふなこせの春野に」持統天皇紀伊に御幸の時坂戸人足作れる歌とあり

葛

◎葛 停車場所在地にして吉野三に行くものは此よりするを便とす 鑛泉あり

五條町

◎五條町 宇智郡役所の所在地にして人口凡八千奈良縣立五條中學校の所在地なり幕末、天誅組の根據とせし地として有名なり

榮山寺

◎榮山寺 五條の東方、宇智村大字小島にあり役小角の開基せし地と稱せられ元正天皇養老年中藤原武智麻呂の創立せし寺院にして全

音無川

氏の墳墓あり八角塔は武智麻呂の子、豊成の建立の儘にて特別保護建造物なり銅鐘は銘文、小野道風筆と傳へられて國寶に屬す  
◎音無川 吉野川は榮山寺の前方に至りて流石の急流も靜沈碧潭となる風光誠に好し音無川と稱す

涅槃經碑

◎涅槃經碑 五條より榮山寺に行くに溪流を過ぐ不動橋と云ふ小橋を架す、其下流數間にして左岸の絶壁に佛像を刻し涅槃經を彫す寶龜二年の作物なり

第五 吉野郡地方

上市町

◎上市町 吉野郡役所の所在地にして人口二千餘を有す吉野郡は奈良縣全部の半以上の面積即ち百三十二方里を有すれども山地なるが故に人口は一方里に七百餘人に過ぎず多く山林を以て業となして木種は檜、杉を主とし北山、十津の兩川を下して紀伊の新宮に出すも



吉野山

のと吉野川を経て和歌山に出すものあり故に其の盛衰は此の二地方と密接の關係を有す

●吉野山 天武天皇の御製「よき人のよしとよく見てよしと云ひし吉野よく見よよき人よく見つ」ありしが如く櫻の名所として宇内に冠たり上市よりするものは櫻の渡しを渡り飯貝をすぎて二十餘町にして山麓に達すシレ坂を上げれば即ち吉野山なり山頂凡そ一里を逍遙して六田の渡しに出るをよしとす六田の渡しよりするものは敷町にして山麓に達す六田坂を上りて前者と反對に廻りて上市に出づ此の方を便なりとす丘陵の上を歩しながら山頂山腹に繁茂する櫻を賞するなり山上に小市街あり旅店多し吉野葛、櫻漬、櫻皮細工等の名産あり

吉野神社

●宮幣大社吉野神社 後醍醐天皇を本殿に祭り藤原資朝、全俊基、兒

後醍醐天皇

嶋範長、全高德、櫻山茲俊、土居通増、得能通綱を攝社に祀る  
●後醍醐天皇塔尾陵 如意輪寺の附近にあり兆域周圍百二十五間一分、北面

行宮址

●行宮址 吉水神社は古へ吉水院と云ひしものにして此の地と實城院址とは行宮址なるが如し

山内古蹟名所

●村上義光忠烈碑、嵐山、口千本、一橋、隠松、關屋の櫻、銅鳥居二王門、四本櫻、南門址、寶城院址、吉水神社、山口神社、袖振山村、義隆墓、如意輪寺、藤本鐵石招魂碑、正行公埋骨塚、世泰親王墓、如意輪塔址、井光井古跡、竹林院、椿山寺址、中千本、禪定寺址中院谷、花檜、吉野水分神社、金峰神社、西行庵址、安禪寺址、等名所舊蹟枚舉に遑わらず

●山内 特別保護建造物 吉野水分神社社殿、金峯山寺本堂(藏王堂)



山内諸社 寺所有 國寶 (吉野水分神社の分)木造天萬栲幡千幡姫命坐像一軀、木造玉依姬命坐像一軀、

(吉水神社の分)御願文紙本遺書(傳後醍醐天皇宸翰)一卷、色々威腹巻一領、(金峯山寺の分)金銅經函三合、

(如意輪寺の分)木造厨子入藏王權現立像一軀、

瀧宮址

瀧宮址 天武持統兩帝が時々御巡幸ありし瀧宮離宮の遺址は今

の國栖村大字宮瀧にあり

下市町

下市町 人口八千餘、吉野川の左岸にありて千石橋を架す小説に

名ある平維盛の隠家なりし鮎屋お里、江上權太の家は今尙存し鮎

屋と稱して旅宿を営む信偽は保せず

◎奈良縣立農林學校 下市の對岸なる下淵に在り

穴太行宮址

穴太行宮址 賀名生村大字和田なる堀氏の宅はその古址なりと稱

す邸は山を負ひ川に臨む山上に黒木御所の址と稱する地と北島親房

の墓と稱するものとあり

出上山嶽

出上山嶽

◎大峰山上嶽 吉野郡の殆ど中央に峙ち海拔六千餘尺、役行者の行

場にして山上詣りと稱して行く者尠からず天川村大字洞川より上る

を便とす

十津川郷

十津川郷

◎十津川郷 十津川に沿ひて南北十三里に亘る山峽に部落を爲し所

謂郷士にして多く山林を業とす風物自ら他地方と異なり橋は多く針

金橋にして徒涉渡船の成らざる時は「ヤエン」と稱する一種の籠渡

を用ふ

北山郷

北山郷

◎北山郷 北山川に沿へる部落にして十津川郷と略相似たりかの有

名なる瀨八町は此川の下流なり

第六 高田櫻井間

八木町

八木町

◎八木町 畝傍停車場の所在地にして人口三千八百餘、高市郡役所

奈良縣立畝傍中學校等あり西方、今井町と連接して殆ど一市街の如



大和三山

き観あり両町の界を流るゝはかの有名なる飛鳥川なり川幅二、三間水量多からず殆ど佐保川と等し

●耳成山 磯城郡耳成村大字木原にあり播鉢を伏せたる如き形の小丘にして樹木鬱蒼たり

◎香久山 全郡香久山村大字南浦にあり耳成山より南凡十餘町

◎畝傍山 高市郡白檀村大字畝火にありて香久山の西方凡十五町に當る以上を大和三山と稱し藤原宮の周圍に鼎立し歌詠に有名なるは

人の皆知る所なり中につきて畝傍最も高く六百餘尺あり香久山之に次ぎ耳成山最も低し畝傍停車場に立ちて之を望めば埴安の池ならねど今昔の感無きこと能はず

藤原宮址

◎藤原宮址 高市郡鴨公村大字高殿の邊、その宮址なりと云ふ

綏靖天皇

◎綏靖天皇桃花鳥田丘上陵 全郡白檀村大字四條にありて畝傍驛よ

神武天皇

り十町南にあり周圍百四十六間四分、南面西表  
●神武天皇畝傍山東北陵 全郡全村大字山本と大久保との間に在りて綏靖天皇御陵より南凡三町畝傍山の東北麓に位す兆城周圍四百四十七間四分、南面東表

檀原神宮

●官幣大社檀原神宮 全郡全村大字畝火にあり神武天皇皇居の地にありて今の宮殿は内侍所拜殿は神嘉殿を移されしものなり祭神、神武天皇、媛蹈鞬五十鈴姫皇后の二柱とす

安寧天皇

●安寧天皇畝傍山西南御陰井上陵 全郡白檀村大字吉田にあり周圍二百九十二間二尺、東面

懿德天皇

●懿德天皇畝傍山南織砂溪上陵 全郡全村大字池尻にあり周圍二百八間、南面

宣化天皇

●宣化天皇身狹桃花鳥坂上陵 全郡全村大字鳥屋にあり周圍二百七



孝元天皇

十九間、北面  
○孝元天皇劔池嶋上陵 全郡全村大字石川にあり周圍三百五十七間三尺、西面南表

久米寺

○久米寺 全郡全村大字久米にあり眞言宗最初の寺にして聖徳太子の弟、來目皇子の創建せる處と傳へ元亨釋書は久米仙人の開基と稱す空海の留錫せし地なり本堂、多寶塔、鐘樓等の建築見るべきもの尠からず

天武天皇  
持統天皇

○天武天皇持統天皇檜隈大内陵 全郡高市村大字野口にあり周圍百十八間四分、南面

欽明天皇

○欽明天皇檜隈大内陵 全郡坂合村大字平田にあり周圍四百四十六間一尺五寸、西面す陵後に陪塚の崩壞して石棺を顯はし居るあり土人鬼廻など稱して田畝の間に存す

文武天皇

○文武天皇檜前安古岡上陵 全郡全村大字栗原にあり周圍百四十二間三分、南面東表

齊明天皇

○齊明天皇越智岡上陵 全郡越智岡村大字車木にあり周圍百八間七分、東南面

高取町

○高取町 高市郡に屬し人口三千五百餘人、古へ大和國府の在りし地にして南北朝の末、越智氏此に據りし事あり徳川氏の代に至りて楠村氏に歸し明治に至る市南の山上に城址あり町内に千壽院ありその紫綾金銀泥繪兩界曼荼羅圖二幅は國寶に屬す

壺坂寺

○南法華寺 一名壺坂寺と稱し高市郡高取町大字壺坂にあり眞言宗にして養老年中の開基と稱し本堂に千手觀音坐像を祀る西國巡禮の札所なり此の寺のある山を越れば吉野に至るを得べし道路左程險しからず



橋寺

寺所有に 國寶 浮刻鳳凰碑一枚、

○橋寺 一に佛頭山王宮王院菩提寺と稱し全郡高市村大字橋にあり推古天皇十四年聖德太子の創造せられし地にして當時は廣大壯麗なるものなりしが今は僅に其の十に一を存するのみ建築物も多く近代の重修にかゝる金堂に聖德太子の木彫立像を安置す

寺所有に 國寶 絹本着色太子繪傳(傳土佐光信筆)八幅、木造日羅立像一軀、

岡寺

○岡寺 一に龍蓋寺と稱し全郡全村大字岡にあり天智天皇の勅願により岡本宮を賜ひて義淵僧正の開基せし所にして本堂に如意輪觀音坐像を祀り西國巡禮の札所なり堂坊は皆創始のものにあらざれども古制に據りて結構したるものなれば斯道の士の研究に價ありと云ふべし岡本宮は即ち岡寺なり

寺所有に 國寶 天人浮刻磚(傳岡本宮腰瓦)一枚、銅造如意輪觀音立像(傳嵯峨文首作)一軀、塑造如意輪觀音坐像一軀、木造淨觀僧正坐像一軀、

弘福寺

○弘福寺 全郡全村大字川原にあり齋明天皇の皇居にして後、寺院となり川原寺と稱して盛大なるものなりしが今は茅舎一字を殘留するのみ寺内什寶なる木造持國天、多聞天立像二軀は國寶なり

第七 奈良櫻井間

帶解地藏院

○帶解地藏院 帶解寺と稱す添上郡帶解村大字今市にあり傳へ曰ふ文德天皇の皇后明子御懷妊の折、當院の地藏尊に祈りて御安産あり清和天皇と申すと、それより庶人の崇敬深く今に於ても安産地藏尊と稱して參詣するもの絶へず

弘仁寺

○弘仁寺 全郡五ヶ谷村大字虚空藏にあり古義眞言宗にして弘仁五年小野篁の創立する處なりと傳ふ堂坊災禍に遇ふて舊觀を留めず什寶中木造明星菩薩立像は空海作と傳へて國寶に列す

天理教會本部

○天理教會本部 山邊郡丹波市町大字三島にありて參詣者常に絶へ



丹波市町

す非常に盛大を極む三嶋はそが爲めに一市街をなすに至れり教祖は明治二十五年に歿し眞道彌廣言知女命と稱す近年教會に屬する中學程度の學校を新築す名けて天理教校と云ふ

石上神宮

○丹波市町 停車場所在地にして山邊郡役所のある所なり人口八千餘 天理教會本部の在る所なるを以て近年益々膨脹す  
○官幣大社 石上神宮 丹波市町大字布留にありて市街の東方凡十町許、布留山の西麓にあり崇神天皇七年の創始にかより布都御魂神を祭る什寶の中、勾玉類十一個、色々威腹卷、兜、壺袖付一領は國寶に屬す

柳本村

○柳本村 磯城郡に屬し停車場のある所にして此の地と織田村大字芝とは織田氏の藩地にして柳本藩と稱せし地なり  
○官幣大社 大和神社 柳本驛の北凡十町、山邊郡朝和村大字新泉に

大和神社

在り石上神宮と共に崇神天皇の代に創始せられしものにして大神神社の荒御魂と稱せらる、倭大國御魂神及八千戈神、御年神の三柱を祭る

崇神天皇陵

○崇神天皇山邊道勾丘陵 磯城郡柳本村大字柳本にあり周圍六百二間五尺、西面

景行天皇陵

○景行大皇山邊道上陵 全郡全村大字澁谷にあり周圍六百二十間、西面

三輪町

○三輪町 三輪停車場磯城郡役所の所在地にして人口三千六百餘、所謂三輪素麵は此の附近より産す

大神神社

○官幣大社 大神神社 三輪町の東方に接して樹木鬱蒼として壯嚴なる丘陵は即ち三輪山一名三諸山にしてその西麓に大神神社あり大物主神を祭る崇神天皇の朝に著はれたる神靈なり攝社大直彌子神社



海榴石市

殿は特別保護建造物なり、印の杉の古木は其の根部のみを遺す

◎海榴石市 歌垣を以て有名なりし地にして三輪山の西南麓にあり

纏向

◎纏向 三輪町の東北に今纏向村あり纏向珠城宮、全日代宮と稱へしは全村大字穴師に作る 昔し痛足の附近ならん

笠縫邑

◎笠縫邑 所在分明ならず或は曰ふ織田村の東部、三輪山の西北麓に接して茅原と云ふ地ありその附近ならんかと

櫻井町

◎櫻井町 奈良鐵道の南端にして關西鐵道高田線の東端なり人口四千六百許、交通の衝に當りて商業盛なり町内に聖林寺あり什寶中乾漆十一面觀音立像一軀は國寶に屬す

文殊院

◎文殊院 櫻井町の西南凡十町、安倍村大字阿部にあり大化元年僧道昭の開基に屬し本堂に文殊菩薩坐像を祀る參詣者常に絶へず木造文殊菩薩及脇士像四軀何れも國寶に列す

田原本町

◎田原本町 櫻井町の西北凡二里、全じく磯城郡に屬して人口三千餘を有する小都會にして田原本藩と稱して平野氏陣屋のありし所なり

崇峻天皇陵

◎崇峻天皇倉梯岡上陵 磯城郡多武峰村大字倉橋にあり周圍百四十四間五分、西面北表

舒明天皇陵

◎舒明天皇押坂内陵 全郡城島村大字忍坂にあり周圍二百三十五間四尺、南面

談山神社

◎別格官幣社談山神社 全郡多武峰村大字多武峯にありて櫻井町端より五十町と稱す談山の半腹に位す藤原鎌足を祀る社内一萬五千三百餘坪にして昔時は堂舎も多かりしものなりしが今は荒廢に屬せしもの尠からざれども尙神殿、十三層塔婆を始め樓門、透廊等の建築三十餘宇を存し丹碧を以て塗り往時の面影を遺せり櫻、楓多く春秋



鎌足墓

の遊興も亦深し  
○鎌足墓 は本社（かみたりのはか）の北六七町字高嶽（たかねがけ）にあり御破裂山（おはれつやま）と稱して天下災異（あまのわざ）の時は墓側（はか）缺潰（くわくくわい）し之を豫報（よほう）すと稱せられたり

社 特別保護建造物 塔婆（十三重塔）

社所有に 國寶 銅鑿盤（此栗原寺云々ノ銘アリ）一個

長谷寺

○長谷寺 三輪（はつせまち）或は櫻井より東方一里にして初瀬町ありその北端にあるは即ち新義真言宗（しんぎしんげんしゅう）の本山なる長谷寺なり元正天皇（げんせい）養老四年（やうらう）より聖武天皇（せいぶ）神龜四年（しんき）に至る迄の間に建築せるものにして元亨釋書（げんこうしやくしょ）は沙彌德蓮（さみとくれん）の發願（はつがん）にして藤原房前（ふじはらふさきまへ）工事を助け行基僧（ぎょうきそう）正落慶（せいらくけい）せりと記す山に據りて屋を構へ二王門（にわうもん）より本堂（ほんどう）に至る迄、百九間半の間に登廊（とうらう）を架し兩側に牡丹（ぼたん）を植う本堂に木造十一面觀音立像（じゅういちめんくわんおんたつざう）を祀る長二丈六尺西國巡禮（さいこくじゆんれい）の札所（さしよ）にして參詣者常に絶へず境内（けいだい）に貫之梅（つらゆきうめ）あり蓋し當地

は紀貫之（きのつらゆき）の故郷（こきやう）なれば古今集（こきんしゅう）一人はいさ心も知らず古郷（ふるさと）は花（はな）と昔（むかし）の香（か）に匂（にお）ひける」に因（よ）めるものなり

寺所有に 國寶 銅盤法華說相圖（千体釋迦板佛）一面

泊瀬

初瀬町の西方（はつせのなま）に泊瀬列城宮址（はつせりやくじょうみやぢ）、泊瀬朝倉宮址（はつせあさくらみやぢ）あり

鳥見丘

○鳥見丘 神武天皇（じんむてんおう）靈（たま）畔（はた）を設けて皇祖天神（こうそてんじん）を祭り給ひし鳥見丘は今櫻井町の東、城島村（しろしま）に大字外山（おほのうぢやま）と云ふあればその附近より東方初

瀬町の方の山をば鳥見丘と云ひしものか

室生寺

○室生寺 櫻井町の東方凡七里、宇陀郡室生村大字室生（むろな）にあり眞言宗（しんげんしゅう）に關し天長元年（てんてう）空海（くうかい）の創始（そうし）にかゝり土俗女人高野（どぞくによんこうや）と稱す本堂、金堂、五層塔（ごそうたう）は創立當時（そうりつじゆうじ）の舊態（きうたい）のまゝなり

寺 特別保護建造物 五重塔、金堂、本堂（瀧頂堂）、

寺所有に 國寶 如意輪觀音木造坐像（傳空海作）一軀、木造彌勒菩薩立像（傳全上）一軀、木造釋迦如來立像（傳空海作）一軀、木造藥師如來立像（傳全上）一軀、木造



猪坂

造文殊菩薩立像(傳全上)一軀、木造十一面觀音立像(傳聖德太子作)一軀、

○猪坂 宇陀郡の南方、吉野郡高見村に接する地に宇賀志村大字宇賀志あり、古の猪坂は此の地方か墨坂は宇陀郡榛原町西方の坂路なりと云ふ説あり

百十

# 奈良名勝誌終

附 大和名勝

明治三十六年三月一日印刷  
明治三十六年三月七日發行

(定價金拾五錢)

不許複製

奈良市橋本町十四番屋敷

編輯兼發行者 木原近藏

大阪府西區阿波座一丁目六十番屋敷  
大阪製本印刷株式會社代表者

印刷者 矢野松吉

奈良市三條通橋本町

發賣元 木原文進堂



卷之三

水滸文、錄

卷之三

甲 觀 卷 文 類 錄 吉

大 國 志

大 國 志

水 滸

水 滸 文 類 錄

卷之三

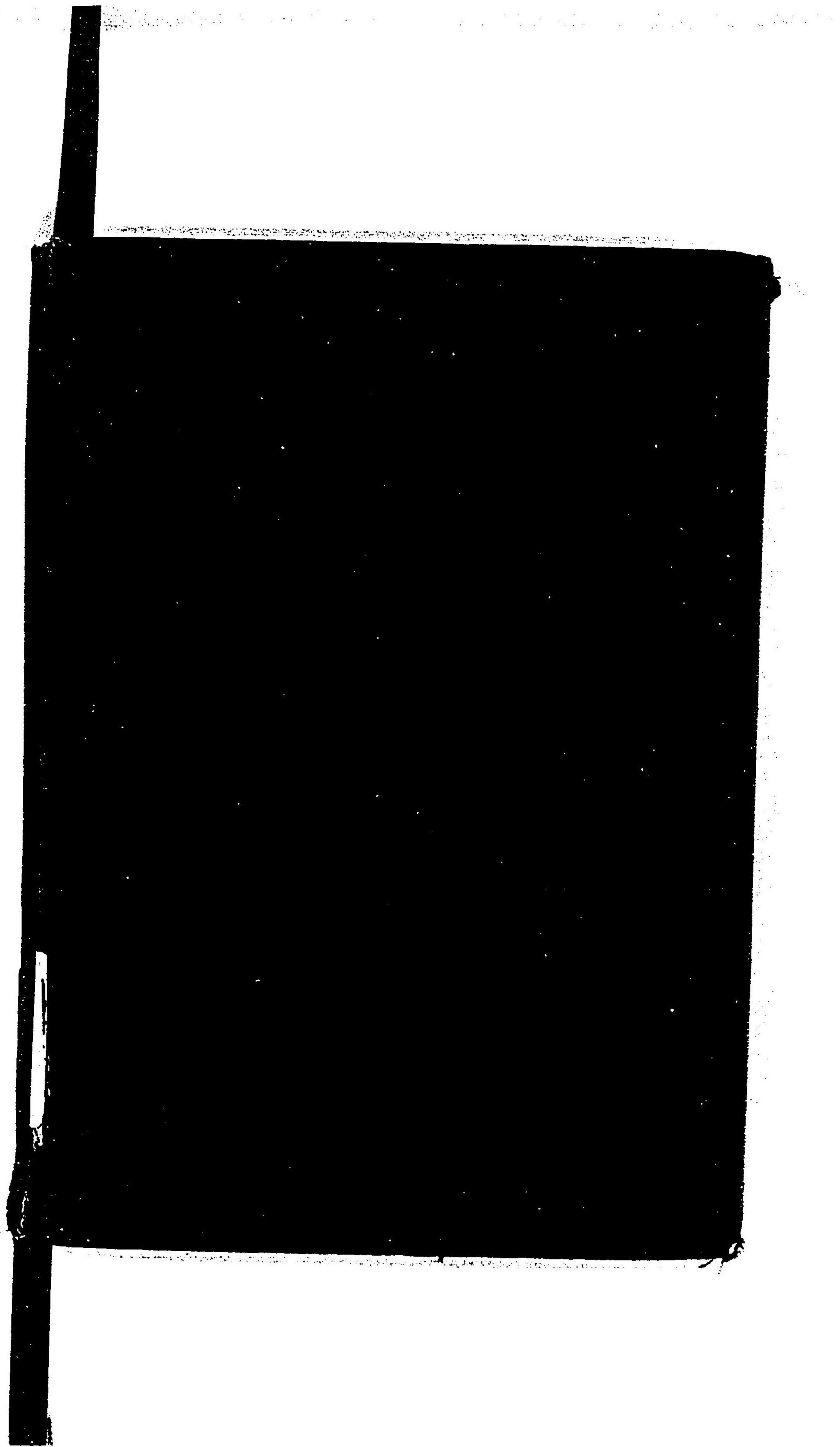
卷之三

25

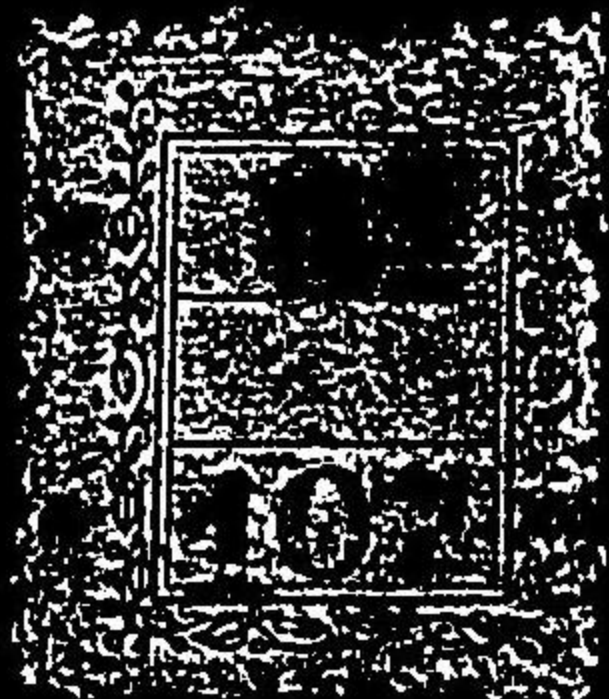


94  
107









025572-000-5

94-107

奈良名勝誌

木原 近蔵/編

M36

ADC-3063





